

# 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 《 グローカル型 》

## 令和2年度 研究開発実施報告書 【 第2年次 】

外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト  
～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～

*Rainbow Bridge Project! -Think Globally, Act Locally-*



名古屋石田学園 星城高等学校



## 目 次

まえがき	四方 元	1
1. 研究開発の概要		3
2. 研究開発の組織		7
3. 研究開発の内容		
(1) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学Ⅰ】		1 1
(2) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学Ⅱ】		4 3
(3) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 英語Ⅰ】		7 5
(4) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 第2外国語】		8 1
4. Think Global 探究【アラカルト講座】		8 5
5. Act Global 探究【オンラインツアー】		9 0
6. 探究成果の発表		9 3
7. 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会		9 7
8. 目標設定の達成度と活動評価		1 2 1
『新型コロナウイルス禍における地域協働への挑戦』	古藪 真紀子	1 3 5
あとがき	伊藤 泰臣	1 4 0

## まえがき

星城高等学校 校長 四方 元

「地元から（東京に向けてではなく）世界に向けて発信」

これは、Glocal High School Meetings 2021\*<sup>1</sup>（以下、GHM2021と略記する。）の審査委員長である立教大学の松本茂教授が、GHM2021の開催に際してご教示くださった講話「探究学習のすすめ」の中で訴えられた言葉です。私はこの言葉に深い感銘を受けました。

この言葉はSGL\*<sup>2</sup>に欠けていた視点をあぶり出すとともに、SGLの進むべき方向を明確に指し示しています。併せて、この言葉のもつスケールの大きさは、SGLを推進する上で遭遇する様々な困難を乗り越えようという勇気を奮い立たせてくれます。

SGLは「総合的な探究の時間」の「SGL地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と「学校設定教科」の「SGL語学」が学習の2本柱になっています。このうち、SGLの中核ともいべき「SGL地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は「Think Local」「Think Global」「Act Local」「Act Global」の4章を往還する構成にしています。その中の「Think Global」「Act Global」は、主にグローバルな視点を育成することがねらいです。例えば、SDGsの学習を通して共生・協働の重要性を学んだり、マレーシアでの現地研修で、多文化・多宗教・多言語・多人種共生社会などを体感したりします。つまり「SGL地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、大雑把に言えば、世界を教材にしてグローバルな視点を育成するとともに、その視点から地域課題について探究（Think Local）し、その地域課題を実際に地域の人々と協働して解決を図る（Act Local）という骨組みになっています。そして、この探究学習は、自信をもって他に語る事ができるほどの成果を上げていると自負しています。しかし一方で、厳密な意味での「Act Global」が欠落していたことも事実です。このことに気づかせていただいた「世界に向けて発信」という言葉に、私は大きな反省とともに深い感銘を受けたのです。

---

\*1 Glocal High School Meetings 2021は、文部科学省が指定する「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローカル型」の関連校34校の代表生徒が、1月30日にオンライン上集って行った探究成果の発表会である。本校を初めとする4校が委員会を組織して運営・開催し、文部科学省が共催した。

\*2 SGLは本校が行っている「Super Glocal Leader 育成活動」の略称である。これは、文部科学省の研究指定を受けて昨年度から実施している「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 グローカル型」のカリキュラム開発事業であり、本校の仰星コースと特進コースの生徒を対象に、各学年の総合的な探究の時間等に行っている授業である。

「学校設定教科」の「SGL 語学」、とりわけその中の「SGL 英語 I」では、場面や目的に応じて自分の考えを英語で相手に伝える Speaking 技能と、必要な情報を英語で理解する Listening 技能を中心に、英語での会話力と発信力の育成に取り組んでいます。これは「Act Global」＝「世界に向けて発信」を支える学びです。しかし、SGL の本体ともいえるべき「SGL 地域協創学 I・II・III」に「世界に向けて発信」という明確な意思を欠いていたのも事実です。

本校の建学の精神の一つに「世界観の確立」があります。これについては、創立者石田鑑徳先生が、敗戦間もない昭和 22 年に、人間の犯す最大の愚行である戦争の原因が、人が「井底の蛙であること」そして「夜郎自大であること」にあると喝破し、次代を担う青少年に「四海同胞、世界一家という観念は、もはや言語上の修飾ではなくなった」と語りかけられたことで、その意味を明確にされています。また「いやしくも学に志す者は、すべてにおいて世界的たれ。しからば井底の蛙は、九万里の空高く飛翔する鳳鳥たり得んか」と、本校の指導方針を示されたのです。

松本先生から教えていただいた「世界に向けて発信」というのは、創立者の言う「九万里の空高く飛翔する」ことであり、この意欲が欠落していたのでは星城高校の SGL は完成しないと言えるのです。換言すれば、「世界に向けて発信」との方針は、SGL が建学の精神を体現する生徒を育成するための絶対の視座と言えるのです。

昨年のこの誌上で、私は「人間性の本質は高齢者を守ることにあると言っても過言ではない」と述べました。SGL では「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」も達成目標の一つです。これは人間性の発露であり、「文化の創造」です。また、言うまでもなく「報謝の至誠」の具現化です。

したがって、SGL が「世界に向けて発信」すること、つまり「九万里の空高く飛翔する」学びを兼ね備えた時、それは「星城高校の探究活動」として完成すると考えています。

昨年度の SGL の立ち上げから今年度の立派な活動に至るまで、生徒をよく指導し、支えてくださった SGL 開発部並びに仰星コースと特進コースの担任の先生方に敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

# 1. 研究開発の概要

## (1) 研究開発の概要

星城高等学校は文部科学省より「地域協働推進校」の指定を受け、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に取り組むことになった。この事業はSGH(スーパーグローバル・ハイスクール)の後継事業の一つと言われており、高等学校が市町村や産業界などと協働してコンソーシアムを構築し、地域課題解決等の探究的な学びを実現する取組である。本校が指定を受けたグローバル型は、グローバルな視点をもってコミュニティーを支える地域のリーダー育成が目的となる。各地域の特性に応じたグローバルな社会課題研究としてSDGs、地域、文化、医療などのテーマを設定し、その解決に向けた探究的な学びをカリキュラムの中に体系的・系統的に位置付けるカリキュラム開発を実施する。この事業の初年度となる令和元年度は全国で20校が指定を受け、そのうち14校が公立高校、6校が私立高校であった。また、令和2年度は新たに4校が指定を受け、事業特例校として4校が指定を受けた。

人と人との繋がりが希薄になりつつある地域社会において、さまざまな立場の市民の繋がりが活性化する新しいプロジェクトを共生・協働という観点から協創することができる地域リーダーの育成を研究開発の目的とする。本校が立地する愛知県豊明市では、とりわけ外国人市民と高齢市民の増加が顕著であり、このことへの対応が地域全体の大きな課題となっている。そのような現状を踏まえて、今回の研究開発では「外国人市民との多文化共生を推進する地域活動」と「高齢市民との安心・安全な健康生活づくりを協働する地域活動」に取り組む。この活動を通して外国人市民と高齢市民がより輝く、新たなコミュニティーの形成を目指す。この活動の名称は、スーパーグローバル・リーダー(Super Glocal Leader)育成活動とし、その略称として「SGL」と表記する。また、地域協働コンソーシアム全体で共有するSGL活動のスローガンとして、『Rainbow Bridge Project! - Think Globally, Act Locally -』を掲げる。

市民全体が輝く新たなコミュニティーを協創できるグローバル・リーダーの育成のために、課題探究のテーマとして「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋づくり」を設定し、「多文化共生」・「健康福祉」・「コミュニケーション力」の3つの探究的学習アプローチで構成する教育課程を研究開発する。生徒育成目標となる具体的な人物像は、①「異なる考えを容認し、共生しようとする人間」、②「他者と協働して問題解決を図ろうとする人間」、③「自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間」、④「人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー」である。

カリキュラム研究開発の核となるのは総合的な探究の時間「SGL地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」であり、学校設定教科「SGL語学」と海外研修も教育課程の一部に位置付ける。これらの学びを確立することによって、グローバルな視点をもってローカルの地域課題解決に取り組むグローバル・リーダーの育成を目指す。

## (2) 研究開発の経緯

本校の仰星コースは平成 26 年度にグローバル人材育成プログラムとして、「星城版スーパーグローバルハイスクール事業」を独自に立ち上げた。「持続可能なアジアの発展に寄与できるグローバル人材の育成」を目標に掲げ、アジア諸国が抱える課題解決のための探究活動を行った。平成 27 年度からは SGH アソシエイト校の指定を受け、『持続可能なアジアの発展に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成』を目標に掲げて探究活動を展開してきた。4 年間のアソシエイト活動を経て、グローバルな視点での探究活動の結果から課題のいくつかが、地元の豊明市が抱える課題と共通することに気づいた。地元が抱える外国人市民と高齢市民に関わる諸問題を、今やグローバル化している社会課題と捉え、課題解決に向けて生徒が主体的に取り組むことが本校における探究活動の柱となった。このような活動と実績を踏まえ、グローバルな視点での学びと地域課題解決に向けた探究的な学びをさらに促進させるため、文部科学省への応募申請では対象コースを仰星コースだけではなく、新たに特進コースを加え、対象生徒の規模を拡大することになった。

## (3) 構想図とロジック・モデル

研究開発のテーマを「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～」と設定した。次に目標とする生徒育成人物像を定め、地域協働に取り組むコンソーシアムを構成した。そして、多文化共生アプローチ・健康福祉アプローチでは外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉についての探究的な学び「SGL 地域協創学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を総合的な探究の時間に設定した。コミュニケーション力アプローチでは「英語力向上」を目指して「SGL 英語Ⅰ・Ⅱ」を、地域に住む外国人市民との交流や海外研修での交流を見据えて「SGL 第 2 外国語(ベトナム語)」を学校設定科目として設定した。次のページに示したのはこれらの内容をまとめた研究開発構想図である。

グローバル型地域協働推進校には文部科学省から委託された三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による「高校魅力化評価システム」が導入されている。その評価システムの一つに、ロジック・モデルの作成がある。研究開発計画における「インプット」・「アクティビティ」・「アウトプット」・「中間アウトカム」・「最終アウトカム」を明確にし、研究開発がどのような目的で、何に取り組み、それによって何が成果として想定されるのかを校内の教員及び校外のコンソーシアム各団体と共有するためのものである。令和元年 6 月に初めてロジック・モデルを作成し、同年秋に行われた研究開発校全国サミットでの研修を経て、ロジック・モデルを修正した。ロジック・モデルを作成したことによって、地域での活動が学びのゴールではなく、地域での活動などの学びを通して、生徒のどのような能力を育成し、どのような生徒を育成するかという最終目標を見失わないようにするための指針のようなものになり、教員間で共有することで PDCA サイクルを円滑にまわす大きな手助けにもなった。

**Rainbow Bridge Project! - Think Globally, Act Locally -**  
 名古屋石田学園 星城高等学校  
 SGL活動【スーパーグローバル・リーダー育成活動】 地域協働コンソーシアムのパートナーシップによる架け橋づくり SDGs目標17

**外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト**  
 ～ 新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成 ～

- グローバルな視点を持って
- ① 異なる考えを容認し、共生しようとする人間
  - ② 他者と協働して問題解決を図ろうとする人間
  - ③ 自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間
  - ④ 人との繋がりを大切に、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー

外国人市民が輝く架け橋プロジェクト

高齢市民が輝く架け橋プロジェクト



SDGs目標 10 & 11  
 多文化共生  
 アプローチ

SDGs目標 3 & 10  
 健康福祉  
 アプローチ



課題解決  
 探究学習

課題解決  
 探究学習

学校設定教科SGL語学  
 SGL英語 I・II

学校設定教科SGL語学  
 SGL第2外国語

SGL地域協創学Ⅲ  
 多文化共生学  
 外国人市民が輝く新たな架け橋づくりとキャリア教育

SGL地域協創学Ⅲ  
 健康福祉学  
 高齢市民が輝く新たな架け橋づくりとキャリア教育

SGL地域協創学Ⅱ  
 多文化共生学  
 外国人市民との地域協創・活動の企画と実践

SGL地域協創学Ⅱ  
 健康福祉学  
 高齢市民との地域協創・活動の企画と実践

SGL地域協創学Ⅰ  
 多文化共生学  
 外国人市民との花植・地域協働の提言

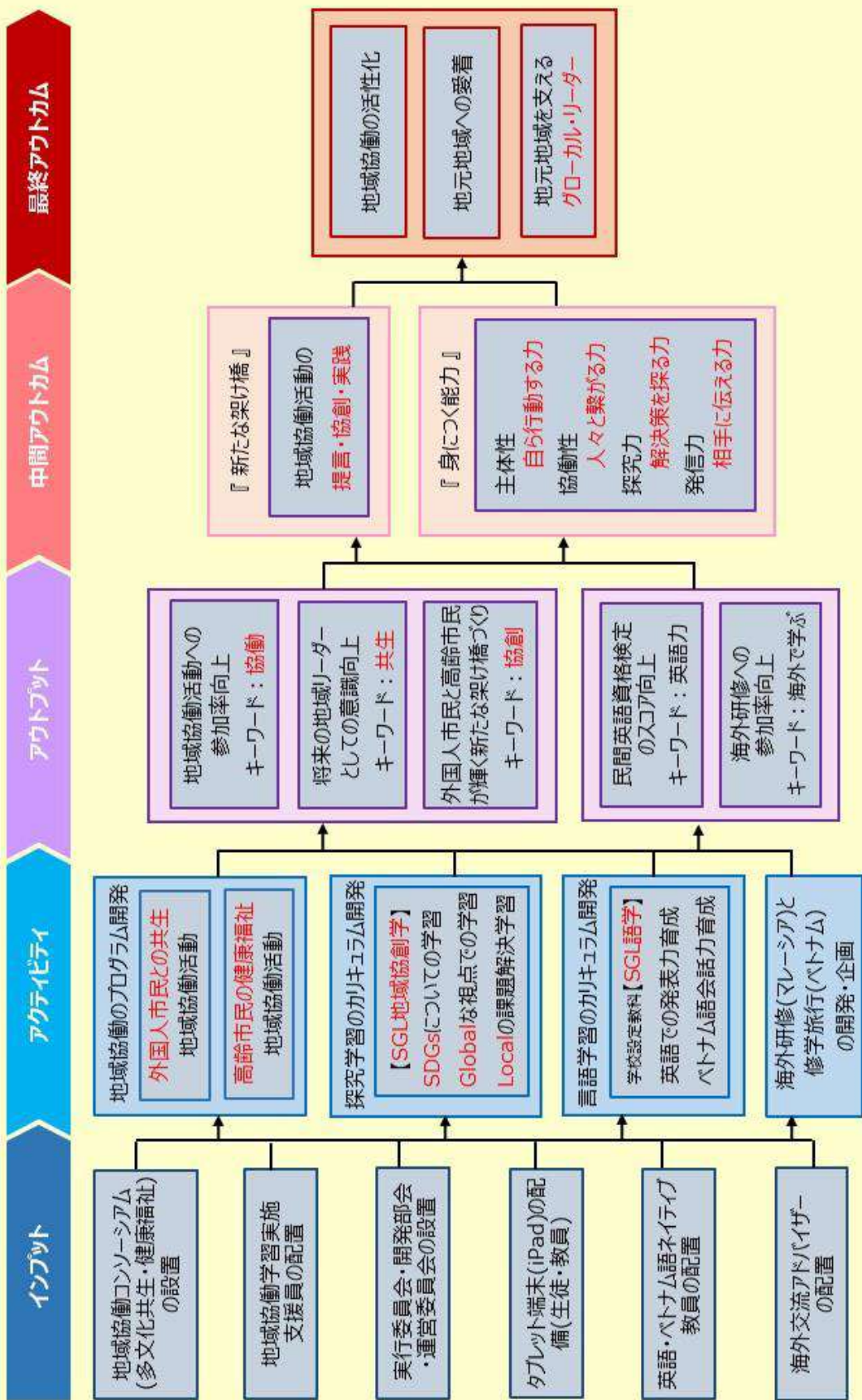
SGL地域協創学Ⅰ  
 健康福祉学  
 高齢市民との花植・地域協働の提言



**共生 協創 協働**



名古屋石田学園星城高等学校 『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト』  
 ～新たなコミュニティを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～



## 2. 研究開発の組織

### (1) 地域協働コンソーシアムの体制

外国人市民との共生を推進する多文化共生コンソーシアムと高齢市民の健康福祉を推進する健康福祉コンソーシアムをそれぞれ構築し、ダブルコンソーシアム体制で地域課題解決に向けた探究学習プログラムの研究開発に取り組む。

#### 【多文化共生コンソーシアム】

機関名
豊明市
豊明市教育委員会
豊明市国際交流協会
星城大学経営学部
ARMS 株式会社
県立豊明高等学校
豊明市商工会
豊明市青年会議所

#### 【健康福祉コンソーシアム】

機関名
豊明市
豊明市教育委員会
豊明市社会福祉協議会
星城大学リハビリテーション学部
株式会社スギ薬局
県立豊明高等学校
豊明市商工会
豊明市青年会議所

企業や高等教育機関などさまざまな機関の協力によって本校の取組が支えられているのは言うまでもないが、とりわけ地元豊明市の強力なバックアップによって研究開発が成り立っている。研究開発計画の構想段階から豊明市長を始め、行政経営部長や市民協働課長、健康長寿課長など多くの市役所関係者と協議を重ねることで地元社会が求めている地域課題を正確に把握することができた。このことが地域課題解決に向けた研究テーマを設定することにつながり、またそれに基づいた探究学習プログラムの研究開発を進めるコンソーシアム体制づくりにつながった。

### (2) SGL 開発部会・SGL 実行委員会・運営指導委員会

#### SGL 開発部会の設置

コンソーシアムでの協働によって探究学習プログラムや地域活動プログラムを開発するための組織として、SGL 開発部会を設置した。校長、学監、副校長、教頭、SGL 事務局長、SGL 開発部主任で構成され、毎週火曜日 1, 2 限の定例会とした。SGL 事務局長及び SGL 開発部主任が作成した企画案を元に協議し、その結果をコンソーシアムの関係機関に提示して協議することで、本校とコンソーシアムが情報を共有しながら研究開発を推進する体制づくりを進めた。

#### SGL 実行委員会の設置

SGL 開発部会がコンソーシアムの協力のもとで開発を進めていく探究学習プログラムについて、生徒の実情に合わせて授業運営の方法を微調整したり、プログラムや授業実

施後の点検評価をしたりする組織として SGL 実行委員会を設置した。学監、教頭、SGL 事務局長、SGL 開発部主任、各担任、英語科教員 1 名、事務員で構成され、毎週金曜日 2 限目の定例会とした。特にルーブリック評価の作成については実行委員会で協議し、評価文の検討や自己評価の集計結果を分析することで、探究学習を通して生徒に身につけさせたい能力（主体性・協働性・探究力・発信力）についてどのような成長が見られるか、またどの観点の学びが不足しているかについて協議することで PDCA サイクルによる継続的な改善を図る体制づくりを進めた。

### 運営指導委員会の設置

SGL 開発部会での研究開発の内容や進捗状況、コンソーシアムを構成する機関との協力体制の実情、SGL 実行委員会での実施状況などを踏まえ、それぞれの専門的な立場から改善すべき点についての指導や学びを促進させるための助言をする組織として、運営指導委員会を設置した。下に示した学識経験者、学校教育に専門的知識を有する者、教育学研究者、有識者、関係行政機関の職員を含む 5 名で構成され、各学期に 1～2 回程度開催することとした。

氏名	所属・職
渥美榮朗	元愛知県教育長
寺田志郎	元愛知県教育委員会学習教育部長 元県立高校長会会長
久野弘幸	名古屋大学大学院准教授
月岡修一	豊明市議、学校評議員
藤井和久	豊明市役所行政経営部長

### (3) 海外交流アドバイザーと地域協働学習実施支援員の役割

#### 海外交流アドバイザーの配置

海外交流を通じたグローバルな視点での学びを促進させる手法として海外研修の実施や海外在住高校生などとのオンライン交流などが考えられる。そのような学びを開発・実践する際の助言者として海外交流アドバイザーを配置することになり、名古屋大学大学院国際開発研究科特任助教の古藪真紀子氏にその役割を依頼した。新たな海外研修の開発に重点を置いて外国人市民との共生と高齢市民の健康福祉に関する現地フィールドワークの企画開発に関して助言にあたりるとともに、海外研修の事前研修や事後研修の企画と実施についても支援するという役割を果たす。しかし、今年度は前年度と異なりコロナ禍での海外研修をどのように企画するかが大きな課題となった。海外研修実施の可否の見通しもなかなか立たない中、いくつかの可能性を常に想定しながら検討を進めることになった。最終的にはオンラインツアーを活用した研修を企画すること、そしてその研修内容について多くの助言をいただくことになった。

## 地域協働学習実施支援員の配置

地域との協働による探究的な学びを総合的な探究の時間を中心とした授業でどのように実践するかについての指導や助言をし、またその学びに必要な関係団体の協力をコーディネートする支援員として地域協働学習実施支援員を配置することになった。今年度も海外交流アドバイザーとの兼任で古藪真紀子氏にその役割を依頼し、総合的な探究の時間での探究学習プログラムの研究開発支援の実践支援にあたることになった。毎週月曜日または金曜日 5 限に定例で企画会議を開き、土曜日に実施する総合的な探究の時間の授業計画や実施した授業内容について協議した。また授業では授業担当者の一人として継続的に探究学習プログラムに関わることで、授業内容の開発と授業実践の両面から地域との協働による探究的な学びのカリキュラム研究開発を支援してもらうことになった。今年度は特にコロナ禍における地域での活動や地域住民との交流をどのように企画するかが大きな課題になった。緊急事態宣言が発出されていない状況下では、感染予防に配慮しながら前年度よりもさらに活動を発展させたり、交流を深めたりする探究的な学びを企画するための支援をしていただいた。

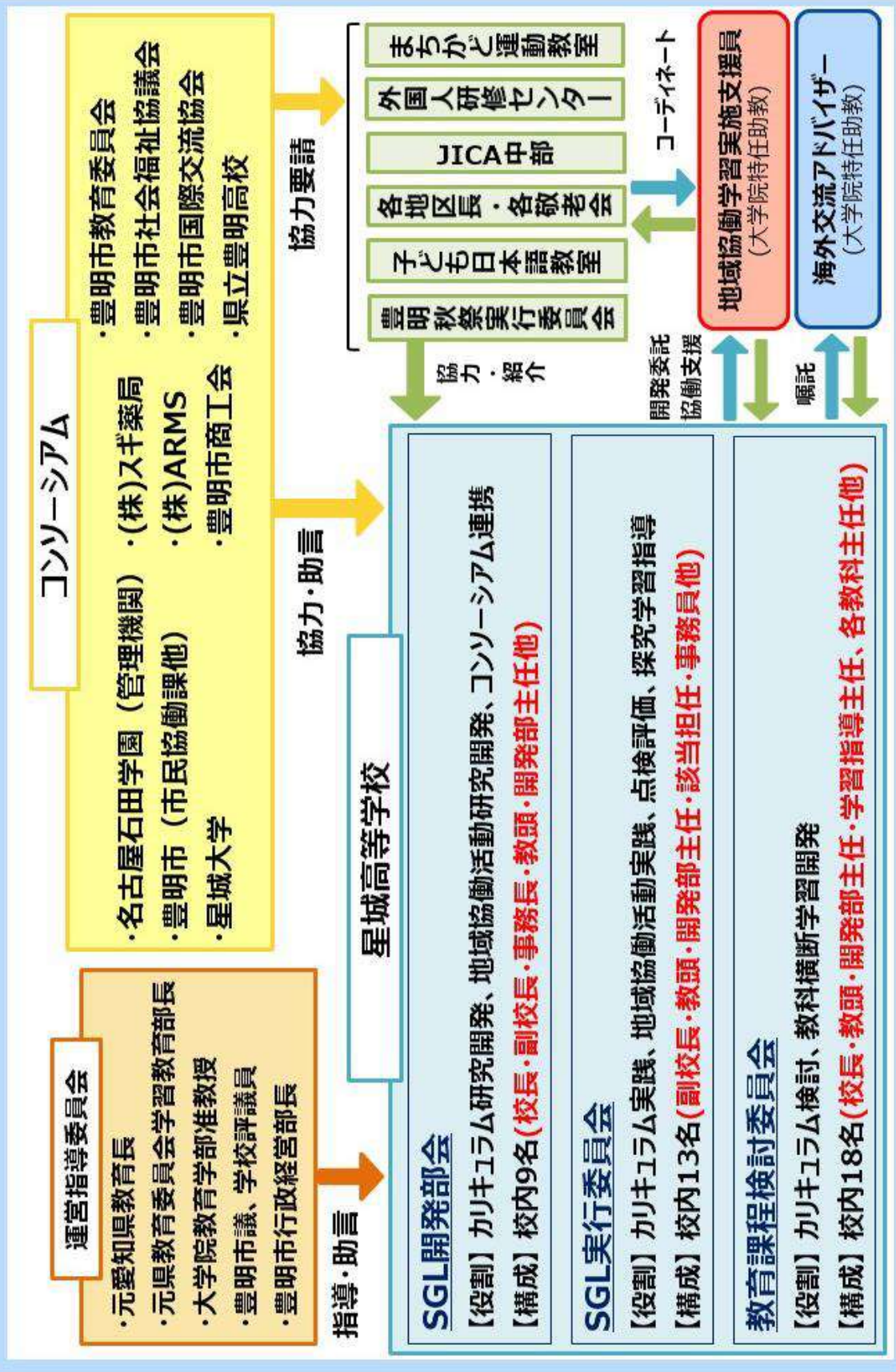
### (4) 組織図

グローバル型地域協働推進校である本校と地域協働に取り組むコンソーシアム、運営指導委員会、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーの役割を明確にすることが求められる。まず、コンソーシアムは地域協働について本校に直接的に開発協力したり、助言を与えたりするとともに、地域協働プログラムの開発に協力してもらえる関係機関に協力を依頼する。地域協働学習実施支援員はその関係機関と本校が研究開発をすすめられるようにコーディネートし、探究学習プログラムや地域協働プログラムに反映させられるように支援する。海外交流アドバイザーは海外研修プログラムの開発を支援し、行程の企画の中心的な役割を果たす。運営指導委員会は研究開発の全体的な状況を定期的に把握し、必要に応じて星城高校の SGL 開発部会等に指導や助言をする。

コンソーシアムと運営指導委員会、関連団体、地域協働学習実施支援員、海外交流アドバイザーが本校と協力体制を築くことにより、探究学習プログラムの研究開発が円滑に進み、生徒が安心して取り組める探究学習につながることを期待される。開発担当者と地域の協力者との個人レベルのつながりで開発できるものも多くあると思われる。しかし、カリキュラムの研究開発という事業の性質上、開発する地域での協働活動はすべて組織の研究開発プロセスに上げることで、中長期的に持続可能なプログラムを研究開発する。

今年度はコロナ禍でそれぞれの委員会を開催すること自体が難しい状態であった。6月に学校が再開してからは、校内での各委員会や会議は通常通り開催した。また、コンソーシアム関係団体など校外の関係者が関わる委員会や会議については、メールやオンライン会議などを活用した。できる限り組織での研究開発が止まることのないように、そして研究開発が継続できるように、さまざまな工夫をしながら進めた。

# 星城高等学校 研究開発の組織図



### 3. 研究開発の内容

#### (1) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学 I】

1年生の総合的な探究の時間「SGL 地域協創学 I (2単位)」は、「Think Global」「Think Local」「Act Local」「Act Global」の4つで構成される。「Think Global」ではグローバルな視点でSDGsを理解し、世界規模のまたは世界の各地における解決すべき課題について考える。「Think Local」では地元豊明市について、どのような街なのか、そしてどのような地域課題があるのかについて学ぶ。「Act Local」では花溢れる街づくりプロジェクトを企画し、実践する。「Act Global」はマレーシアで多文化共生社会について学ぶ海外研修を実施する。しかし、海外研修の実施が不可能となり、オンラインツアーに切り替えようと計画を変更したが、マレーシアがロックダウンになったためにオンラインツアーも中止となり、今年度は残念ながら海外研修での学びは実施できなかった。

「Act Local」について、昨年度の反省の一つは、花溢れる街づくりプロジェクトにおいて教員が段取りをしすぎた部分があり、生徒の主体性が十分に育成できなかったということだった。そのため、今年度は5～6人の各探究班のそれぞれが地域の市民団体や敬老会などの地域団体を自分たちで調べて、自分たちで連絡を取り、協働してもらえる団体を見つけ、自分たちで企画を説明し、協力をお願いし、実践するという計画をした。このことによって、活動をやらされているという気持ちではなく、自分たちが地域住民との協働を企画・実践するという気持ちで取り組むことになり、生徒の主体性が育成されることを期待した。

#### SGL 地域協創学 I の年間授業計画

回	日付	授業内容
第1回	6月6日(土)	SGL活動の概要説明、チームビルディング、SDGs 目標1、豊明市の現状理解
第2回	6月20日(土)	豊明市長・校長メッセージ、愛知県や豊明市の取組、SDGs 目標2
第3回	7月4日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト① 花壇場所の確認、花の撤去、草抜き、整備等
第4回	7月18日(土)	SDGs 目標3、花溢れる街づくりプロジェクト② 各地区・団体調べと花壇計画
第5回	8月1日(土)	SDGs 目標4、花溢れる街づくりプロジェクト③ 協働する団体の決定
第6回	9月5日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト④ 協働する団体へ連絡し、協働活動の提案
第7回	9月19日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑤ 協働する団体への企画・計画説明
第8回	10月3日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑥ 地域住民との花壇準備
第9回	10月17日(土)	花溢れる街づくりプロジェクト⑦ 地域住民との花植活動
第10回	11月7日(土)	探究成果発表に向けてプロジェクトの振り返り、Think Global アラカルト講座
第11回	11月21日(土)	探究成果発表の提言内容検討
第12回	12月5日(土)	探究成果発表の内容・原稿・スライドの作成
第13回	1月16日(土)	探究成果発表の完成と発表の練習
第14回	2月6日(土)	探究成果発表
第15回	2月13日(土)	全国大会の優秀発表視聴と花溢れる街づくりプロジェクトの花壇整備

今年度の研究開発の大きな課題は「生徒の主体性」であり、その育成を念頭に置いた授業の計画・実践となった。コロナ禍で地域との協働が難しい場面が多々生じたが、市内の地域活動が一切中止になっている状況の中で、地元の高校生が感染対策を講じながら、主体的に地域との協働に取り組んでいることに多くの応援や理解、協力を得ることができた。次のページはSGL 地域協創学 I の構想図であり、それ以降のページにはすべての授業における授業進行表とその授業の内容や生徒の様子、授業の改善点などを記した。

文部科学省指定 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

グローバル型地域協働推進校【外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト】

令和2年度第1学年【SGL地域協創学 I (2単位)】(総合的な探究の時間)

【1年生の主課題】 ①グローバルな視点でSDGsの理解  
②花溢れる街づくりプロジェクトでの協働  
③新たな地域協働活動の提言

Think Global

★グローバルな視点での学び(地球課題発見)

SDGs 17の持続可能な開発目標(4月~11月)

主体性の向上



Think Local

★ローカルな視点での学び(地域課題発見)

星城高校  
1年生  
探究班

地域協働コンソーシアム

豊明市役所	商工会
(株)スギ薬局	青年会議所
(株)ARMS	豊明高校
社会福祉協議会	星城大学
国際交流協会	市教育委員会
	順不同

三崎区・桜ヶ丘区・  
前後区・桶狭間区・  
豊明団地自治会



Act Local

★外国人・高齢市民との協働による学び(活動実践)

地域協働プログラム (5月~3月) ①スギ薬局介護予防体操  
②子ども日本語教室

協働性の向上

花溢れる街づくりプロジェクト

①6月→活動体験 ②10月→企画経験

Act Global

★海外での探究的な学び(他国取組理解)

マレーシア海外研修(12月)

多文化共生の学び 6日間 希望生徒30名



Glocal 探究

★地域課題解決に向けた学び(解決策発見)

新たな地域協働活動の提言づくり(11~1月)

探究力の向上

発信力の向上(学校設定科目SGL英語 Iを含む)

ポスターセッション形式での発表(2月)

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第1回 6月6日(土)】

1. 単元名 : SGL活動の始動
2. 学習内容 : SGL活動の概要理解・探究班のチームビルディング・SDGs目標1の探究・豊明市調べ
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目 ～30分	SGL活動の概要を理解する。	音声付きスライドを視聴し、SGL活動とは何かをつかむ。	音声付きスライドをプロジェクターで投影し、必要に応じて追加の説明を加える。
～35分	ループリック評価表の内容を理解する。	ループリック評価表を読み、各項目・各レベルの内容を理解する。	1学期末に自己評価することを伝え、各項目で高いレベルを目指すように説明する。
～50分	探究班を編制する。	各班5から6名の男女混合探究班をクラス内で話し合って決める。	取り残される生徒が出ないように注意深く観察する。
2限目 ～10分	【チームビルディング】 班内の役割を決める。	各班で話し合い、チームリーダー、サブリーダー、記録・写真係、資料・スライド係、備品管理係を決める。	各係の役割を説明し、各生徒のやる気や自主性を尊重する。また役割の押しつけがないように注意深く観察する。
～20分	【アイスブレイク】 自己紹介をする。	「積み木自己紹介」・「実は…自己紹介」・「他己紹介」を行う。	各探究班で自己紹介を通して班内の緊張感を解き、班員同士の融和を図る。
～50分	【アイスブレイク】 SDGs スゴロクに取り組む。	SDGsに関する質問に答えることでスゴロクに取り組む。	SDGsに対する関心を高めながら、班内で話し合いをしやすい雰囲気をつくる。
3限目 ～05分	【TG探究】 SDGsの概要を理解する。	愛知県SDGsガイドブックを読み、SDGsとは何かを理解する	Sustainable Development Goals 17の目標にはどんな意味があるかを考えさせる。
～10分	SDGs目標1「貧困をなくそう」について現状と課題を理解する。	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントをクラスで音読する。	世界の貧困状況を理解し、世界銀行が定める貧困ラインを理解するように導く。
～30分	「調べてみよう・考えてみよう」について各探究班で話し合い、意見集約する。	Q1 なぜ貧困が生まれるのか？ Q2 貧困のない社会をつくるための取組は何かがあるか？	間違いを恐れず、自分が考えたことや調べたことを班内で素直に伝えられるように支援する。
～45分	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
～50分	3限目の振り返りをする。	授業シートに感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。
4限目 ～20分	【TL探究】豊明市について調べる。各探究班で豊明市について検索する。	iPadを用いて豊明市について検索し、調べた情報についてメモをとって残しておく。	どのようなサイトを見て情報を得ているかを観察し、検索がうまく進まない班に助言を与える。
～30分	各班の発表により調べたことをクラスで共有する。	それぞれが検索してつかった情報をまとめる。	各班でどのような情報をまとめているかを観察する。
～45分	4限目の振り返りをする。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
～50分		授業シートに感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは2つある。1つは、年度の始まりで新しいクラスメイトとの緊張をほぐすことであり、もう1つはSGL活動の「Think Global, Act local」を理解することである。本時の導入としてSGL活動の概要を説明した後、班ごとにアイスブレイクを実施し、SGL活動で協働する新しい学級・新しい仲間と打ち解ける時間を設けた。後半は、SDGsについて学習し、その目標のうちの1つである目標1「貧困をなくそう」に関連して、最も貧しい国の1つといわれるホンジュラス共和国の現状を一例にまとめた資料を班で読み、課題解決に向け考察を行い、班のなかで意見交換を行った後、クラス全体で班の意見を共有した。そして、本校のある豊明市について、その特徴や特色についてiPadで調べて班でまとめ、クラスで共有し自分たちが通う学校のある地域がどのような地域かを知り、地元の地域について自ら知ろうと行動することが今後の活動においても不可欠であることを学んだ。

## 【生徒の学びと教育的効果】

SGL活動を行うにあたって重視するのは主体性、協働性、探究力、発信力の4つであり、特に協働性は人とのやり取りが多いこの活動において非常に重要となる。したがって本時は、班での自分の役割を知り、協働的に動く姿勢を大切にすること、自分の考えを相手に伝えること、相手の話を聞くこと、相手とコミュニケーションを取るなかで考えを深めることが求められるのを意識した活動を実践した。

探究学習に関して 生徒の大半がSDGsについて知識のない生徒が多い中で、本時の学習を通じて、世界の国々や人々の現状を知り、世界規模で解決・改善すべき問題があることを部分的に知ることができた。持続的な世界を実現するために設定されたSDGsの目標の達成にあたり、個人や組織レベルでどのような取り組みが求められているのか、自ら考え、情報を収集し仲間と意見交換をすることで、困難な課題に挑戦する姿勢を育んだ。

## 【育成の評価と改善点】

緊急事態宣言の影響で、今年度最初の授業が6月になるなど、様々な事柄で変更されたり配慮されたりしながらの開始となり、授業前半は緊張した面持ちではあったものの、アイスブレイクを行ったことにより、表情が良くなり徐々にコミュニケーションも増えていった。また、「SDGs スゴロク」には非常に意欲的に取り組む班が多く、マス毎に用意された質問項目には答えるのに難しいものもあったが、楽しく取り組んでいる様子が見えた。本活動について、探究したことについて班内あるいはクラス内で発信し、そこには協働性が重要であることを理解できた。一方で、班での話し合いをする際、他の班員に意見をどう求めたらいいのか、またどのように賛成/反対意見を述べたらいいのかといったことにつまづく班もあり、教員による補助が適宜必要となる班もあった。話を振る役として司会者を設定（固定/順番）し、他の班員の意見を聞いた時の反応の仕方など、班学習を不得手とする生徒のために取り入れるとよいかも。また、可能であればできるだけリーダー性の高い生徒をリーダーに選出すると、今後の班学習において円滑に進みやすい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第2回 6月20日(土)】

1. 単元名 :ブレインストーミングとKJ法で意見をまとめる
2. 学習内容 :校長・市長のビデオメッセージ、ブレインストーミングとKJ法、SDGs 目標11「住み続けられるまちづくりを」、新たな活動の提言
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目 ～15分 ～25分 ～35分 ～50分	校長と豊明市長のビデオメッセージを視聴する。 メッセージに対する感想を書く。 ブレインストーミングとKJ法を理解する。 ブレストとKJ法を練習する。	ビデオを視聴し、校長と市長からのメッセージを理解する。 感想シートに記入する。 スライドを見て、どのような手法なのかを理解する。 「学校に制服は必要か」をテーマにクラス全体で練習する。	プロジェクターでビデオを投影する。 校長・市長にメッセージへの感想を後日報告したい旨を伝える。 プロジェクターでスライドを投影する。必要に応じて説明を加える。 ブレスト・KJ法ができているかを観察する。
2限目 ～05分 ～25分 ～35分 ～50分	【TG探究】SDGs 目標11「住み続けられるまちづくりを」について考える。 「調べてみよう・考えてみよう」ブレストで自分の意見を出す。 KJ法で意見を整理する。 整理したものから1つのトピックに絞り詳細を調べてまとめる。	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントを音読する。 Q1 事例を検索し、班内で紹介する。 Q2 付箋に記入し意見を出し合う。 意見(付箋)を分類して整理する。 1つのトピックについて詳細な情報を調べ、考えをまとめる。	日本や世界での災害・防災に興味・関心を持つように導く。 Q1は一人1つ異なるものを班で紹介し合うように導く。Q2はブレストで多くの意見がでるように導く。 何らかの観点で意見を分類するように指示する。 1つのトピックを深掘りして、データなど詳細な情報をもとにまとめるように導く。
3限目 ～10分 ～20分 ～30分 ～40分 40分～	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。 TG探究を振り返る。 【TL探究】豊明市はどのような街か、豊明市での活動について調べる。 愛知県や他の市町村での活動を調べる。 市長に提言する豊明市の新たな活動プランを考えブレストする。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。 授業シートに感想などを記入する。 iPadを用いて豊明市とその諸活動について検索し、調べた情報を付箋に記入する。 iPadを用いて諸活動について検索し、調べた情報を付箋に記入する。 新たな活動のアイデアを付箋に書いて出し合う。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。 学んだことを基に記入するように導く。 どのようなサイトを見て情報を得ているかを観察し、検索がうまく進まない班に助言を与える。 どのようなサイトを見て情報を得ているかを観察し、検索がうまく進まない班に助言を与える。 多くの意見がでるように導く。
4限目 ～10分 ～20分 ～35分 ～45分 ～50分	KJ法で意見を整理し、1つのトピックに絞る。 市長への活動提言をまとめる。 各班の発表により調べたことをクラスで共有する。 TL探究を振り返る。	意見(付箋)を分類して整理する。 分類したものをもとに、班としての提言内容をまとめる。 各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。 授業シートに感想などを記入する。	何らかの観点で意見を分類するように指示する。 現在、豊明市にないものを提言するように導く。 発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。 学んだことを基に記入するように導く。

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、活動の主となる課題を知ることと、グループ学習を円滑に行うための方法を理解し、身につけることである。1 時間目は、豊明市の小浮市長からのビデオメッセージを視聴し、外国人市民も住みやすく、高齢者の方々が健康に安全に生活できる街づくりを目指していることについて理解した。2 時間目はブレインストーミングと KJ 法を学び、さらにその後、グルーピングをすると見やすいことを理解した。3 時間目は【TG】として、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」について、資料を見て考えた。資料に記載されている問いを利用して、ブレインストーミングと KJ 法の実践を行った。4 時間目は【TL】豊明市の活動や取り組みについての情報をインターネットで収集した。前時で調べた内容をより一歩踏み込み、どこにどんな人が集まってどのような活動を行うのかを調べて、グループで共有したあと、どのような活動が豊明市には求められているのか、市長からのメッセージを踏まえて考え、グループで意見を発表した。

## 【生徒の学びと教育的効果】

地域が抱える問題を、市長からのビデオメッセージを通じて、生徒は市長の表情を見ながら、また肉声を聞きながら、地域課題を理解できたことに大きな意味がある。外国人市民や高齢者福祉など、社会全体の一般的な問題として生徒は捉えてしまいそうな課題であるが、当事者から話を聞くことで、社会課題から地域課題として捉えることができた。

また、ブレインストーミングでクラス一人一人の意見をバラバラに貼ったホワイトボードが、KJ 法を活用することでどんな意見が多かったのか、またどの観点からの意見なのか、グルーピングを行い、一つのテーマに対する大勢の意見を見える化できた。浮かんだアイデアをためらわず発言すること、そしてグループで出た意見をまとめることの大切さとその方法を身につけた。「学校に制服は必要か」についてクラスの意見をまとめた際、あまりにもキレイにまとまったため、生徒も舌を巻いている様子であった。その後の活動で、グループ内で実際にやってみようという方向に自然と向かった。

## 【育成の評価と改善点】

新学年が始まったばかりということもあり、生徒間の日常でのコミュニケーションはそれほど頻繁には起こらないが、この活動のグループで話し合いをする際は、非常に活発にコミュニケーションを図る姿勢がある。また、自分の考えを発言したり、相手の意見を聞いたりする中でお互いを認め合う姿が確認できる。

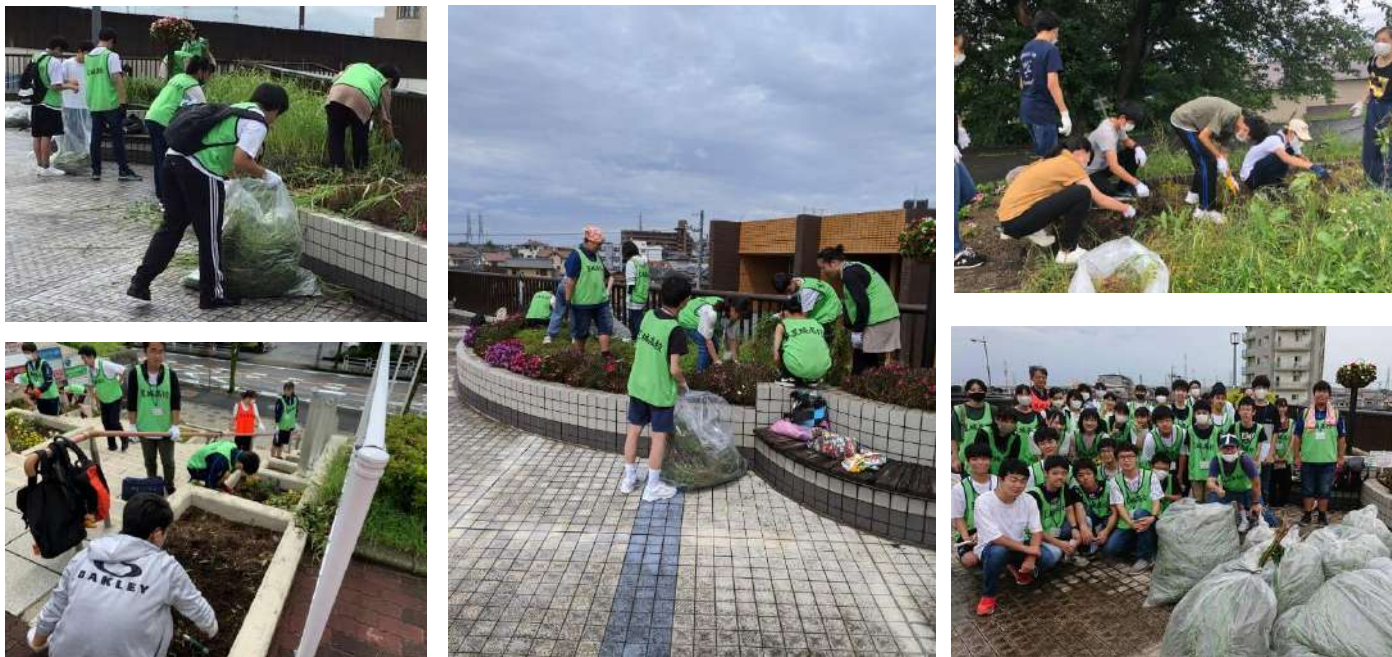
1 日の活動としては、内容が盛りだくさんとなっている。また一つ一つの活動の意味や関連性をきちんと理解させるように展開を工夫しなければ、それぞれの独立した内容の活動になってしまう点に注意が必要である。ブレインストーミングと KJ 法は生徒も実践がしやすいようであるが、グルーピングする際は指導者の力が必要なグループがある点も要注意である。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第3回 7月4日(土)】

1. 単元名 : 花溢れる街づくりプロジェクト① 花壇作成場所の現地踏査
2. 学習内容 : 花壇作成場所の確認、昨年10月に現2年生が植えた花の撤去、花壇ブロックの撤去(一部)、草抜き及び整地、周辺環境の確認
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
～	<p><b>【AL探究】</b></p> <p>各クラスで担当する花壇作成場所へ自分で行く。 (学校には登校しない) (少雨決行)</p>	<p>事前に場所・必要時間・道順などを確認し、指定時間に集合する。 (徒歩 or 自転車)</p>	<p>作業しやすい服装(私服)、軍手・スコップ・ビニール袋(草回収)・飲み物・帽子・タブレット(写真係必須)の持ち物を指示する。 *雨天時は雨合羽持参 *緊急連絡: 0562-97-5192(春木教頭) *業務連絡: 080-3137-0847(弓場主任)</p>
仰星 9:00～ 特進 9:30～	<p>集合場所</p> <p>仰星1組: 三崎水辺公園(中森) 仰星2組: 前後駅(粥川・伊藤) 特進1組: 大蔵池公園(佐藤広) 特進2組: 豊明団地(澤田翔・ペテリック) 特進3組: 大蔵池・はざま公園(蟹江)</p> <p>*大蔵委池での点呼後、はざま公園担当特進3組の2つ(1つ)の班はマイクロバスで移動する(蟹江先生引率)</p>	<p>現地集合時間</p> <p>仰星1組: 9:00 駅下ロータリー 仰星2組: 9:00 特進1組: 9:30 特進2組: 9:30 駅下ロータリー 特進3組: 9:30(はざま公園含む)</p> <p>*仰1と特2は前後駅下ロータリーからマイクロバス2台で現地へ移動(A号: 担任乗車、B号: ペテリック先生乗車)</p>	<p>集合場所の指示及び点呼</p> <p>仰星1組: 公園正面入口奥 仰星2組: 改札前下段広場 特進1組: 時計台付近 特進2組: 商店街奥広場</p> <p>特進3組: 時計台付近(はざま公園含む)</p> <p>*マイクロバス・運転手の手配 *欠席者の把握・連絡 仰星: 弓場主任⇔各担任 特進: 城戸⇔各担任</p>
前後 9:00～ 三崎・大蔵 9:30～ 団地 10:00～	<p><b>【AL探究】</b></p> <p>各クラスが担当する場所を確認し、各探究班が枯れた花の撤去及び清掃する範囲を決める。</p> <p>各探究班が担当する範囲の花等を抜き、整地する。</p> <p>花壇用ブロックを必要に応じて修正する。 周辺環境(住宅・施設・商業施設など)を調べる。(時間に余裕があれば)</p>	<p>希望する範囲を各探究班で話し合い、各班代表者による話し合いで担当範囲を決める。</p> <p>担当範囲の枯れた花やその周りの草などを刈り、土を均す。ゴミは各自持参の袋に入れる。</p> <p>ブロックの並びが崩れている場所はできる限り修正する。 花の苗や肥料などを購入できる花屋などを確認する(各班1～2名)。 時間に余裕があれば、他の生徒は花壇作成場所の周辺環境を歩いて確認する。</p> <p>クラスごとに解散する。 仰星2組: 11:00 前後駅 特進1・3組: 11:00 大蔵池公園・はざま公園 マイクロバスA号・B号 仰星1組: 11:00 三崎水辺公園発 特進2組: 11:30 豊明団地発</p>	<p>事前に大まかな区割りを想定しておいて、円滑に担当範囲を決められるように支援する。</p> <p>ケガの無いように各班員が協力して作業をすすめるように支援する。学校のゴミ袋を持参し各生徒が集めたゴミをまとめる。 定期的に休憩時間を取り、水分補給などで熱中症を予防する。 生徒の力で実施可能な範囲の作業とし、無理はさせないようにする。(9月・10月に本格的な花壇づくりを行う) *前年度購入場所 豊明団地・三崎水辺公園→ラップガーデン 前後駅→正花園 大蔵池・はざま公園→農協直産センター *今後、花農家を調査する予定。</p> <p>解散前に点呼をし、ケガ人や体調不良者の有無を確認する。</p>
各場所 11:00～ 豊明団地 11:30～	<p>活動を終了し、現地で解散する。 *三崎・団地はマイクロバスで前後駅まで移動する。</p>		

### 【授業の様子（写真）】



### 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、実際に自分のクラス・班が担当する花壇を目で見て確認し、花壇の整備を行いながら、どのような花壇の形にするか、花の色や高さなど異なるたくさんの種類があるなかで、どの花をどのように配置し植えるかといったイメージを膨らませることである。また、可能な範囲で周辺環境の散策も行い、周囲にある施設やお店など、どのような街のなかに花壇があるのか、どういう人々が近辺で生活をするのかなど、街の雰囲気を感じることも狙いとした。

前後駅から花壇までの移動手段として、名鉄バスとひまわりバスを利用したが、バスがどのような路線で走り、どのバスにどんな人が乗っているかなども移動する中で感じる事ができただろう。徒歩で移動したクラスや班は、普段の通学路とは違う道を歩きながら、公園や施設・お店を横目に見て、街の様子をつかむことができただろう。

### 【生徒の学びと教育的効果】

実地で活動している最中、昨年度に協力していただいた方々も参加し、話し合いながら活動に勤しんだグループもあった。昨年度の生徒の取り組みの様子や、新しく花壇が設置されたことやこの活動に対する嬉しい気持ちを直接聞き、やりがいを感じている様子も見られた。

また、昨年度の生徒が作成した花壇はブロック塀が倒れていたり、土が痩せてしまっていたりすることに気が付き、なんとかならないかな、と発言する生徒もいた。生徒たちは新しく作成する花壇の位置を確認し、ブロック塀を修正したり、雑草を除去したりするなかで、ここから自分たちの花壇を作り上げるという気持ちを膨らませていた。また、多くの花が枯れている中で、まだ咲き続けている花に気が付き、植える花についてさらに考えを巡らせるなど、新しい花壇にさっそく思いを馳せていた。

### 【育成の評価と改善点】

実地での活動は、天候が強く心配される。本時は雨天の予報であったにもかかわらず、当日は幸いにも、活動を行った午前中だけは雨が降らず、過ごしやすい天候に恵まれた。天候に合わせて、次回の授業と内容の入れ替えができるように、時間帯の調整を行うなどで対応をする必要がある。

生徒が実際に花壇へ赴き活動をする回数は限られているので、できるだけ多く地域の方々との交流を行うという点では、各花壇に対して1団体は事前をお願いをしておき、その方々とは花植えプロジェクト当日まで安心して連絡が取れるような関係性を築いておくと、花を植えた後、水やりを行うにもスケジュール的に難しい時期などでは地域団体へお願いをしなければならないが、そのお願いも生徒たちからしやすくなると思われる。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第4回 7月18日(土)】

1. 単元名 : 花壇をつくる地域について調べ、そこに住む外国人市民や高齢市民について考える。
2. 学習内容: SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」、花溢れる街づくりプロジェクト②「地域・地区とそこに住む人々について調べる」
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目 ～05分	<b>【TG探究】</b> SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」について考える。	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントを全体 or 各班 or 個人で読む。	日本や世界での生活習慣病や子どもの死亡率について興味・関心を持つように導く。
～25分	「調べてみよう・考えてみよう」 ・原因を調べてみる。 ・1つの原因に注目する。 ・どうすればそれを解決できるかブレインストーミングする。	<b>Q1</b> 5歳未満の子どもが毎日1万6千人以上亡くなっている理由を調べる。 ・ホワイトボードに調べた理由を書く。 ・班で話し合い、1つの原因を選ぶ。 ・付箋に自分の意見を書く。できる限り多くの意見を出す。	様々な国の様々な原因・理由について多くの情報を検索するように促す。 各班がどの原因について考えているかを把握する。 多くの意見を出すように促す。
2限目 ～10分	・KJ法で意見を整理する。 ・整理したものをもとに1つ解決策(仮説)をまとめる。	・意見(付箋)を分類して整理する。 ・解決策(仮説)をまとめる。有意性を示す資料やデータなどをつける。	1つの仮説を立て、それを立証するような各種データをつけて説得力のあるまとめをつくるように導く。
～30分	各班の発表により様々な解決策(仮説)をクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。 感想シートに感想などを記入する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。 学んだことをもとに記入するように導く。
～45分	TG探究を振り返る。		
3限目 ～10分	<b>【TL探究】</b> 昨年の花壇づくりについて理解する。 花壇の地域・住民について調べる。 ・探究テーマを再確認する。 ・地区について理解する。 ・周辺環境について理解する。 ・地区の人口について理解する。 ・世代や出身国について理解する。	昨年の花壇づくりについて2年生の話を聞く。 ワークシートに記入する。 ・外国人・高齢市民が輝く架け橋づくり ・豊明市の地区割を調べる。 ・施設やお店など周辺環境を調べる。 ・住民の数を調べる。 ・外国人・高齢市民の数を調べる。	プロジェクターで写真を投影しながら上級生の話を聞く環境を整える。 地域課題解決の第1ステップとして、地域住民とコミュニケーションをとり、交流・協働するということを理解させる。 愛知県や豊明市のデータを活用させる。 誰と交流・協働できるか考えさせる。
～35分	調べたことをクラス全体で共有する。	調べたことを各班又は個人で発表し、情報をワークシートにメモする。	各班又は個人から出てきた情報をホワイトボード上で整理してまとめる。
～50分	花壇づくりの計画を立てる。 ・誰と協働するか。 ・何人くらいと協働するか。 ・どのように連絡をとるか。 ・どのような花壇にしたいか。 ・必要な道具や備品は何か。 ・どのくらい期間がかかるか。 ・どのような花を植えたいか。	ホワイトボードに計画を記入する。 ・どのような団体の協力を得るか。 ・何人集めたいか。 ・誰とコンタクトをとるか。 ・花壇のイメージ。 ・必要なもの。 ・必要な時間。 ・植えたい花、花の仕入れ先。など	各班でどのような計画を考えているかを把握する。 町内会・敬老会・外国人会・自治会・社会福祉協議会・国際交流協会・豊明市役所など、誰と協働するか又は誰に協働をサポートしてもらうかを考えさせる。 (各班の予算は次回提示予定)
4限目 ～35分	考えたことをクラス全体で共有する。	考えたことを各班又は個人で発表し、情報をワークシートにメモする。	各班又は個人から出てきた情報をホワイトボード上で整理してまとめる。
～45分	TL探究を振り返る。		
～50分		感想シートに感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」について考え、班とクラスで意見を発表し合うことと、「花溢れる街づくりプロジェクト」について昨年度の取り組みを知り自分たちのプロジェクト計画を立てることである。

前半パートはSDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」についての資料を読み、資料中の問いについてブレインストーミングを行い、意見を出し合い、KJ法でまとめグルーピングをした。その結果として見えてきた課題の本質をどのように解決するか、どのように改善するかについて班ごとに発表を行った。

後半パートは昨年度花壇を作成した生徒にクラスまで来てもらい、昨年度の取組の報告を聞き、質疑応答を行った。その後、班での話し合いに入った際も、先輩から助言をもらいながら話し合いを進めた。

## 【生徒の学びと教育的効果】

後半パートで、これまでに実践したことがないことにも高校生の生徒が行っている様子を実際に、写真やスライドを使った報告を先輩から聞くことで、活動を行う道筋が見えたり、イメージを沸かせたりすることができた。生徒から先輩への質疑内容は、花壇に関する質問が多く、花壇を作成することに意識があるようであったが、先輩からの説明に、「ベトナムの方が」や「おじいちゃんが」、「女の子が」といった地域の方々が主語となるフレーズがあり、地域と協働していくという方向性を意識して話し合いを進めることができた。中学生までの学習では、学習の主体が自分自身で完結していた生徒がほとんどだが、他者を自分たちで巻き込んだ計画を練る経験は初めての生徒が多く、他の班の様子をうかがいながら不安げに話し合いを行う生徒の様子があり、先輩からの話を踏まえ相手をそれだけ思いながら考えることができた。

## 【育成の評価と改善点】

ブレインストーミングとKJ法も板についてきて、スムーズな話し合いが行われるようになってきた。ディスカッションの質が明らかに向上しているのが分かる。一方で、KJ法によってどうせまとめられてしまうからと、ブレインストーミングで自分の意見を貼り出さなくなる生徒が現れ始めた。同一の意見や、類似の意見でも、一人の意見なのか複数人の意見なのかで見え方が異なってくるはずである。方法が染みついてきたからこそ、起きたことであるが、ブレインストーミングの重要性や意義を適宜補う必要がある。花壇について構想する際、協働団体を具体的に決定し、年齢層や外国人の方であれば言語など、細かく設定していると、より地域のことを意識しながら構想することにもつながり、今後の市民の方々への花壇構想の説明の機会にもより理解と協力が得られることにつながるはずである。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第5回 8月1日(土)】

1. 単元名 : 花壇づくりについての企画案を各探究班で考える。
2. 学習内容 : 社会問題カルタ、花溢れる街づくりプロジェクト③「地域協働による花壇づくりの企画案作成」、1学期ルーブリック評価の実施。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目 ～15分	<b>【TG 探究】</b> 世界・日本の社会問題について考える。	社会問題カルタを実施する。各班1名は読み手になり、カルタに明示されている数字の意味も説明する。	社会問題カルタの実施を通して、さまざまな社会問題について興味を持つように導く。
～20分	最も興味を持ったカルタを班内で1枚選ぶ。	いくつかのカルタ上のQRコードをiPadで読み取って資料を読み、最も興味を持ったカルタを1枚選ぶ。	できる限り各班が異なるカードを選ぶように促す。
～50分	選んだ1枚について、その社会問題を解決するためにはどうすればよいかを班でプレストする。 (課題解決策(仮説)・根拠)	QRコードの資料やネット検索情報を用いながら、課題解決のための自分の意見を多く出す。 (付箋記入) 根拠となる資料を示す努力をする。	ブレストで多くの意見がでるように導く。 奇抜な意見、本音の意見、逆側の意見などを大切にするように導く。 資料やデータについての助言を与える。
2 限目 ～10分	KJ法で意見を整理し、多様な意見をもとにした発表内容をまとめる。	意見(付箋)を分類して整理する。多様な意見を取り入れた発表になるように準備する。	多数決の結論を出したいのではなく、分類された多様なアイデアをまとめるように導く。
～25分	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。	各班の代表者又は全員は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。聞く側はメモを取る。	しっかり聞く環境をつくり、発表メモをとるように導く。発表メモ用紙を配布する。
～45分	TG探究を振り返る。	感想シートに感想を記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。
3 限目 ～50分	<b>【TL 探究】</b> 花壇づくり企画案を作成する。 ・誰と協働するか。	・どのような団体・組織と協働するか。 ①とよあけ市民活動情報サイト ②老人ホーム・デイケアなどを検索 ③敬老会 or 自治会は必須 <b>*1班1団体の担当：別紙一覧表</b>	地域住民と花壇作りと花植えてで交流・協働することを理解させる。
～50分	各班でそれぞれの企画書をつくりあげる。  ・どのように連絡をとるか。 ・どのような花壇にしたいか。 ・どのくらい期間がかかるか。 ・どのような花を植えたいか。 ・予算はいくらか。	・誰とコンタクトをとるか。 ・花壇のイメージを考える。 ・必要な時間を考える。 ・植えたい花、花の仕入れ先を考える。 ・使える予算の額を知る。	地域課題を踏まえて、誰と協働するかを考えるように導く。 <b>*生徒には一覧表を見せない、教えない</b>
4 限目 ～50分	各班が協働する団体とどのような花壇をつくりたいかについて、発表によってクラス全体で共有する。	・各班が担当したい団体・組織、花壇作成計画を発表する。 ・9月5日 or 19日にどこで誰と会いたい。どのようにアポを取るか。 ・花、土、道具、期間、予算などを想定しておく。(ただし、協働する地域住民との話し合いで変更があり得ることを前提に)	各班から出てきた情報をホワイトボード上で整理してまとめる。(代表生徒にまとめさせてもよい) <b>*8月中にSGL担当者が各団体と一度調整する。</b>
～35分	TL探究を振り返る。	企画案や感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。
～50分	ルーブリック評価の実施。	ルーブリック評価記入用に記入する。	1学期全体を振り返るように促す。



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、世界的な社会問題に触れ、自分たちなりの解決策・改善策を提案することと、地域の方々と協働し作成する花壇について計画を具体的にまとめることである。

前半は、「社会問題カルタ」を使って社会問題について考えた。ニュースや新聞などで頻繁に見聞きするものから、あまり話題とはならないけれど考えていかなければならない問題まで扱われており、付属のデータでその問題の知識を身に付け、様々な解決されなければならない問題に触れた。

後半は、花壇を作成するにあたって、協働団体を仮指定し、どのようにアポイントを取り許可を取るのか、どのように花壇の協働作成を依頼するかについてグループで話し合った。

## 【生徒の学びと教育的効果】

花壇構想については、花の色合いや背丈をイメージしながらデザインを順調に考案している様子で、花の苗や土、肥料の費用が実際にいくらかかるのか、どこで仕入れるのか等、新鮮な面持ちでグループで話し合い決めていく様子が見て取れた。高齢の方にも日本語が定着していない外国人児童にも協力いただくには、どのように伝えればいいのか等、スライドを工夫したりジェスチャーで伝えたりするのがいいのでは、と提案も盛んに起こっていた。また、当日の安全面や、アポイントを取る段階でそもそも会ったことも話したこともない大人の方々に、口頭のみでどのように伝えるのか、を中心に話し合いを行った。社会経験のない彼らにとっては他者からの視点で物事をとらえるという挑戦をここですることは、非常に有意義であるように感じる。

## 【育成の評価と改善点】

なぜ花壇を協働作成するのか、について生徒が深く理解していないことが多かった。花壇を作ることが目的ではなく、花壇作成を通して地域の方と接点を持つことが目的である。どんな花壇を作るのかについてばかり考えを深めるグループが多く、花壇作成の理由や目的を協働団体に伝える準備が不十分なグループが目立った。具体的な花壇の構想を行い、しっかり時間を区切って、ステップごとにきちんと進めなければいけないと感じた。実施するイメージについて生徒は比較的イメージしやすく話し合いも進むが、他者を招いて実施することについてイメージすることが難しく、指導者は生徒の花壇の構想を指導するというよりはむしろ、外部の方へどう協力を仰ぐのかについて、重点的に指導をしていったほうがよいと考える。実際に電話でアポイントを取るシミュレーションを生徒対指導者で複数回実施し、やり取りをする中でようやく生徒もイメージができる具合である。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第6回 9月5日(土)】

1. 単元名 : 校外活動のルールを理解し、花壇づくりで協働する団体と連絡を取る
2. 学習内容 : ルーブリック評価の確認、日程の確認、校外活動ルールの確認、協働団体への連絡、協働団体への説明資料作成、説明の練習
3. 授業進行表【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p>【TL 探究】</p> <p>花溢れる街づくりプロジェクト</p> <p>①2学期ルーブリック評価表と今後の流れを確認する</p> <p>②活動のルールを確認する</p> <p>(1) 予算の活用方法を確認</p> <p>(2) マナカの利用方法を確認 (三崎水辺公園と豊明団地、はざま公園が該当)</p> <p>(3) 校外活動申請書・報告書の記入方法を確認</p>	<p>ルーブリック評価の内容を確認する</p> <p>下記の日程を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日 協働団体への連絡 (電話)</li> <li>・次回 協働団体との協議 (面会)</li> <li>・10/3 花壇づくりや発注 (準備)</li> <li>・10/17 プロジェクト当日 (花植)</li> </ul> <p>下記の内容を理解する (別紙参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算額は各班 18,000 円</li> <li>・予算受領印と会計報告書の作成</li> <li>・領収書の宛名は「星城高校」</li> <li>・各班サブリーダーが管理</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナカ利用報告書を毎会提出する</li> <li>・マナカの受取、返却先は SGL 主任</li> <li>・一般客に迷惑のかからないマナー</li> <li>・名鉄バスとひまわりバス利用可能</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に申請で許可を得る</li> <li>・事後に報告書を提出する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 学期のルーブリックではどのレベルの活動を目標にするか考えさせる</li> <li>・コロナ禍で予定・計画通りにいかないことも十分あり得ることを理解させる</li> <li>・予算 (お金) の支出・管理は責任が大きいことを理解させる</li> <li>・領収書のないものは支出できないことを理解させる</li> <li>・各班に 1 枚のマナカ (9,500 円分) が割り当てられており、現金と同等の扱いであることを理解させる</li> <li>・公共マナーの重要性を理解させる</li> <li>・計画的に行動するように指導する</li> <li>・校外活動終了時には終了報告をする</li> </ul>
2 限目	<p>(4) 校外活動ガイドラインを確認</p> <p>③協働する団体に連絡を入れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単独行動禁止 (原則 3 人以上)</li> <li>・公の場で会うのが原則 (自宅厳禁)</li> <li>・失礼のない言動 (お願いする立場)</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策</li> </ul> <p>各班の代表者は協働したい団体の代表者に連絡を入れる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介とお願いの趣旨説明</li> <li>・協力してもらえるとという返答であれば、9月19(土)に会って、協議したい旨を説明し、返答を得る</li> <li>・SGL 室または事務室、職員室で各班の代表者が電話する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心が最優先で在り、軽率な行動がないように指導する(特に女子)</li> <li>・コロナ禍での可動では、相手も慎重になっていることも理解させる</li> <li>・すべての団体が協力的とは限らないので、うまくいかなければ他に依頼する</li> <li>・時間をわざわざとっていただけることに感謝して対応させること</li> <li>・原則として 9/19 に会う設定だが、平日の授業後の時間帯の設定も可とする</li> <li>・断られた場合は、他の団体を SGL 主任と相談する</li> <li>・初めてこの企画を知る人を想定させ、わかりやすい資料を考えさせる</li> </ul>
3 限目	<p>④ 9月19日(土)に協働団体に会って、説明・協議するための資料を作成する</p>	<p>協働する日程や作業内容や花壇の概要を説明するための資料を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Google ドキュメントや Google スライドなどを利用して iPad で作成、または手書きで資料を作成</li> <li>・完成したものは職員室または SGL 室で印刷、遅くとも 9/4 には必要枚数を印刷完了</li> </ul> <p>資料を用いて説明する練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班員全員で協力して説明すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断られた場合は、他の団体を SGL 主任と相談する</li> <li>・初めてこの企画を知る人を想定させ、わかりやすい資料を考えさせる</li> <li>・できる限りデータで残しておく、次年度下級生の参考になる</li> </ul>
4 限目	<p>⑤資料を用いた説明の練習</p>	<p>資料を用いて説明する練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班員全員で協力して説明すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢市民や外国人市民が読みやすい資料になるように指導する</li> <li>・一人だけが説明するという状況にならないように指導する</li> </ul>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、地域の方々との花壇の協働作成に向け、実際に協働団体の代表者とアポイントを取り、打ち合わせを行う日程を合わせることにある。

本時の活動内容は、次回実際に協働団体の代表者とお会いし花壇作成の打ち合わせを行うために、当日の時程をまずは自分たちが把握し、交通手段の再確認や支出の際の明細書・領収書を受け取ること、交通マナー、校外活動ガイドラインの遵守することを理解すること、そして、アポイントを取る際の注意事項（お願いする立場であること等）や、言葉遣いに気をつけ連絡を行うことである。

アポイントを取った後は、実際にお会いした時に見せるスライドを使った資料の作成に取り組んだ。

## 【生徒の学びと教育的効果】

本時の活動では、地域の方々とやり取りを行うために、予算や実施日時・場所など各グループに指定されていることに加えて、集合時間や集合場所、持ち物、連絡方法、どのように参加を募るのかなど、自分のグループが計画していることをあらためてきちんと理解したうえで、アポイントを取ることが求められる。他の授業では、受け身の姿勢で与えられる物に従って動けばいいという状況である生徒が、参加者にその状況や機会を提供しなければならず、その準備の大変さや他者からの視点を想像し計画を練ることは、生徒の視野を大きく広げ、人や集団を動かすという点で大切な社会経験となる。また、アポイントはリーダーが中心となって取ったが、大人と話をするというのは、スマートフォンがここまで普及してSNSのつながりのこの年代の生徒たちには、経験のないことであると考えられる。綿密に準備をしても、大人の視点から見れば詰めの甘い計画である。そこからまた反省し、補うことは、社会に出た時に必要な力を養っているのではないだろうか。

## 【育成の評価と改善点】

本時のアポイントを取るまでの過程で、いかに生徒に不足事項を気づかせその準備させるかは、指導者の手腕にかかっている。探究学習において、失敗から学び新たな挑戦へと導くことは指導者としてももちろん大切であるが、生徒が地域の方々とやり取りをする際は、その準備不足から混乱を生じさせたり、それに伴う不信につながったりしかねない。前時でも既述の通りであるが、全体指導という形で統制してしまうと、主体的な学びが削がれてしまう。したがって、シミュレーション形式で自然な形で生徒に気づかせ準備をさせることがスムーズな生徒の学びと地域の方々との協働につながると考える。指導者が前に出すぎてしまっは本末転倒であるが、協働する相手のことを思い、計画を練ることの大切さを継続的に指導することを心がけるべきである。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第7回 9月19日(土)】

1. 単元名 : 協働する団体と会い、花壇づくりと今後の予定について説明する。
2. 学習内容 : 協働する団体と会う。花壇づくりの計画を説明する。必要に応じて花壇づくりを始める。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点						
1限目	<p>【AL探究】</p> <p>協働する団体の代表者と会う (現地集合)</p> <p>花壇づくりの計画を説明する</p> <p>質問・要望などを伺う</p> <p>次回会う予定を決める</p> <p>解散する(現地解散)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に設定した場所に集合する</li> <li>・班長は教員に出欠を報告する</li> <li>・現地で担任に報告 又はハングアウトで連絡</li> <li>・協働する団体の代表者に挨拶する</li> <li>・花壇づくりの計画を説明する(資料作成、印刷)</li> <li>・質問・要望などを伺う</li> <li>・答えられないことは持ち帰り後日回答する</li> <li>・次回会う予定を決める 10/3 整備 or 10/17 当日</li> </ul>	<p>仰星1組 中森先生→三崎総合会館</p> <p>仰星2組 粥川先生→前後駅</p> <p>特進1組 佐藤先生→桜ヶ丘公民館</p> <p>特進2組 澤田先生→豊明団地</p> <p>特進3組 蟹江先生→出張</p> <p>事前に校外活動申請書を提出させる</p> <p>事前にmanacaを各班に渡す</p> <p>事後に校外活動報告書を提出させる</p>						
2限目	三崎水辺公園	仰星 1年1組	場所	クラス	班	協働する団体	代表者氏名	代表者への説明会	
			A			三崎区寿会(敬老会)	前山邦雄	9/19 10:00~	三崎総合会館
			B			ふれあい交流会①	矢野達実	9/19 10:00~	三崎総合会館
			C			ふれあい交流会②	矢野達実	9/19 10:00~	三崎総合会館
			D			egao家①	中野敏宏	9/19 10:30~	egao 家
			E			JA 豊明たすけあいけやきの会	酒井勝美	9/19 10:00~	青い鳥
			F			egao家②	中野敏宏	9/19 10:30~	egao 家
3限目	前後駅前スクエア	仰星 1年2組	A			前後区敬老会	榎原優区長	9/19 10:00~	2号館 2-4
			B			豊明市植物愛好会①	長山加代子	9/19 10:00~	前後駅改札前
			C			13年すみれ会	中島禎子	9/19 10:00~	前後駅改札前
			D			NPO おたがいさまのいえいっぷく	川津昭美	9/24 17:00~	いっぶく
			E			NPO おたがいさまのいえいっぷく	川津昭美	9/24 17:00~	いっぶく
			F			とよあけ花マルシェプロジェクト	永田晶彦	9/19 10:00~	花き市場
			G			豊明市植物愛好会②	長山加代子	9/19 10:00~	前後駅改札前
4限目	豊明団地	特進 1年2組	1			子ども日本語教室(双峰小学校)	近藤	9/19 10:00~	自治会ホール
			2			豊明団地ベトナム人会①	チュオン	9/19 14:00~	けやきテラス
			3			豊明団地自治会	糸魚川幸江	9/19 10:00~	自治会ホール
			4			豊明団地ベトナム人会②	チュオン	9/19 14:00~	けやきテラス
			5			星の城幼稚園	石田英城	9/17 17:00~	2号館 SGL 室
			6			豊明団地ベトナム人会③	チュオン	9/19 14:00~	けやきテラス
			7			プラスエデュケート	森 顕子	9/17 18:00~	豊明団地
4限目	大蔵池公園	特進 1年1組	1			桜ヶ丘老人会①	寺澤	9/19 10:00~	桜ヶ丘公民館
			2			落合みまもりたい	杉山辰蔵	9/19 10:00~	長作集会所
			3			桜ヶ丘老人会②	寺澤	9/19 10:00~	桜ヶ丘公民館
			4			豊明市陶芸会	伊神生雄	9/19 10:00~	陶芸の館
			5			桜ヶ丘老人会③	寺澤	9/19 10:00~	桜ヶ丘公民館
			6			桜ヶ丘老人会④	寺澤	9/19 10:00~	桜ヶ丘公民館
			7			豊明市陶芸会	伊神生雄	9/19 10:00~	陶芸の館
	はざま公園	特進 1年3組	1			認知症対応型介護施設びいす	志水宏司	9/19 10:30~	びいす
			2			桜が丘コミュニティー	江口暢良	9/19 10:00~	桜ヶ丘公民館
			3			NTT 豊明いずみの会・サロン養元	杉山辰蔵	9/19 10:00~	長作集会所
			5			ふれあいサロンあおい会	国富久子	9/19 10:00~	2号館 1-3
			7			館なかよし会	松井久子	9/19 10:00~	2号館 1-4
			4			桶狭間区老人会おけおけクラブ①	沖田	9/19 10:00~	はざま公園
			6			桶狭間区老人会おけおけクラブ②	沖田	9/19 10:00~	はざま公園

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、花壇作成当日に向け協働団体の代表者と直接打ち合わせを行い、資料を見せながら説明し代表者に理解をってもらうことである。

代表者との挨拶・打ち合わせの後には、花壇の状況の再確認をして実際の花壇を前にしながら、次回の活動時にどんな作業が必要なのか、どう花壇をアレンジするのかなどを確認した。また、花壇作成の当日はどこに誰が立って地域の方々がお花を植えるのを補助するのか、誰がどう仕切ってグループと団体を引っ張るのか、人の動線と危険なものや場所のイメージを沸かせ、お世話になる花屋さんへの挨拶をした後、発注可能な花苗や土などの発注を行った。

## 【生徒の学びと教育的効果】

実際に協働してくださる方々の表情を見ながら話を進める際、代表者がしっかり耳を傾け、話を聞いてくださったおかげで、生徒たちも非常に話しやすい空気があった。生徒が主導で地域と協働して花植えを実施したいと申し出ていることに大変驚かされている方も見え、あたたかい雰囲気での活動について支持をしてくださっている様子で、途中生徒たちより熱心に花や花を植えることについて語られる方も見えた。また、花壇や協働団体によっては、昨年度も協力いただいた団体もあり、昨年度からの改善をお願いされたところもあり、そのグループが独自で考案したアイディアと協働団体からのものとの融合が求められるものもあり、生徒たちはあらためて花壇構想を練り直すことにするなど、人とのつながりでアイディアが深まっていく様子があった。

地域の方々とこのような出会いやつながりがあり、地域の方々のために活動したいという根本的な動機となる心の変化があったのではないだろうか。

## 【育成の評価と改善点】

生徒が自分で企画したものを参加者に伝え、実施する計画がいよいよ現実味を帯びてきた。その計画をあたたかく支援して下さる地域の方々と直接話し合うことができた。

本日の活動時に、昨年度からのお付き合いがある協働団体から昨年度の反省点を改善する提案をできずに終えてしまった。これは指導者側の配慮が足らなかったことが原因であるが、今年度は昨年度よりも多くの団体に協力していただいているので、来年度はこの点を改善しておかなければならない。生徒自身にも思いつきそうな改善点が挙げられていれば、最初に実地に赴いた際にこの活動についての課題点を想像させて、生徒に解決策を考えさせるのは一つ教育的に意味のあるものになると考える。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第8回 10月3日(土)】

1. 単元名 : 10月17日の花溢れる街づくりプロジェクトに向けて各公園・駅・団地で花壇づくりをすすめる。
2. 学習内容: 花壇づくりをすすめる(生徒のみで又は協働する団体の方々と一緒に)。あとは花の苗を植えるだけの状態にする。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目	<p><b>【AL探究】</b>  <b>花壇作成場所に集合する(出欠確認)</b></p> <p><b>【教員配置】</b>                      仰星1組 中森先生→三崎水辺公園                      仰星2組 ベテリック先生→前後駅                      特進1組 佐藤先生→大蔵池公園                      特進2組 澤田先生→豊明団地                      特進3組 蟹江先生→大蔵池公園・はざま公園</p> <p><b>道具や用いる資材などを確認する</b></p> <p><b>花壇づくりをすすめる</b></p> <p>三崎水辺公園                      →ブロックをきれいに並べる                      前後駅改札前広場                      →全体の景観をきれいに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇をつくる場所に集合する</li> <li>・服装は私服で汚れてもよい服・ビブス着用、ネックストラップ名札所持</li> <li>・各自スコップと軍手、飲み物、タオルを持参</li> <li>・班長は担任に出欠を報告する</li> <li>・*協働する団体と一緒に活動する場合は挨拶する</li> <li>・学校の道具(スコップや鍬など)を確認する *紛失や破損などがないように、気を付けて扱う</li> <li>・園芸用の土や花壇ブロックを確認する。(土は花屋などで購入する)</li> <li>・無理をせずにケガの無いうように作業する</li> <li>・草などのゴミを袋に入れてまとめてく</li> <li>・地域の人々に喜んでもらえる花壇づくりを目指すので、雑な作業はしない</li> <li>・周囲の迷惑にならないように目配りをしながら作業を進める</li> <li>・各班写真係は活動中の写真を撮る 【作業前・活動中・終了時の写真】</li> </ul>	<p>事前に校外活動申請書を提出させる                      事前にビブスを配布する                      (事前にmanacaを各班に渡す)</p> <p><b>【名鉄バス】</b>                      仰星1組 40系統 8:10, 33系統 8:11                      特進2組 45系統 8:24, 35系統 8:41,</p> <p>出欠を確認する                      *協働する団体に挨拶する</p> <p>・<b>学校の道具を各場所に運ぶ</b>                      ・道具を管理する</p> <p>・土の購入と運搬が適宜進んでいるかを確認する</p> <p>・安全第一で作業させる</p> <p>・<b>ゴミ袋を持参する</b></p> <p>・大きな道具の扱い方を注意する(ケガ防止)</p> <p>・生徒の活動の様子とともに、周囲の状況をよく確認する</p>
2限目	<p>豊明団地                      →コンクールに応募するので、見栄えある花壇に</p> <p>大蔵池公園                      →ブロックをきれいに並べる</p> <p>はざま公園                      →遊具付近を避ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土などで周囲が汚れるので、きれいに清掃する</li> <li>・花苗の注文をする (17日当日に受け取る段取りも含めて)</li> <li>・完成した花壇を囲んで集合写真を撮る 各班代表者はハングアウトで、 <a href="mailto:glocal.sgl@seijoh.jp">glocal.sgl@seijoh.jp</a>へ作業前・活動中・終了時の集合写真を送る</li> <li>・担任の指示で解散する</li> <li>・<u>協働団体が参加している場合は、参加者名簿作成を依頼する。(封筒を渡し、返信を依頼する)</u></li> </ul>	<p>・ほうきなどの清掃道具を持参する</p> <p>・支払日や支払い方法なども確認させる</p> <p>・各探究班の集合写真を送信するように指示する</p> <p>・生徒の体調やケガ人の有無などを確認する。</p>
3限目	<p><b>花壇を完成させて、花の苗を植えるだけの状態にする(近づける)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の指示で解散する</li> <li>・<u>協働団体が参加している場合は、参加者名簿作成を依頼する。(封筒を渡し、返信を依頼する)</u></li> </ul>	<p>事後に校外活動報告書を提出させる                      事後にmanacaを回収する</p>
4限目	<p><b>作業を終え、解散する(現地解散)</b></p>		

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、次回の「花溢れる街づくりプロジェクト」当日に向け、自分たちの花壇を整備することである。

まずは新しく生えていた雑草や木の根などの除去を行い、土がむき出しの状態にし、やせ細って固くなった花壇の土をショベルで掘りながら耕し、新しい土をそこに加えて混ぜることで、栄養のあるふかふかの花壇ができた。また、ほかのグループではこれまで花壇がなかったところにブロックを並べて動かないよう固定し区画を作ることで、新たな花壇を作成した。これで花苗を植える準備が整った。

グループによって花壇の大きさやデザインが異なるため、早く作業が終了したグループは他のグループの花壇の準備を手伝った。

## 【生徒の学びと教育的効果】

本時の活動は、次回の「花溢れる街づくりプロジェクト」に向けた準備であったが、どのクラスのグループも重労働となり、作業量としては年間を通じて1番大変だったのではないかと思うが、作業を行っている生徒たちの中にこだわりが出てくるようになり、最終的には満足のいく花壇が準備できた。地域の花壇のためにこだわりを持つことができるというのは、地域に対して愛着が出始めた証である。

次回の「花溢れる街づくりプロジェクト」当日は、自分たちで整えた花壇に、自分たちで招いた地域の方々にお花を植えてもらう仕上げの日になるが、生徒たちは自分たちの花壇に対して誇らしさをもっている様子であった。途中近隣の児童が花壇で作業する生徒に興味を持ち、近づき一緒にやりたいと申し出た場面があった。生徒も柔軟に対応し、行える範囲のことを一緒に行い、次回の活動に勧誘していた。このように、自ら協働の輪を広げようとする姿勢が育まれるのを感じた。

## 【育成の評価と改善点】

生徒の主体的な動きがいたるところで見られた。これだけの作業量を午前中の活動時間内に終えられたことは、次回の授業時には万全な状態で迎えたいという生徒の強い気持ちがあったからであろう。

本時の活動は、実地での活動であり、天候によって実施できるかどうかが決まる日となる。事前の予報では雨天となる予報だったため、天候が今回も強く懸念されたが、幸運にも天候に恵まれ実施となった。仮に雨天であった場合は、翌週2学期中間テストも控えており、穴埋めの利かないスケジュールであった。これを回避するためには、前時の活動時に花壇の準備を完了させておくほうが、最悪なケースにも対応が効くように思われる。

和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第9回 10月17日(土)】

1. 単元名 : 花溢れる街づくりプロジェクトを実施する。
2. 学習内容 : 地域住民(高齢市民と外国人市民)と協働して花苗を植え、花壇を完成させる。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目	<p>【AL探究】</p> <p>花壇作成場所に集合する(出欠確認)</p> <p>教員配置</p> <p>仰星1組 中森先生→三崎水辺公園</p> <p>仰星2組 粥川先生→前後駅</p> <p>特進1組 佐藤先生→大蔵池公園</p> <p>特進2組 澤田先生→豊明団地</p> <p>ペテリック先生→豊明団地</p> <p>特進3組 蟹江先生→大蔵池公園・はざま公園</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇をつくる場所に集合する</li> <li>8:30 大蔵池公園、前後駅、三崎水辺公園</li> <li>9:30 豊明団地、はざま公園</li> <li>・服装は私服で汚れてもよい服装・ビブス着用、</li> <li>ネクストラップ名札所持</li> <li>・持ち物はスコップと軍手、水を入れたペットボトル(500ml)、飲み物、タオル、雨合羽を持参</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に校外活動申請書を提出させる</li> <li>・事前にビブスを配布する(事前にmanacaを各班に渡す)</li> <li>【名鉄バス】</li> <li>仰星1組40系統8:10, 33系統8:11</li> <li>特進2組33系統8:57, 33系統9:11,</li> <li>・星城ウォーターを現地へ運ぶ(担任 or SGL主任)</li> <li>・出欠を確認する</li> </ul>
2限目	<p>協働する団体と合流し、全体で開始の挨拶をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長は担任に出欠を報告する</li> <li>協働する団体と合流する</li> <li>9:00 大蔵池、前後駅、三崎水辺公園</li> <li>10:00 豊明団地、はざま公園</li> <li>各クラス代表の生徒(又は担任)より</li> <li>①全体がそろって挨拶(全員)</li> <li>②各班と協働団体に分かれて各花壇へ移動指示</li> <li>各班に分かれて班の代表者より</li> <li>③参加のお礼と簡単な趣旨説明をする</li> <li>④花植えについての注意事項を連絡する</li> <li>⑤星城ウォーターを参加住民に配布する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にクラス代表生徒、各班代表生徒を指導しておく</li> <li>・写真係に活動前の写真を撮らせる</li> <li>・迷惑にならない場所を確保する</li> <li>【注意事項】</li> <li>・体調管理最優先で無理をしない</li> <li>・穴を掘り中に水を入れて苗植え</li> <li>・星城ウォーターの配布のタイミングは各担任の判断で行う。</li> </ul>
3限目	<p>花壇に花植えを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働する地域の人とコミュニケーションをとりながら花植えを行う。(会話をすること)</li> <li>・地域の人々に喜んでもらえる花壇づくりを目指すので、雑な作業はしない</li> <li>・周囲の迷惑にならないように目配りしながら作業を進める</li> <li>・土などで周囲が汚れるので、きれいに清掃する</li> <li>・草などのゴミを袋に入れてまとめてく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全第一で作業させる</li> <li>・写真係に活動中の撮影するように指示する</li> <li>・生徒の活動の様子とともに、周囲の状況をよく確認する</li> <li>・ゴミ袋を持参する</li> <li>・ほうきなどの清掃道具を持参する</li> <li>・写真係に撮影するように指示する</li> </ul>
4限目	<p>完成した花壇と参加した住民・生徒の記念写真を撮る</p> <p>花壇完成後、班ごとに終了の挨拶をする</p> <p>解散する(現地解散)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班写真係は活動中の写真を撮る</li> <li>【作業前・活動中・完成時の写真】</li> <li>・隣の班員に協力してもらい、集合写真を撮る</li> <li>花壇づくりが終了したら、担任へ報告する。</li> <li>担任立ち合いの下で、各班代表の生徒より</li> <li>・各班代表者はハングアウトで、<a href="mailto:glocal.sgl@seijoh.jp">glocal.sgl@seijoh.jp</a>へ作業前・活動中・終了時の集合写真を送る</li> <li>・担任の指示で解散する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各班の代表生徒等を指導しておく</li> <li>・水やりは基本的に当番表にそって生徒が行うのが前提</li> <li>・体調不良者やケガ人の有無などを確認する。</li> <li>・参加住民の方々へお礼を伝える</li> <li>・各探究班の集合写真を送信するように指示する</li> <li>・事後に校外活動報告書を提出させる</li> <li>・事後にmanacaを回収する</li> </ul>



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、これまで準備してきた「花溢れる街づくりプロジェクト」を地域の方々と協働し成し遂げることである。またこれを契機に地域の方々とつながりを深め、地域の課題をより深くリサーチすることで、打開策・改善策の提案ができることを見据えていた。

しかしながら、当日はあいにくの雨天となり、大幅に規模を縮小した形での実施となった。見込みでは150名が各地に集まり、本校仰星コース・特進コース1年生の生徒たちと共に「花溢れる街づくりプロジェクト」を実施する予定であった。当初の予定と比較すると少ないながらも参加・協力してくださった方々と花壇の完成した様子について話し合い、可能な限り花苗を植え、その他多くの花は植えるはずであった花壇内に配置して、参加者・生徒の健康面を配慮し本時を途中で切り上げ終了となった。

## 【生徒の学びと教育的効果】

ここまで準備をしてきた生徒の思いとしては、やはりやりきれない思いであったことが推察できる。しかし、これまでの活動と地域の方々とコミュニケーションで生徒たちの気持ちの熱さは十二分に伝わっていると考えられ、今後の活動においても不自由が出ることは考えにくい。ただ、コミュニケーションの輪を広げられなかったことは誠に残念である。相手のことを思い調整を重ねてきた計画も、天候によっては大きく左右されてしまうことを改めて感じた様子で、自分たちの力、あるいは、人の力ではどうにもならないことを経験できたというのはこの年代の生徒たちにとっては今後に生かせる感情の揺さぶりとなったと思われる。この気持ちや感情をあらためて今後の活動にいかしてほしい。

## 【育成の評価と改善点】

この「花溢れる街づくりプロジェクト」は地域の方々と笑顔で自然と接することのできる、また人とのつながりが生まれる活動である。一方で、実地での活動日数が必要であり、当然当日も屋外での実施となる。活動の時期や季節・天候を考えると雨天が多いシーズンでの実施となるため、現状でも相当柔軟な年間計画であるものの、より変更が効くスケジュールにしてあげたいという思いがある。特に児童との協働を計画していたグループはほぼ協働できずに終えてしまった。また、花植え後の協働団体との水やりなどの定期的な花壇整備の計画の相談がしづらくなってしまった点は、今後改善が必要である。

今年度は授業時間数が減ってしまったため、花壇の整備に授業の時間帯として赴くことはほとんどできないが、来年度は今年度のことも踏まえ、花植え後の花壇整備をすべて行うとしてもある程度は維持できるよう、もう1時間実地にて花壇整備を行うことのできる時間を加えたほうが良いように感じた。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第10回 11月7日(土)】

1. 単元名 : 地元地域の視点とグローバルな視点の両方から解決すべき地域課題について考える。
2. 学習内容 : 地元地域の住民のお話から地域の現状と課題について考える。また JICA 職員などのお話から世界各地の現状と課題について考える。
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目 9:00	<p><b>【TL 探究】</b>  <b>地元地域で活動されている住民の方から地域の現状と課題について話を聞く</b></p> <p>仰1組 中野様 (えがお家)                      仰2組 長山様 (豊明植物愛好会)                      特1組 杉山様 (落合みまもりたい)                      特2組 近藤様 (国際交流協会)                      特3組 松井様 (館なかよし会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・号令をかけ、挨拶する</li> <li>・住民の方の自己紹介を聞く</li> <li>・どのような活動をされているかを聞く</li> <li>・地域課題をどのように考えているかを聞く</li> <li>・高校生に期待したいことを聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨を説明し、自己紹介を促す</li> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取るように指示する</li> <li>・講師の顔を見ながら話を聞くように促す</li> <li>・積極的に質問するように促す</li> <li>・やり取りがうまく進むように支援する</li> <li>・代表生徒は事前に指導しておく</li> <li>・なぜそれが課題なのか、その背景や現状で見られる様々な困難などを考えさせる</li> <li>・話し合いの内容や考えたことなどをしっかりと聞くように促す</li> </ul>
10:00 頃	(講師の方々は退室する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことについて質問をする (事前に準備及び話を聞いて疑問に感じたこと)</li> <li>・質問に対する返答を聞く</li> <li>・お礼のあいさつをする (代表者&amp;クラス全体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトや配布物の準備をする</li> <li>・生徒の出欠状況を確認する</li> <li>・趣旨を説明し、自己紹介を促す</li> </ul>
2 限目	<p>話を踏まえ、興味のある地域課題について各探究班で話し合い、発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で興味のある地域課題について話し合い、関連するデータ等を検索し、調べたことをワークシートに記入する</li> <li>・各班の代表者が話し合った地域課題や検索したデータなどを発表し、クラス全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの内容や考えたことなどをしっかりと聞くように促す</li> <li>・プロジェクトや配布物の準備をする</li> <li>・生徒の出欠状況を確認する</li> <li>・趣旨を説明し、自己紹介を促す</li> </ul>
10:30	各アラカルト講座会場へ移動する (トイレ休憩含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カバンなどの荷物をもって、各会場へ移動する (トイレ休憩含む)</li> </ul>	
10:45	<p><b>【TG 探究】</b>  <b>アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内に指定された座席に着席する</li> <li>・号令をかけ、挨拶する</li> <li>・講師の方々の自己紹介を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取るように指示する</li> <li>・講師の顔を見ながら話を聞くように促す</li> </ul>
3 限目	<p>①内海悠二 (名大准教授アフガン、ヨルダン)                      ②佐藤邦子 (元 JICA、東ティモール)                      ③後藤千明 (JICA、エジプト、スーダン)                      ④玉置美晴 (看護師、カンボジア)                      ⑤倉坪久美 (元 JICA、ジンバブエ)                      ⑥荒木恵美子 (JICA、ジャマイカ)                      ⑦林研吾 (JICA、SDGs)                      ⑧世古英弘 (JICA、トンガ)                      ⑨久富翔子 (JICA、スリランカ)                      ⑩山田修土 (名大農学センター、ドミニカ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地の現状や課題について、講師の方が活動されたことや経験されたことを聞く</li> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取る</li> <li>・世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを聞く</li> <li>・高校生に期待したいことを聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取るように指示する</li> <li>・講師の顔を見ながら話を聞くように促す</li> <li>・グループで活動する際は、速やかに構成できるように、教員主導で指示を出す</li> <li>・各班の発表や質疑応答が円滑に進むように支援する</li> <li>・担任は事前に指導しておく</li> </ul>
4 限目	<p>課題解決についてグローバルな視点で考える                      提示された内容について各班で話し合う (その場で即席のグループをつくる)                      発表・質疑応答などをする                      解散する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された内容について各班で話し合う (班内で話し合いの進行役(リーダー役)をきめる)</li> <li>・発表したり、質問したりする</li> <li>・お礼のあいさつをする (・教室の片づけをして解散する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の発表や質疑応答が円滑に進むように支援する</li> <li>・担任は事前に指導しておく</li> <li>・講師の方を SGL 室まで案内する</li> </ul>
12:45			

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の最大の狙いは「生の声」「生きた言葉」を聴く事である。コロナ禍の中、インタビューといったリサーチがしにくい状況を改善するため、当事者を学校へ招いて生徒たちが直接話を聴く、質問をする場を設定した。

前半パートは前回の活動で共に花植えを協働した団体の代表者の方々をお招きして、高齢者の方が抱える悩み、高齢者の方々が感じる豊明市の課題などを直接聴く場面を作り、生徒たちの地域課題の発見、課題解決の糸口を見つける一助になればと考えた。

後半パートは本校海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪氏のご協力のもと、海外での活動経験の豊富な方々10名にお集まりいただき10講座を展開し、学年、クラスに関わりなく自分の興味を持った講座に参加するアラカルト講座を開講した。ここでは、実際に海外で社会貢献活動に身を投じた方々の生きた言葉を聴くことで、グローバルな視点を持つことの重要性を狙いとした。

## 【生徒の学びと教育的効果】

今回の花植え活動は、生徒たちが主体性を持って協働団体を探し、また花植えまでにできるだけ多くの接点を設けて取り組んだ。そして花植え後も、今回のような場を設けたことにより交流が深まり、話がしやすくなり、花植え後の花壇の整備や水やりを円滑に進められるのではと思われる。ある協働団体の方は、生徒にお手製のキーホルダーを下さり、記念写真を撮るなど、親密性が高まり、高齢者の抱える課題をより身近に感じる事ができたのではないかとと思われる。

また、後半パートのアラカルト講座では、自らが選択した講座を受講したことから、受け身の姿勢ではなく、より能動的に話を聴いたのではないかとと思われる。また、各講師の先生方も比較的若い講師をお呼びし、実体験に基づいた話をしていただいたため生徒も興味深く耳を傾けていた。講演後も残って質問をしている場面が見られた。

## 【育成の評価と改善点】

今回の授業を通して、当事者の「生の声」「生きた言葉」を聴けたことで、生徒たちは単なる与えられた課題から、自分たちで解決したい身近な課題へとシフトするきっかけになった。今後はこのような仕掛けをいかに効果的に、継続的に用意できるかが生徒の学びの深さにつながると実感した。

またアラカルト講座では、思った以上に生徒たちが興味・関心を持って話を聴いていた。コロナ禍の中、海外研修が中止となる中でも、生徒たちはグローバルな事柄に興味・関心を持ち続けていたことを実感した。次年度以降も新型コロナウイルスの影響で海外研修は厳しい状況であることは予想されるので、いかにグローバルな視点を与え続けられるか工夫をする必要性を感じた。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第11回 11月21日(土)】

1. 単元名 : 探究成果発表における「新たな地域協働活動」の提言内容を決める。
2. 学習内容 : これまでの学びや経験を踏まえ、各探究班で新たな地域協働活動をブレインストーミングで検討し、提言内容を決める。
3. 授業進行表【TG 探究 Think Global】 【TL 探究 Think Local】 【AG 探究 Act Global】 【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
<b>1 限目</b>	2 学期ルーブリック評価を実施する	・ルーブリック評価表を見て自分の活動を振り返り、各項目について自己評価を行う。	・ルーブリック評価用紙を配付し、終わり次第回収する
9:15	<b>【TL 探究】</b> 探究成果発表の発表形式を理解する Google Meet を活用したセルフレコーディングの紹介	・Glocal High School Meetings 2021 の HP にある発表サンプル動画を見て、発表形式を理解する。	・プロジェクターで投影する。
9:25	発表内容の作成ルールを理解する 発表時間 6 分 (1 人 1 分以上) Google Slide 8 枚でまとめる 日本語での発表 (原則として)	・Google Classroom で配信された発表内容の作成ルールを見て、スライドと原稿の作り方のルールについて理解する。	・配信された資料の内容について理解できたかを確認し、補足説明等を行う。
9:35	探究成果発表に向けた日程を理解する 本日 新たな協働活動の提言決定 12/5 スライド&原稿作成 12/28 スライド&原稿提出 1/16 スライド&原稿完成 ~1/30 セルフレコーディング 2/6 クラスで各班発表・代表選出 2/13 選抜班による発表会	・Google Classroom で配信された日程表を見て、探究成果発表完成までのスケジュールを確認し、理解する。	・配信された資料の内容について理解できたかを確認し、補足説明等を行う。
<b>2 限目</b>	新たな地域協働活動の内容を検討する	・地域課題は何かを考える・調べる 「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」を前提とする	スライドサンプル 1 発表タイトル・氏名、地域への興味・関心・疑問・気づき・経験等 2 地域課題が何で誰が対象なのか 地域・日本・世界の実態把握等 3 地域課題の根拠 (データやエビデンス) をグラフや表で明示 4 どのようになればその地域課題が解決されるか (仮説設定) 5 解決に向けた新たな地域協働活動の提言とその活動概要の説明
<b>3 限目</b>	(各クラスで適宜トイレ休憩を設定)	・どうすることによってその地域課題が解決されると思うかを考える (仮説をたてる)	6 新たな地域協働活動の詳細内容やコンソーシアムとの協力内容 7 新たな地域協働活動で期待できる効果や想定される変化
<b>4 限目</b>	各班で考えた新たな地域協働活動の内容をクラス内で共有する 授業終了	・(仮説に基づき) 地域課題の解決につながる新たな地域協働活動の内容をブレインストーミングによって検討する コンソーシアムとの協働を視野に入れる ・Google Document 共有ファイルに提言内容を入力する	8 地域課題解決と SDGs との関係、まとめと今後の課題など
		・各班の代表者 (複数人でも可) が自分の班で検討して決めた新たな地域協働活動の提言内容をクラス全体場で発表する。	
		・解散する	

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは、ここまで生徒たちが体験してきた地域の方々との交流や花植え活動を踏まえて、地域課題を発見することにある。その前提が「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」であることをしっかりと認識しながら、地域への興味・関心・疑問・気づきなどをディスカッションする。またSDGsのどの目標に該当するのかも考えさせる。その際にはこれまで練習してきたブレインストーミングを行って、グループの意見が活発にできるように心がける。そしてブレインストーミングによって出された意見・アイデアをKJ法を用いて整理し、課題が何で誰を対象としているのか明確にさせる。またその課題の根拠となるデータやエビデンスを明らかにしていく。

## 【生徒の学びと教育的効果】

多様な意見が出るように、各グループは男女混合班としている。ディスカッションの様子を見ていると、ファシリテーター的な役割をするメンバーが現れたところは、より議論が活発に行われていた。また、意見・アイデアを多く出す生徒や、ホワイトボードにまとめていく生徒など、グループの中で各自がそれぞれの役割を理解して、担っていく場面がみられるようになった。ブレインストーミングを練習してきたこともあり、他者の意見を排除するといった場面は見られず、意見を言うこと、アイデアを出すことは恥ずかしくないといった土壌が醸成されてきていると感じた。

## 【育成の評価と改善点】

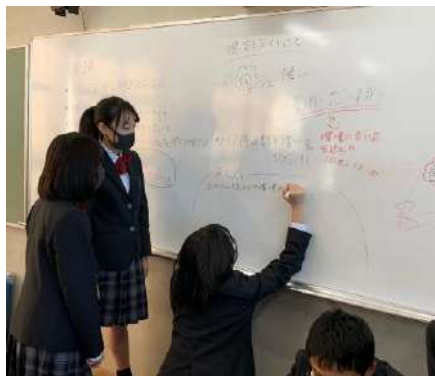
年間授業計画の最初の段階で、ブレインストーミングとKJ法に取り組ませた事がディスカッションの場で生きていた。意見やアイデアは積極的に出せるような土壌が確実に育まれつつあった。ただし、沢山出た意見やアイデアを集約していく能力はまだまだ経験不足の感が否めなかった。ファシリテーターを養成するレベルまでの落とし込みは授業内でできていなかった。グループによってディスカッションの盛り上がりには差が大きく見られた。来年度に向けては、ファシリテーターをグループ内に必ず配置する仕組み、もしくは養成するプログラムを創出することで、グループ間格差の是正が図れるものとする。このことは何もSGLの授業以外の各教科の授業の中でも養える能力であるので、教科を横断して意識的に取り組むことが大切である。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学 I 授業進行表【第12回 12月5日(土)】

1. 単元名 : 探究成果発表の発表スライドと発表原稿の作成
2. 学習内容 : 探究成果発表の概要を各班で検討し、それをもとに発表スライドと発表原稿の作成をする
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目	<p>【Glocal 探究】 新たな地域協働活動の提言内容を決める</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回検討した新たな地域協働活動の提言内容を振り返り、必要があれば更に検討を続ける</li> <li>・地域課題は何かを明確にする</li> <li>・SDGs の何の目標に該当するかを考える</li> </ul>	<p>スライドサンプル</p> <p>1 発表タイトル・氏名、地域への興味・関心・疑問・気づき・経験等</p> <p>2 地域課題が何で誰が対象なのか地域・日本・世界の実態把握等</p> <p>3 地域課題の根拠（データやエビデンス）をグラフや表で明示</p>
2限目	<p>新たな地域協働活動の具体的な企画案を検討する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮説を設定してもよいただし実践がないので検証はできない可能性が高い）</li> <li>・新たな地域協働活動の提言内容について、具体的な企画として誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するかを検討をする</li> </ul>	<p>4 どのようになればその地域課題が解決されるか（仮説設定）</p> <p>5 解決に向けた新たな地域協働活動の提言とその活動概要の説明</p> <p>6 新たな地域協働活動の詳細内容やコンソーシアムとの協力内容</p>
3限目	<p>地域課題に関するデータを収集し、必要に応じてまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表タイトル（仮）を検討し、決める</li> <li>・必要に応じて副題も考える</li> </ul>	<p>7 新たな地域協働活動で期待できる効果や想定される変化</p> <p>8 地域課題解決と SDGs との関係、まとめと今後の課題など</p>
4限目	<p>探究成果発表のスライド8枚の構成を検討する</p> <p>探究成果発表のスライド作成分担を決め、作成する</p> <p>分担したスライドの発表原稿を考え、作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題や地域の現状について、問題点として認識できるようなデータやエビデンスなどを調べ、説得力をもつグラフや表を作成する</li> <li>・8枚のスライドの構成を考え、6分間の発表概要を班で共有する</li> <li>・自分が作成するスライドを決めて、担当することになったスライドの作成をする。作成するスライドは8枚あるので、最初や最後のスライドは班員で協力して作成するのが望ましい</li> <li>・自分が担当するスライドについて、その説明をするための発表原稿を作成する。</li> </ul>	<p>スライド作成と原稿作成を班内で分担することによって、班員全員で作成するように指導する</p> <p>12月28日にスライドと原稿をひととおり作りあげて、一度提出することを伝える</p> <p>1月中に教員の助言をもとに修正し、セルフレコーディングを完了しなければならないことも伝える</p> <p>2月5日にクラス内で各班がプロジェクターに投影して発表することも伝える</p> <p>スライド1枚につき1分程度が目安とし、文字数はおおよそ250文字～300文字を目安として作成する</p>
	授業終了	解散する	

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは前時の授業を受けて、生徒たちの提言内容を進化・深化させることである。自分たちが設定した地域課題は適切な課題設定であるかを確認し、自分たちの提言内容が具体的な企画として誰を対象に、いつ、どこで、どのように実施するかを検討をするとともに、実際に課題解決と結びついているかどうかを検証する。またコロナ禍であるため実践することが難しいため検証はできないが仮説を立てながら、自分たちの提言が実際に地域課題の解決につながるのか、データやエビデンスを調べながら進めていく。

また iPad を使ってスライドや原稿を班員と共有しながら作業を進めていく。生徒全員が ICT ツールに触れ、そのスキルを高めていく。

## 【生徒の学びと教育的効果】

発表スライドの形式は Google スライドを用いて 8 枚構成とした。班の構成は 6 名前後なので、導入のスライドとまとめのスライドは全員で取り組み、残りの 6 枚を、それぞれが分担するという想定である。まだまだ iPad を使いこなせる生徒は少なく、開始時点では悪戦苦闘していたが、やがて使い慣れている生徒が周りの生徒に使い方を教えるという動きが見られた。

## 【育成の評価と改善点】

生徒たちが様々なアイデアを形にしていく過程で、教員がどのような形でサポートしていくの、これは大きなテーマである。今年度は生徒の主体的な学びに重きを置いているので、できるだけ生徒たちがひらめいたものを大切にしつつも、時にテーマから大きくかけ離れたり、極めて現実味がない提言に対して、教員がどのように声かけして、修正していくのか、教員自身のスキルの向上も図らなければならない。

発表原稿の作成については、iPad でデータを共有して作業を進められるようにしたもの、やはり能力のある生徒が一人でまとめている姿が散見された。一人の生徒に負荷がかかりすぎないように配慮が必要である。

また iPad の基本操作や、Google スライドの使い方などを丁寧に教える時間を確保することができずいたため、授業当初の動きが鈍かった。このようなスキルこそ、教科を横断して、日頃の情報の授業で前もって身につけさせておくべきと痛感した。来年度は情報科の教員とも、SGL 活動の情報を共有しながら、情報の授業の中で必要なスキルが身につけられるように、協力体制の構築が必要である。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第13回 1月16日(土)】

1. 単元名 : 探究成果発表の発表スライドと発表原稿の修正と発表練習
2. 学習内容 : 発表スライドと発表原稿を修正し、2月6日のクラス内発表に向けて準備する
3. 授業進行表 【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	【Glocal 探究】 ルーブリック評価表を確認する 発表原稿とスライドを修正する	ルーブリック評価表の内容を確認する  <b>発表内容の確認事項</b> ・星城高校の探究テーマに沿った内容である ・地域課題が何かを明確にしてある ・エビデンスを用いて地域課題が見えている ・SDGs との関連に言及している	レベル4を目指すように促す  確認事項について、自分たちの発表内容の中に入っているかを、各班・各自で確認させる
2 限目		・新たな地域活動の企画が提言として述べられている ・地域課題解決にどうようにつながるのかを明らかにしている	
3 限目	完成した発表原稿とスライドを用いて 発表練習する	<b>原稿とスライドの修正</b> ・作成した原稿とスライドを担当の先生に確認してもらう。 ・担当の先生から改善するように指示された内容を修正する	言葉遣いだけでなく、発表全体のストーリー構成についても修正すべき点を指摘する
4 限目	発表の画面収録を締め切り日確認	・原稿を見ずにスライド内容が説明できるように内容を暗記する ・黒板前のどの位置に立って話すか、その位置を考える ・実際にプロジェクターでスライドを投影して発表してみる ・担当の先生に発表を見てもらい、助言をもらう ・原稿を見ずにスライドを用いて発表できるように練習する。 ・1月中に画面収録を完了してデータ提出することを確認する	最低限の発表ではなく、できるだけ努力の成果があらわれる発表になるように、生徒には高い目標を持たせる
	授業終了	・解散する	セルフレコーディングの方法も併せて確認する



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは前時の授業終了後から、そして冬休みを利用して作成した発表原稿および発表スライドを各クラス担任の点検、指導を受け、改善、修正を行うことである。

次時の授業で発表となるので、最終的な原稿、スライドの完成をめざす。また完成したところから、iPadを用いて、セルフレコーディングを行う。

また、こうしたグループ活動をする、必ずと班内で摩擦や衝突が起きる。原稿・スライドの作成を通して、生徒たちが仲間たちと協力して、協働していく力を身につけていく。

## 【生徒の学びと教育的効果】

前時からの弾き続きの内容なので、スキル面は向上し、作業は概ね順調に進んでいる。スライドが完成した班には実際にプロジェクターを使って投影させ、iPad上での見え方と、プロジェクターで投影した際の見え方をチェックし、文字の大きさや色の付け方、グラフや表の大きさを確認し修正を行った。

セルフレコーディングについては初めて行う生徒がほとんどであったので、レコーディングマニュアルを作成し、生徒に配信した。セルフレコーディングに着手した班は、話すスピードや声のトーンを意識するようになった。ただ発表するのではなく、自分たちが作り上げた発表をいかにして人々に伝えるか、発信力の大切さに気づき始めた生徒も多かった。

## 【育成の評価と改善点】

生徒一人ひとりの「主体性」と仲間との「協働」、この2つの点を融和させるかが、本時だけではなく、SGL活動が実りあるものになるかならないかの鍵を握っている。班内にリーダーとサブリーダーを置いているが、班をまとめる推進力があるかないかで作業速度に大きな差が生まれた。生徒たちのリーダーシップの育成はもちろんのこと、いかにして教員がフリーライダーを作らないように、生徒たちに声かけをしていくかが大切である。

また作業が順調に進んでいない班では、一人に作業のしわ寄せが行き、摩擦や衝突が起き始める。そういった場面において、教員の働きかけによって、生徒たちが摩擦や衝突を乗り越え、一段高いレベルへと成長できるように指導力の向上が望まれる。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第14回 2月6日(土)】

1. 単元名 : 日本語での探究成果発表と代表班の選出
2. 学習内容 : 各班が探究成果発表を日本語で行い、審査・投票によってクラス代表班を選出する
3. 授業進行表 【TG探究 Think Global】 【TL探究 Think Local】 【AG探究 Act Global】 【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<b>【Glocal 探究】</b>  探究成果発表の練習をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿を見ずにスライド内容が説明できるように発表内容を把握する</li> <li>・黒板前のどの位置に立って話すか、その位置を考える</li> </ul>	<p>レベル4を目指すように促す</p> <p>最低限の発表ではなく、できるだけ努力の成果があらわれる発表になるように、生徒には高い目標を持たせる</p>
2 限目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にプロジェクターでスライドを投影して発表してみる</li> <li>・担任の先生に発表を見てもらい、助言をもらう</li> <li>・原稿を見ずにスライドを用いて発表できるように練習する。</li> </ul>	<p>接続ケーブルを準備する</p> <p>発表のやり方について助言する</p> <p>暗記することが目的ではないことを理解させる</p>
3 限目	日本語で探究成果発表をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の探究成果発表を順番に行う</li> <li>(1)プロジェクターでスライドを投影する</li> <li>(2)日本語で発表する</li> <li>(3)発表しない班は審査する *別途審査用紙あり</li> <li>(4)時間は計測しない</li> </ul>	<p>発表する順番を決める</p> <p>審査用紙を配布する (各6枚)</p> <p>iPad で各班の発表を撮影する</p> <p>各班発表の前後は拍手をする</p> <p>厳正に審査するように指導する</p>
4 限目	代表班を選出する  授業終了	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査用紙の集計によりクラス1位の班を選出する</li> </ul> <p>解散する</p>	<p>各生徒に合計点数を書かせ、用紙回収後はすみやかに集計し、結果を発表する</p>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは発信力と対応力である。発信力は、自分たちが作り上げた発表をいかにして聴衆に訴え、共感を得るかということ。そして対応力は、自分たちの発表に対して行われる質疑応答の場面で、質疑に対して適切に回答できるかということと同時に、他の班の発表を真剣に聴き、疑問点を見いだすことを目標とする。

授業の後半に、クラス内でプロジェクターを使って、班ごとに発表を行う。持ち時間は6分とし、必ず全員で、自分のパートを発表する。また各班の発表に対しては、発表班以外の班から、必ず1つは質問することを目標とし、質疑応答の時間も設ける。

また、生徒間で投票を行い、クラスの中で優秀班を選出する。

## 【生徒の学びと教育的効果】

授業の前半を使って、生徒たちは、発表原稿および発表スライドの最終チェックを行い、発表に向けて自主練習を行った。生徒たちには人に伝わる発表とは何かを考えさせた。そこから導き出される答えは、原稿を自分のものにするということ。それは単に丸暗記するというのではなく、必ず訴えるべき大事なポイントはどこかを強く意識させることである。やはりここでも教員がいかに効果的な助言を与え、生徒たちのモチベーションを上げるかが大切である。

## 【育成の評価と改善点】

発表原稿および発表スライドの作成にぎりぎりまで時間を要した班が多く、原稿を見ずに発表できた生徒は少数であった。しかし、そういった生徒が多くいた班は、聴衆への説得力も強い発表となり、優秀班に選ばれる傾向にあった。生徒たちも、良い発表原稿・スライドを作り上げることと同等に、発信する力の大切さを感じたようであった。

質疑応答については、これまでの授業の中でそういった場面設定をしてこなかったため、何をどう質問していいかわからない生徒が多いように感じられた。また質問されても、何をどう答えていいかわからない生徒も見られた。来年度はプレゼンテーションに向けて、質疑応答があるといった点を意識させ、事前に想定問答を作成する必要性を感じた。そんな状況でも、切れ味鋭い質問を投げかける生徒もあり、生徒の成長を感じる場面も見られた。他の生徒たちもそういった質疑応答のやりとりを見て、大いに刺激を受けていた。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅰ 授業進行表【第15回 2月13日(土)】

1. 単元名 : 校内及び全国大会の優秀な探究成果発表視聴・花壇整備
2. 学習内容 : 優秀な探究成果発表を視聴し、自分たちの発表の改善点を探る。各担当地へ行き、花壇の草抜きや水やり、苗の追加などの整備を行う。
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p><b>【Glocal 探究】</b></p> <p>校内1年生の優秀発表動画視聴</p> <p>自分の発表と比較する</p> <p>全国高等学校グローバル探究オンライン発表会の優秀発表を動画視聴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各コース1位の発表動画を視聴する(仰星1つ・特進1つ)</li> <li>感想や意見を書き、自分たちの発表に足らなかったことなどを探る</li> <li>日本語部門の金賞校の探究成果発表から1つ選びプロジェクターで動画を視聴する</li> <li>感想や意見をワークシートに記入する</li> </ul>	<p>指定された発表動画を学校 HP から視聴する(プロジェクター投影)</p> <p>記入用紙を事前に作成し、配布しておく。</p> <p>大会 HP の結果ページを見せる</p> <p>生徒に各部門1つの発表を選ばせる</p>
2 限目	<p>自分たちの探究発表の改善点を探る</p> <p>ループリック評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語部門の金賞校の探究成果発表から1つ選び、プロジェクターで動画を視聴する</li> <li>感想や意見をワークシートに記入する</li> <li>自分の班の発表と比較して、優れているところを考える。また、自分の班の発表の改善すべき点をまとめる</li> <li>ループリック評価表をもとに3学期の活動について自己評価をする</li> </ul>	<p>時間があれば意見や感想を発表させてクラス内で共有する</p> <p>時間があれば改善点などを発表させてクラス内で共有する</p> <p>記入用紙を回収する</p> <p>ループリック評価表を配布し、記入後に回収する</p>
3 限目	花壇整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の班が担当する花壇へ移動し、花壇の整備をする</li> </ul>	<p>交通安全等の諸注意の後、解散</p> <p>現地で点呼確認</p>
4 限目	授業終了	<p>持ち物 軍手、スコップ、ゴミ袋</p> <p>バス利用 仰星1年1組三崎水辺公園、 特進1年2組豊明団地 特進1年3組はざま公園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草抜き、ブロック修正、水やりなど(制服で可能な作業をする)</li> <li>必要に応じて花苗を購入し、植え替え可</li> <li>作業が終わり次第、解散する</li> </ul>	<p>manaca の事前準備</p> <p>バス時刻表事前確認</p> <p>利用時間事前調整</p> <p>花苗購入の場合は事前に SGL 主任に相談が必要</p> <p>現地で解散の指示をする</p> <p>月曜日に manaca と書類を回収</p>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

本時の狙いは他者の発表を見ることにより、自分たちのグループとの比較を通して、自分たちが頑張れたこと、そして来年度に向けて何をどう改善すべきかを発見することである。まずは、同じ1学年の他クラスの優秀発表を視聴する。自分たちと同じアプローチをしながらも、テーマ設定や提言内容の着想の豊かさ、スライドの見やすさ、発表時の工夫を知ること、自分たちの発表の改善点を発見する。次に「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」で金賞を受賞した福島県立ふたば未来中学校・高等学校と高知県立室戸高等学校の発表を視聴する。全国レベルの発表を視聴することで、来年度自分たちが目標とする山の頂の高さを実感させる。

授業の後半では、自分たちが地域の方々と協働して作成した花壇の整備をクラス全員で行う。再度地域に出ることで、自分たちが作成した花壇が地域の方々に求められていたことを実感させる。また、花を植えておしまいではなく、継続的に整備する必要性を感じさせるとともに、来年度、後輩たちにバトンを渡す意味においても、花壇に愛着が持てるように促していく。

## 【生徒の学びと教育的効果】

同じ学年の優秀な発表を視聴することで、自分たちが気づけなかった視点やアプローチ、データの活用、提言内容について気づきの場となった。また、「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」で金賞を受賞した福島県立ふたば未来中学校・高等学校と高知県立室戸高等学校の発表を視聴したことで、全国レベルの発表の質の高さや、スライドの見せ方、活動の実践の様子を知ること、多くのグループが自分たちの発表の改善点に気づくことができていた。与えられたワークシートの書き込み量も多く、生徒たちが刺激を受けたことがうかがえる。

授業後半に行った花壇整備は、本来であれば、再度地域の方々と協働して整備を行いたかったが、愛知県下に緊急事態宣言が発令していたこともあり、本校生徒のみの実施にとどまった。それでも、地域に根付いた自分たちの作成した花壇を見ることにより、自分たちの活動の意義を再認識する良い機会となった。

## 【育成の評価と改善点】

本時が年間最後の授業であった。コロナ禍の中、地域での活動が厳しい状況ではあったが、こういう時だからこそ、高校生ができることがあると考え、生徒たちは自分たちで考え、行動することができたと思う。だからこそ新たな課題も見えてきた。来年度も、同じクラス、同じメンバーで活動できれば、活動内容がより深まることは明らかではあるが、新たなクラス編成となり、新たな班編成となる。今芽生えた課題意識を、生徒個々人がしっかりと胸に刻んで、来年度にどのように繋げていくか、それを我々指導する教員がどのように支えていくか大きな課題である。

## (2) 総合的な探究の時間【SGL 地域協創学Ⅱ】

2年生の総合的な探究の時間「SGL 地域協創学Ⅱ (2単位)」は、「Think Global」「Think Local」「Act Local」「Act Global」の4つで構成される。「Think Global」ではグローバルな視点でSDGsを理解し、世界規模のまたは世界の各地における解決すべき課題について考える。「Think Local」では1年生での学びを踏まえ、地元豊明市の地域課題について調べ、より深く考えることによって、より詳細で具体的な解決すべき地域課題を見いだす学びとなる。「Act Local」では地域協創プロジェクトを企画し、実践する。これは地域課題の解決に向けた啓発物を開発するプロジェクトである。「Act Global」はベトナムで多文化共生社会について学ぶ全員参加型の海外研修を実施する。しかし海外研修の実施が不可能となったため、オンラインツアーでベトナムとカンボジアについて学ぶ機会を設定した。

「Act Local」について、昨年度の経験を踏まえ、生徒たちがコンソーシアム関係団体と協働して地域課題やその解決について考え、解決に向けた啓発物を開発する学びとなる。5～6人の各探究班のそれぞれが地域調べをもとに地域課題を設定し、コンソーシアムの方々と協議したりアドバイスをもらったりして、自分たちが設定した地域課題を解決するためにはどのような啓発物があればよいかを検討した。そして自分たちが考えた啓発物を実際に作成して地域の方々に提供することで地域課題解決につながったのかについて検証する。生徒自らが地域のさまざまな団体やお店などに開発協力やアンケートの実施などを依頼して開発を実践するため、1年次よりもさらに地域課題解決に踏み込んだ学びになると期待される。

### SGL 地域協創学Ⅱの年間授業計画

回	日付	授業内容
第1回	6月6日(土)	SGL活動の概要説明、チームビルディング、SDGs 目標1
第2回	6月20日(土)	豊明市長・校長メッセージ、SDGs 目標2、地域協創プロジェクト地域課題調査
第3回	7月4日(土)	SDGs 目標3、地域協創プロジェクト地域課題調査と啓発素材内容検討
第4回	7月18日(土)	SDGs 目標4、地域協創プロジェクト地域課題調査と啓発素材内容検討
第5回	8月1日(土)	SDGs 目標5、地域協創プロジェクト地域課題調査と啓発素材内容検討
第6回	9月5日(土)	啓発素材開発スケジュール表作成、現地踏査、インタビュー、アンケート
第7回	9月19日(土)	現地踏査、啓発素材開発開始
第8回	10月3日(土)	現地踏査をもとにした啓発素材開発
第9回	10月17日(土)	現地踏査をもとにした啓発素材開発
第10回	11月7日(土)	現地踏査をもとにした啓発素材開発、Think Global アラカルト講座
第11回	11月21日(土)	啓発素材開発完了と啓発素材の地域への提供
第12回	12月5日(土)	探究成果発表の原稿とスライド作成
第13回	1月16日(土)	探究成果発表
第14回	2月6日(土)	全国大会優秀発表視聴とベトナムオンラインツアー
第15回	2月13日(土)	1年生の探究成果発表への助言とカンボジアオンラインツアー

今年度の研究開発の大きな課題は「生徒の主体性」で、その育成を念頭に置いた授業の計画・実践となった。豊明市役所をはじめ市内の飲食店や携帯ショップ、俳句協会など多くの方々にコロナ禍であっても高校生が地域課題解決に取り組むことにご理解をいただき、さまざまなご協力もいただき、地域との協働で啓発物開発ができた。また、生徒が開発した啓発素材を豊明市の公式ホームページで順次紹介していただき、市民の皆さまに広報する機会もいただいた。次のページはSGL 地域協創学Ⅱの構想図であり、それ以降のページにはすべての授業における授業進行表とその授業の内容や生徒の様子、授業の改善点などを記した。

文部科学省指定 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

グローバル型地域協働推進校【外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト】

令和2年度第2学年【SGL地域協創学Ⅱ(2単位)】(総合的な探究の時間)

【2年生の主課題】 ①グローバルな視点でSDGsの理解  
②地域協創プロジェクトの企画実践  
③地域協創プロジェクトの実践発表

Think Global

★グローバルな視点での学び(地球課題探究)

主体性の向上

SDGs 17の持続可能な開発目標(4月～7月)

Think Local

★ローカルな視点での学び(地域課題探究)

探究力の向上

地域協創プロジェクトの企画(4月～7月)

Class①

×  
株式会社  
ARMS  
×  
星城大学

・e-Sports  
・ベトナム祭  
・日本語教室  
・多文化交流開発

Class②

×  
株式会社  
スギ薬局  
×  
豊明高校

・市総合防災訓練  
・ウォーキング  
・大金星体操  
・高齢者交流開発

Class③

×  
健康長寿課  
×  
社会福祉  
協議会

・ボラフェスタ  
・子ども食堂  
・認知症予防カルタ開発  
・多世代交流開発

Class④

×  
市民協働課  
×  
国際交流  
協会

・豊明秋祭外国語チラシ  
・国交フェスタ  
・多文化共生カルタ開発  
・食文化交流開発

Class⑤

×  
産業支援課  
×  
商工会・  
青年会議所

・商工会祭  
・大根炊き、梯子獅子  
・花マルシェ  
・豊明観光カルタ開発

星城高校2年生探究班



地域協働コンソーシアム

Act Local

★外国人・高齢市民との協働による学び(課題解決)

協働性の向上

地域協創プロジェクトの実践(9月～12月)

Act Global

★海外での探究的な学び(海外課題探究)

学校設定科目SGL第2外国語【ベトナム語&英語学習】

ベトナム海外研修(11月) 5日間 全員参加  
①現地企業での交流 ②現地学生との交流

発信力の向上

★課題解決に向けた学び(活動成果発表)

地域協創プロジェクト実践報告書(11～1月)

ポスターセッション形式での成果発表(2月)

Glocal 探究

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第1回 6月6日(土)】

1. 単元名 : SGL活動の始動
2. 単元目標 : SGL活動の概要理解・探究班のチームビルディング・SDGs 目標1の探究・啓発素材開発
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目 ～30分	SGL活動の概要を理解する。	音声付きスライドを視聴し、SGL活動とは何かをつかむ。	音声付きスライドをプロジェクターで投影し、必要に応じて追加の説明を加える。
～35分	ループリック評価表の内容を理解する。	ループリック評価表を読み、各項目・各レベルの内容を理解する。	1学期末に自己評価することを伝え、各項目で高いレベルを目指すように説明する。
～50分	探究班をつくる。	各班5から6名の男女混合探究班をクラス内で話し合って決める。	取り残される生徒が出ないように注意深く観察する。
2 限目 ～10分	【チームビルディング】 班内の役割を決める。	各班で話し合い、チームリーダー、サブリーダー、記録・写真係、資料・スライド係、備品管理係を決める。	各係の役割を説明し、各生徒のやる気や自主性を尊重する。また役割の押しつけがないように注意深く観察する。
～20分	【アイスブレイク】 自己紹介をする。	「積み木自己紹介」・「実は・・・自己紹介」・「他己紹介」を行う。	各探究班で自己紹介を通して班内の緊張感を解き、班員同士の融和を図る。
～50分	【アイスブレイク】 SDGs スゴロクに取り組む。	SDGsに関する質問に答えることでスゴロクに取り組む。	SDGsに対する関心を高めながら、班内で話し合いをしやすい雰囲気をつくる。
3 限目 ～05分	【TG探究】 SDGsの概要を理解する。	愛知県SDGsガイドブックを読み、SDGsとは何かを理解する	Sustainable Development Goals 17の目標にはどんな意味があるかを考えさせる。
～10分	SDGs 目標1「貧困をなくそう」について現状と課題を理解する。	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントをクラスで音読する。	世界の貧困状況を理解し、世界銀行が定める貧困ラインを理解するように導く。
～30分	「調べてみよう・考えてみよう」について各探究班で話し合い、意見集約する。	Q1 なぜ貧困が生まれるのか? Q2 貧困のない社会をつくるための取組は何かがあるか?	間違いを恐れず、自分が考えたことや調べたことを班内で素直に伝えられるように支援する。
～45分	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
～50分	3限目の振り返りをする。	授業シートに感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。
4 限目	【TL探究】 多文化共生または健康福祉に関する啓発素材・交流素材を考える。	クラスに与えられた大テーマをもとに、啓発素材または交流素材の開発に着手する。	テーマやコンソーシアム、地域課題解決に即した方向性で話し合いが行われるように促す。
～30分	各探究班で考えたことをまとめる。	それぞれが検索してつかんだ情報をまとめる。	各班でどのような情報をまとめているか観察する。
～35分	各班の発表により考えたことをクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
～45分	4限目の振り返りをする。	授業シートに感想などを記入する。	学んだことをもとに記入するように導く。
～50分			



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

第1回は今年度最初の授業となるため、1年間のSGL活動の概要を理解させることを目標の1番目とした。さらに、1年間の活動をとにもするチーム（班）を編制し、班毎の役割分担を話し合いによって決めることとした。そのうえで、各班の融和を図るために、まずは自己紹介、次に「SDGs すごろく」に取り組ませた。

授業後半では、〔TG 探究〕SDGs とは何かを理解させるために愛知県が作成したガイドブックを読んだ後、SDGs 目標1「貧困をなくそう」に関連するスライドを上映した。〔TL 探究〕として、地域が抱える問題解決手段としての地域協創プロジェクトの啓発物を何にするかについて協議をすすめる予定であったが、SDGs 目標1についての授業シートをまとめる段階で授業時間が終了した。

## 【生徒の学びと教育的効果】

今年度の活動の概要については教師が説明した。班編制と役割分担決めについては、生徒たちによる自主的な話し合いで決定させた。班編制後のアイスブレイクではとりわけ「SDGs すごろく」が盛り上がりを見せていた。コマを進めるたびにSDGsに関する質問があり、場合によっては振り出しに戻る設定だったので、自然とSDGsについて興味や理解が深められるようであった。生徒は大いに楽しんだようで、もっと続けたいと言う声も聞くことができた。この取り組みが、授業後半の〔TG 探究〕への入り口になったと思われる。SDGs 目標1「貧困をなくそう」については、スライド視聴の後、問題解決のために何ができるかを各班で話し合っ、意見をまとめることができた。

## 【育成の評価と改善点】

新型コロナウイルスによる休校期間が続いたので、第1回は、盛りだくさんな内容であった。結果として班編制や役割分担はできたが、地域協創プロジェクトへの着手には至らなかった。

しかし、「SDGs すごろく」により、班内の融和とSDGsへの理解、目標1に関する話し合いは、いい感じに進められた。目標1「貧困をなくそう」については、日本の食品ロスの問題などについて、真剣に考え、話し合うことができていた。

班編制と役割分担決めとについては、難航している場面も見受けられた。自主活動を求めたが、全ての班が思い通りになるわけではない。どのようなメンバーであっても、同一の目標に向かって協力できる生徒を育成させるためには、教師側で班を決め、分担だけを話し合わせるという方法もありえた。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第2回 6月20日(土)】

1. 単元名 :ブレインストーミングと KJ 法で意見をまとめる
2. 学習内容 :校長・市長のビデオメッセージ、ブレインストーミングと KJ 法、SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」、新たな活動の提言
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
<b>1 限目</b> ～15分	校長と豊明市長のビデオメッセージを視聴する。	ビデオを視聴し、校長と市長からのメッセージを理解する。	ブレスト・KJ 法ができてきているかを観察する。
～25分	メッセージに対する感想を書く。	感想シートに記入する。	プリントに書かれている内容に興味・関心を持つように導く。
～35分	ブレインストーミングと KJ 法を理解する。	スライドを見て、どのような手法なのかを理解する。	ブレストで多くの意見がでるように導く。
～50分	ブレストと KJ 法を練習する。	「学校に制服は必要か」をテーマにクラス全体で練習する。	何らかの観点で意見を分類するように指示する。
<b>2 限目</b> ～05分	【TG 探究】SDGs 目標について考える。 仰 1,2 特 1 : 目標 3、 特 2 : 目標 4、特 3 : 目標 11	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントを音読する。	1つのトピックを深掘りして、データなど詳細な情報をもとにまとめるように導く。
～25分	「調べてみよう・考えてみよう」ブレストで自分の意見を出す。	与えられたテーマに対して自分の考えを付箋に書き意見を出し合う。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
～35分	KJ 法で意見を整理する。	意見(付箋)を分類して整理する。	学んだことをもとに記入するように導く。
～50分	整理したものから1つのトピックに絞り詳細を調べてまとめる。	1つのトピックについて詳細な情報を調べ、考えをまとめる。	どのようなサイトを見て情報を得ているかを観察し、検索がうまく進まない班に助言を与える。多くの意見がでるように導く。
<b>3 限目</b> ～10分	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	何らかの観点で意見を分類するように指示する。
～20分	TG 探究を振り返る。	授業シートに感想などを記入する。	現在、豊明市にないものを発案するように導く。
～40分	【TL 探究】 多文化共生推進・健康福祉増進に関する啓発素材または交流素材のアイデアをブレストする。	新たな活動のアイデアをたくさん付箋に書いて出し合う。 iPad で日本・世界での様々な取組を調べて参考にする。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
40分～			学んだことを基に記入するように導く。
<b>4 限目</b> ～10分	KJ 法で意見を整理し、1つのトピックに絞る。	意見(付箋)を分類して整理する。	
～35分	啓発素材・交流素材のアイデアをまとめる。	分類したものをもとに、班としてのアイデアをまとめる。	
～45分			
～50分	各班の発表により調べたことをクラスで共有する。	各班の代表者は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。	
	TL 探究を振り返る。	授業シートに感想などを記入する。	

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

冒頭は、校長と豊明市の小浮市長からいただいたビデオメッセージを視聴した。校長は、2019年度の活動の成果への評価と、今後の活動に対する激励の言葉を語ってくれた。小浮市長のメッセージは、withコロナの時代におけるSGLの活動を今後どうするか、地域の課題解決について若者の柔らかな発想で考えてほしいという生徒たちへの期待にあふれた内容であった。

ブレインストーミングとKJ法について、実践を通して学ぶことは、今後の活動に生かすことをねらったものである。とりかかりとして、「学校に制服は必要か」という身近な問題をテーマとして、練習を行った。そして、[TG探究]SDGsに関しては、各クラスによって異なる目標をテーマとしてブレインストーミング、KJ法を実践した。

## 【生徒の学びと教育的効果】

小浮市長のメッセージでは、固定観念にとらわれない生徒たちの発想に期待するという熱い思いが語られ、頑張らなくてはいけないという気持ちを確認できたようだった。

ブレインストーミングとKJ法の練習は、「学校に制服は必要か」というテーマ設定が功を奏し、皆が自ら意見を出すだけでなく、他者の意見にも興味を持ち、意見がまとめられていく過程を注視できていた。

今後の活動においても、面と向かっては意見を出せない消極的な生徒が自己を主張できる方法として有効であると思われた。SDGs目標に対する調べ学習、目標達成の方法に関しても、日常においては何も語らない生徒がふせんに意見を書き込む姿が印象的であった。

## 【育成の評価と改善点】

ブレインストーミングとKJ法を用いて、生徒は効率的に意見をまとめることができた。ただ、ひとりひとりが付箋に意見を書くまでは良好であったが、ボードに貼られた付箋を内容ごとにグループにまとめていくことは、誰にでもできるわけではなかった。やはり、各班にリーダー的存在が必要であり、その育成が今後の課題と言えるだろう。

今回は4時間の連続した授業の中で、1回目に身近な問題で練習し、2回目に簡単には達成できないSDGsの目標をテーマとして各班で意見をまとめさせた。

この方法を身につけさせるためには、さらに実践を繰り返すこととリーダーを育成することが必要である。しかし、活動の時間は限られているため、授業以外の場でも活用していこうと考えて、学園祭のクラス企画をブレインストーミングとKJ法で決めさせた。少しの手助けで順調に事が進み、授業の成果を実感できた。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学II 授業進行表【第3回 7月4日(土)】

1. 単元名 : 啓発素材・交流素材開発① 素材開発の方向性を決める
2. 学習内容 : 社会問題カルタ、社会問題解決ブレインストーミングと KJ 法、啓発素材・交流素材開発ブレインストーミングと KJ 法
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
9:00～ (約15分)	<b>【TG 探究】</b> 世界・日本の社会問題について考える。	社会問題カルタを実施する。各班1名は読み手になり、カルタに明示されている数字の意味も説明する。	社会問題カルタの実施を通して、さまざまな社会問題について興味を持つように導く。
(約5分)	最も興味を持ったカルタを班内で1枚選ぶ。	いくつかのカルタ上の QR コードを iPad で読み取って資料を読み、最も興味を持ったカルタを1枚選ぶ。	できる限り各班が異なるカードを選ぶように促す。
(約20分)	選んだ1枚について、その社会問題を解決するためにはどうすればよいかを班でブレストする。	QR コードの資料やネット検索情報を用いながら、課題解決のための自分の意見を多く出す。(付箋記入)	ブレストで多くの意見がでるように導く。奇抜な意見、本音の意見、逆側の意見などを大切にするように導く。
(約15分)	KJ 法で意見を整理し、多様な意見をもとにした発表内容をまとめる。	意見(付箋)を分類して整理する。多様な意見を取り入れた発表になるように準備する。	多数決の結論を出したいのではなく、分類された多様なアイデアをまとめるように導く。
(約10分)	各班の発表により様々な意見をクラスで共有する。	各班の代表者又は全員は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。聞く側はメモを取る。	しっかり聞く環境をつくり、発表メモをとるように導く。発表メモ用紙を配布する。発表者が同じ人にならないように促す。抽象的な表現をなるべく避け、できる限り具体的な内容を記入するように導く。
(約5分)	TG 探究を振り返る。	感想シートに感想を記入する。	
10:30～	<b>【TL 探究】</b> 多文化共生推進・健康福祉増進に関する啓発素材または交流素材のアイデアをブレストする。 *コンソーシアム参加者 仰星1組:(株) ARMS(濱島) 仰星2組:(株) スギ薬局(望月) 特進1組:健康長寿課長(浅井) 特進2組:市民協働課長(水野) 特進3組:産業支援課長(秋永) (行政経営部長 藤井)	<b>★考えるプロセス</b> ① 豊明市の社会問題を考える ② 地域課題は何かを考える ③ 課題解決の方策を考える ④ 方策を啓発・交流素材に結び付ける 新たな活動のアイデアをたくさん付箋に書いて出し合う。	<b>★各クラスの大テーマ</b> 仰1・特2:多文化共生(労働者・児童) 仰2・特1:健康福祉(地域医療・健康寿命) 特3:観光(高齢者・外国人等)
	KJ 法で意見を整理し、素材開発の方向性を見つける。	意見(付箋)を分類して整理する。 多様な意見を踏まえて、どのような啓発素材・交流素材をつくるかの方向性を見出す。	必要に応じて啓発素材や交流素材はどのようなものかを理解させる。(カルタ・ボードゲーム・マップ・チラシ・ガイドブックなど)
12:15頃	啓発素材・交流素材のアイデアを話し合い、具体的な素材開発案をまとめる。	分類したさまざまなアイデアをもとに、班としての1つまたは複数の素材開発案をまとめる。	多様な意見を踏まえてまとめるように導く。1つの案に絞れない場合は複数の提案でもよいことを伝える。 発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
	各班の発表により考えたことや調べたこと、アイデアなどをクラスで共有する。	各班の代表者又は全員は、全体の場において班内でまとめたことを発表する。聞く側はメモを取る。	発表者が同じ人にならないように促す。抽象的な表現をなるべく避け、できる限り具体的な内容を記入するように導く。
	TL 探究を振り返る。	感想シートに感想を記入する。	

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

まず、班に分かれて「社会問題カルタ」を実施した。カルタ上にはQRコードがあり、関連する資料を読み取ることができた。各班が最も興味を持った問題について解決策をブレインストーミングとKJ法を用いてまとめた後、クラスで発表した。発表者は毎回異なる人物とし、全員に大勢の前で発表する体験を積ませることにした。取り上げる問題は各班で重ならないようにし、各人がメモをとって聴いた。

授業後半は地域のコンソーシアムの方々が来校され、地元豊明市の現状や課題について、具体的な話を聴くことができた。「外国人市民と高齢市民が輝く街づくりのための地域協創プロジェクト」として、何を提言するか、どんな啓発物を開発するか、協議するにあたって、有益なアドバイスをいただくことができた。

## 【生徒の学びと教育的効果】

「社会問題カルタ」にはそれぞれ数字が記載されており、その数字が何を意味するのか、QRコードを読みとることで答えを得られた。生徒たちは自主的に活動することに慣れてきて、問題解決のための意見を付箋に記入することも出された意見をまとめることも、教師が見守り、助言する程度で進めることができた。

後半は地域に目を向けて、現状や課題について、コンソーシアムの方々から直接お話を聴いた。そのおかげで世界と地元に通ずる課題に気づき、啓発物作成のヒントを得られた。「こういった物を制作したら、地元にとって有益だろうか?」、「特に制作してほしいものはありますか?」などと、具体的な質問を投げかけ、その回答を聞く機会が設けられたことは、探究の質を深めたと思われる。

## 【育成の評価と改善点】

「SDGs すぐろく」、「社会問題カルタ」は、これまで気づけなかった社会の問題に対し、生徒たちが楽しみながら目を向けることができるよい教材であった。教師が説明しなくても、生徒たちは自主的に問題を調べ、解決策を探し、話し合うことができた。個々の意見を集約し、まとめていくにあたって、ブレインストーミングとKJ法は生かされていた。今後、指示がなくても、同様な場面においてブレインストーミングとKJ法を利用してもらえたなら、学ばせた甲斐があったということになる。

ただ、付箋に意見を書く枚数は、個人、あるいは班によって差がある。また、発言しなくとも付箋に書けばよいという安易な姿勢も好ましくない。生徒たちには地域が抱える課題に積極的かつ真剣に向かい合う人材となってもらいたい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第4回 7月18日(土)】

1. 単元名 : 啓発素材・交流素材開発② 素材開発案をつくる
2. 学習内容 : SDGsを通したグローバルな視点での学び、啓発素材・交流素材の開発案作成
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目 ～10分	<b>【TG探究】</b> 各班で開発する啓発・交流素材とはどのようなものかを理解する。	SGL担当教員から啓発・交流素材とはどのようなものかを聞く。	Google MeetでSGL担当者と各担任がオンラインでつながり、プロジェクターで投影して生徒に見せる。
～15分	SDGsの各目標について考える。	JICA・毎日新聞共同作成の教材プリントを全体or各班or個人で読む。	プリントに書かれている内容に興味・関心を持つように導く。
～50分	プリントをもとに課題解決啓発物のアイデアをブレストし、KJ法でそれらを整理する。	啓発物のアイデアを付箋に書き意見を出し合う。意見(アイデア)を分類して整理する。	啓発するテーマを決め、指示する。 多くの意見がでるように導き、何らかの観点で意見を分類するように指示する。
2限目	分類・整理したものから1つの啓発物のアイデアにまとめる。	分類・整理したものから1つの啓発物のアイデアに絞り込む。	多様なアイデアや意見を尊重し、それらの長所を生かして1つのアイデアにまとめるように促す。
～35分	啓発物をつくるのがどのように課題解決につながるのか仮説をたてる。その仮説が成り立つ根拠を資料やデータを示して明確にする。	<b>仮説(例)</b> : 「Aという啓発物をつくり、Bの人々が取り組めば、Cについてのみんなの意識が高まり、Dの課題解決に向けた一助となる。」 <b>根拠(例)</b> : 「Eの資料から、Dの課題の問題点はFなので、そこを改善する意識を持つことが課題解決につながると考えられる。」	班員全員で取り組むように指導する。 仮説と根拠を示せるように、各班に適宜助言を与える。
～50分	各班の発表により様々な啓発物のアイデアをクラスで共有する。	各班の代表者又は全員は、班内でまとめたことを全体の場で発表する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。
3限目	<b>【TL探究】</b> 多文化共生推進・健康福祉増進に関する啓発素材または交流素材開発の方向性を出し、仮説と根拠を示す。(前回の活動の続き)	啓発素材・交流素材開発の方向性を出す。	*担任の判断で適宜休憩時間をとる。 啓発素材・交流素材とは何かを理解しているか巡視しながら確認する。
～50分	*コンソーシアム参加者 仰星1組:未定 仰星2組:未定	①前回のブレストの結果を振り返り、解決に取り組む地域課題を再確認する。 ②啓発素材・交流素材のアイデアの検討内容を更に進める、または再検討する。 ③仮説と根拠を考える。 ④コンソーシアムの方々にアイデアに対する助言を求める。	啓発素材・交流素材の開発へと話し合いが向いているかに注目して観察する。 *今年度は交流イベントの企画ではないことに留意する。
4限目	特進1組:健康長寿課長(浅井) 特進2組:行政経営部長(藤井) 特進3組:産業支援課長(秋永)		話し合いに協力していない生徒を指導する。
～30分	啓発素材・交流素材のアイデアを話し合い、具体的な素材開発案をまとめる。	さまざまなアイデアや助言をもとに、仮説と根拠を伴った素材開発案を記入用紙にまとめる。	コンソーシアムの方々とコミュニケーションをとれるように各班との調整役になる。
～45分	各班の発表により様々な啓発物のアイデアをクラスで共有する。	各班の代表者又は全員はアイデア・仮説・根拠を全体の場で発表する。	アイデア・仮説・根拠が一体となった開発案をまとめられるように各班に助言する。
～50分	TL探究を振り返る。	ワークシートに感想を記入する。	発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。 学んだことをもとに記入するように導く。

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

前半はSDGsの目標について班活動を行った。クラスによって協働するコンソーシアムが異なるので、それに沿った目標を選んだ。今回も、班ごとに、まずは世界が抱える課題を調べ、課題を解決するためにはどうしたらよいかを、ブレインストーミングとKJ法を使って意見をまとめ上げた。意見をまとめた後は発表した。生徒はこういった展開に慣れてきたためか、とまどうことなく授業が進められた。

後半は、啓発物の作成について班で協議した。前回に続いて、今回もコンソーシアムの方々に来校していただくことができた。各班が協議する教室に入り、貴重な意見やアドバイスをいただくことができた。なるべく早く啓発物の制作に取り組むために、生徒の協議は具体性を帯びてきた。

## 【生徒の学びと教育的効果】

SDGsについての学びは、今回で4回目となる。地元豊明市との協働活動の協創という観点から、目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標11「住み続けられるまちづくりを」をテーマとして選んだクラスが多かった。「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」という設定のもとに、自分たちに何ができるかを考え、啓発物の候補を選んでいった。

コロナの影響で実際に地元の人々を訪問することが難しかったので、コンソーシアムの方々の来校は、地域の課題を知るうえで大いに役だった。誰かに指示されるのではなく、自分たちの手で啓発物を仕上げなければならないという実感が生徒の意識を高揚させていた。

## 【育成の評価と改善点】

学年が始まった当初は、「SDGs」という言葉を耳にしたことすら初めてで何のことやらわからないという生徒が少なからず存在した。しかし、今では、地球が抱える課題を見つめ、課題を解決するために何ができるかを協議することを、当然のように実施している。これは、「新たなコミュニティを協創できるスーパーグローバルリーダー（SGL）の育成」という目標に沿ったものである。

ただ全員が協議に参加しているとはいえ、受身に徹する生徒もいる。それらの生徒が積極的に関わる局面が、啓発物制作の過程であられることを期待する。他の誰かでなく、他ならぬ自分が行動するのだという自覚を育てていく必要がある。年間を通じ、同一の班で行動するので、協力姿勢の差によって班内に亀裂が生じないように注視していかねばならない。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第5回 8月1日(土)】

1. 単元名 : 啓発素材・交流素材開発③ 素材開発案の原案完成
2. 学習内容 : 啓発素材・交流素材の開発原案を完成させる。1学期ルーブリック評価の実施。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p><b>【TL 探究】</b></p> <p>多文化共生推進・健康福祉増進に関する啓発素材または交流素材開発の原案を作成する。</p> <p>活動場所：2号館 2F の 5 教室</p>	<p>啓発素材開発の原案を完成させる。</p> <p>①星城高校の探究テーマ 「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」 ↓</p> <p>②解決したい具体的な地域課題 ↓ <b>【設定】</b> 「 」</p> <p>③その地域課題の解決につながると思う啓発素材は何か【仮説】 「 」 ↓</p> <p>④なぜそれが解決につながると思うのか。【根拠】 「 」 ↓</p> <p>⑤関係する SDGs は何か。 「目標 」【グローバルな視点】</p>	<p>啓発素材・交流素材の開発へと話し合いが向いているかに注目して観察する。 *今年度は交流イベントの企画ではないことに留意する。</p> <p>現実的に実施可能な開発案になっているかについて助言する。</p> <p>調べる内容が少ない又は浅くないかを確認して、必要に応じて助言を与える。</p> <p>学校の予算は各班 18,000 円だと伝える。(特進：各クラス小計 108,000 円) (仰星：各クラス小計 90,000 円)</p>
2 限目	<p>ここまで検討してきた開発案をまとめ、発表する準備をする。</p>	<p>啓発素材開発案を説明できるように準備する。</p> <p>各班の代表者又は全員は啓発素材開発案を全体の場で発表する。</p>	<p>地域課題の解決に少しでも近づく開発案をまとめられるように各班に助言する。</p>
3 限目	<p>各班の開発案を発表することにより、さまざまな啓発物のアイデアをクラスで共有する。</p> <p>*コンソーシアム参加者 仰星 1 組：(株)ARMS(濱島) 仰星 2 組：未定 特進 1 組：行政経営部長(藤井) 社会福祉協議会(原) 特進 2 組：市民協働課長(水野) 国際交流協会(近藤) 特進 3 組：産業支援課長(秋永) 商工会(浅田) 青年会議所 (酒井・和田)</p>	<p>コンソーシアムの方々からのさまざまな助言をもとに、素材開発案を修正する。</p> <p>夏休みに中に活動すべき内容を考える。 ・夏休みに必要な調査内容 ・調査方法 インタビュー、アンケート、現地踏査など ・調査対象 (人物・団体・組織・場所など)</p>	<p>発表者の話をしっかりと聞く環境をつくり、発表内容のメモをとるように導く。</p> <p>コンソーシアムの方々とコミュニケーションをとれるように各班との調整役になる。</p> <p>調査すべき内容や確認すべき内容について助言を与える。</p>
4 限目	<p>啓発素材・交流素材のアイデアを話し合い、具体的な素材開発案を完成させる。</p>	<p>啓発・交流素材開発企画書を完成させる。</p> <p>企画案や感想などを記入する。</p>	<p>各班員が8月中に調査したり、情報収集したりすべきことを確認させる。</p> <p>コンソーシアムの方々が読んでわかるように、具体的な内容をていねいにわかりやすく記入させる。</p>
~35分	<p>TL 探究を振り返る。</p>	<p>ルーブリック評価記入用に記入する。</p>	<p>学んだことをもとに記入するように導く。</p>
~50分	<p>ルーブリック評価の実施。</p>	<p>ルーブリック評価記入用に記入する。</p>	<p>1学期全体を振り返るように促す。</p>



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

これまでの活動によって、豊明市の抱える地域課題が見えてきた。その解決手段として、生徒たちが何をすればよいのか、どんな啓発物を制作するのか、具体性を帯びてきた。制作にかかる期間を考慮すると、いつまでも悩んでいるわけにはいかない。豊明市役所健康長寿課、市民協働課、産業支援課、ARMS 株式会社、社会福祉協議会、国際交流協会、豊明市商工会、豊明市青年会議所の方々から、各班にアドバイスをいただいた。啓発物制作にあたってはクラス内で重ならないように班ごとに調整がなされた。

解決したい地域課題〔設定〕→課題解決につながる啓発物は何か〔仮説〕→なぜそれが解決につながるのか〔根拠〕→関係するSDGsは何か〔グローバルな視点〕という流れに従って、各班の企画案がクラスで発表された。

1学期最後の授業なので、ルーブリック評価をさせた。これまでの活動を見直すことにつながったと思われる。

## 【生徒の学びと教育的効果】

啓発素材開発の原案を示されたこと、時間内でのクラス発表を促されたことで各班の企画は急速に進んだ。実際に取りかかっていくなかで困難にぶつかり、変更もあるかもしれない。しかし、とにかく企画案を発表できたことで、生徒たちは達成感を得られたようだった。

他者の指示によってものを作り上げることは、これまでも学園祭等で経験済みであろうが、生徒たちが主体となって制作を進めていくことは貴重な体験となるだろう。予算は班ごとに管理し、最終的に報告を義務づけられている。係に選出された生徒の責任は重大である。未来の日本、世界を担っていく若者たちが、他者と協力しながらも、自分で考えて行動し、結果に責任をもつことは、彼らを成長させてくれるにちがいない。

## 【育成の評価と改善点】

1学期最後の授業である。今年度の活動はSDGsの理解に始まったが、地域課題に目を向け、課題解決のための啓発素材を生徒たち自身で企画するまでに進めることができた。そして、彼らが制作する啓発素材がSDGs17の開発目標の中の何番に関連するのかも考えさせた。現在、新聞などで、企業がSDGsに取り組んでいることを宣伝している記事を目にすることが多くなってきた。企業もただ利益を追求するのみでなく、持続可能な開発目標を視野に活動しなければならない時代である。生徒がそういった情勢に気づき、自らも協力する姿勢を持つことがSGL（スーパーグローバルリーダー）への第1歩である。授業科目の一つとしてではなく、意義を悟って主体的に活動できるように、他校の活動なども紹介し、生徒の意識を高めていきたい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第6回 9月5日(土)】

1. 単元名 : 校外活動のルールを理解し、校内又は校外で地域協創プロジェクトの開発を開始する
2. 学習内容 : ルーブリック評価の確認、日程の確認、校外活動ルールの確認、啓発素材の開発、現地踏査
3. 授業進行表【TG 探究 Think Global】【TL 探究 Think Local】【AG 探究 Act Global】【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p>【TL 探究】 地域協創プロジェクト</p> <p>①2 学期ルーブリック評価表と今後の流れを確認する</p> <p>②活動のルールを確認する (1) 予算の活用方法を確認  (2) マナカの利用方法を確認  (3) 校外活動申請書・報告書の記入方法を確認  (4) 校外活動ガイドラインを確認</p> <p>③啓発素材開発を開始する (1) 教室内で活動する場合</p>	<p>ルーブリック評価の内容を確認する 下記の日程を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日 今後の計画作成、現地踏査</li> <li>・次回 現地踏査、啓発素材開発</li> <li>・10/3 現地踏査、啓発素材開発</li> <li>・10/17 現地踏査、啓発素材開発</li> <li>・11/7 啓発素材開発</li> <li>・11/21 啓発素材完成</li> </ul> <p>下記の内容を理解する (別紙参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算額は各班 17,800 円</li> <li>・予算受領印と会計報告書の作成</li> <li>・領収書の宛名は「星城高校」</li> <li>・各班サブリーダーが管理</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナカ利用報告書を毎会提出する</li> <li>・マナカを受取、返却先は SGL 主任</li> <li>・一般客に迷惑のかからないマナー</li> <li>・名鉄バスとひまわりバス利用可能</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に申請で許可を得る</li> <li>・事後に報告書を提出する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単独行動禁止 (原則 3 人以上)</li> <li>・公の場で会うのが原則 (自宅厳禁)</li> <li>・失礼のない言動 (お願いする立場)</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止対策</li> </ul> <p>さまざまな調査や検討をもとに啓発素材を開発する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を収集する</li> <li>・開発素材の形状や大きさを決める</li> <li>・必要に応じて電話で質問やインタビューする</li> <li>・購入が必要な品物リストを作成し、予算支出計画を立てる</li> </ul> <p>校外活動申請書をその場で作成し、許可を得て、校外で現地踏査する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナカが必要な場合は、SGL 主任から受け取る</li> <li>・活動が終了したら、学校に電話で報告を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2 学期のルーブリックではどのレベルの活動を目標にするか考えさせる</li> <li>・コロナ禍で予定・計画通りにいかないことも十分あり得ることを理解させる</li> <li>・予算 (お金) の支出・管理は責任が大きいことを理解させる</li> <li>・領収書のないものは支出できないことを理解させる</li> <li>・各班に 1 枚のマナカ (9,500 円分) が割り当てられており、現金と同等の扱いであることを理解させる</li> <li>・公共マナーの重要性を理解させる</li> <li>・計画的に行動するように指導する</li> <li>・安全・安心が最優先で在り、軽率な行動がないように指導する(特に女子)</li> <li>・コロナ禍での可動では、相手も慎重になっていることも理解させる</li> <li>・各班で班員全員が協力して開発に取り組むように指導する</li> <li>・電話する場合は SGL 室または事務室、職員室で、班の代表者が電話する</li> <li>・担任と SGL 主任の許可印を得てから校外で活動する</li> <li>・校外に出る際は、安全・安心を最優先に活動することを理解させる</li> <li>・原則として 13:00 までに連絡を入れるように指導する</li> </ul>
2 限目			
3 限目			
4 限目			

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

2 学期最初の授業である。本日から現地踏査に向かい、その結果を基に1 学期に企画立案した啓発素材の制作を進めていく。校内に残ってインターネットで調査をしている班、早速フィールドワークに出かけた班など、班によって行動はさまざまである。たとえば、ハザードマップ制作班は現地調査が必須であり、校内で仕事を進める前に出かけていった。現地で人に会って聞き取り調査をする際などは、あらかじめアポイントメントを取らなければならない場合もある。失礼のない態度を心がけるように指導した。

一方で、カルタ制作班は試作品を仕上げた後から対象となる子供たちの反応を見るということで、パソコン作業を続けている。それぞれの班が、「課題解決のための啓発素材は〇〇である」という、自分たちが立てた仮説にしたがって、探究を深めている。

## 【生徒の学びと教育的効果】

具体的に制作を進めていく段階で、新たに作業にともなう係分担をしている。ひとりひとりの仕事量に大きな差が出ないように、誰かひとりだけが苦勞して、他の生徒は啓発素材ができあがることを待つだけといった不公平が生じないように教師が呼びかけもした。もちろん、生徒たちにもクラス内の人間関係を乱すような不公平はよくないという自覚があり、自らに課せられた分担について、責任を持って遂行しようとしていた。

協力して啓発素材を作り上げていく過程で発見することもあるはずである。初期の計画からずれることがあっても、よりよい啓発素材を制作することをこころがけ、骨惜しみをしない姿勢をもってもらいたい。他の班の動勢を見ながら触発されて、クラス全体が盛り上がり、学園祭などの学校行事にも協力体制が波及効果を上げていくことが期待される。

## 【育成の評価と改善点】

早速フィールドワークに出かけた班は、やはり活動的なメンバーがそろっているようであり、コンソーシアムの方々とのコンタクトも活発である。調査結果に従って作業、また現地調査という計画を立てている。校内で作業を進めて行く班は、啓発素材を実際に利用していただく対象となる人の意見、感想などを聞かないで作業を進めているので、やり直すことになったら、膨大な時間を無駄にすることになってしまう。注意すべきなのか、失敗につながるとしても実際に経験させたほうが後の成長につながるのか、難しいところである。

今回は、アドバイスはするが、判断は各班に任せるという方針で自主性を重んじている。苦勞して制作した啓発素材が無駄にならないことを願うばかりである。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第7回 9月19日(土)】

1. 単元名 : 校内で啓発素材を開発する、又は校外で現地踏査する
2. 学習内容 : 啓発素材の開発、現地踏査
3. 授業進行表【TG 探究 Think Global】【TL 探究 Think Local】【AG 探究 Act Global】【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点																																																																																												
1 限目	地域協創プロジェクト	各班で啓発素材開発をすすめる ・地域の情報や声を収集する ・地域課題を的確に把握する ・課題解決を意識してすすめる ・啓発素材の作成にとりかかる  *校外活動 班長は出欠を報告する ハングアウトで <a href="mailto:glocal.sgl@seijoh.jp">glocal.sgl@seijoh.jp</a> 又は弓場先生に電話連絡をする  *校外活動が終了したら、終了報告を入れて解散する。(又は学校に戻る)	校内・校外で活動する班を把握する ・事前に校外活動申請書を提出させる ・事前に manaca を各班に渡す ・班長から出欠及び解散報告を受ける ・事後に校外活動報告書を提出させる  各担任は原則として各クラスで校内活動する班を指導する。ただし、すべての班が校外で活動する際は、校外に出て指導することができる																																																																																												
	【TL 探究】 校内で啓発素材開発 (各教室)  【AL 探究】 校外で現地踏査 (豊明市内)																																																																																														
2 限目																																																																																															
3 限目		<table border="1"> <thead> <tr> <th>クラス</th> <th>班</th> <th>班長</th> <th>開発内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">仰星 1組</td> <td>1</td> <td>飯田</td> <td>①高齢者向けの料理動画配信 ②外国人市民とのeスポーツ交流</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中田</td> <td>①オンラインによるベトナム語での料理教室 ②eスポーツ大会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>杉浦</td> <td>SNSの活用、リーフレットの作成(多言語対応)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>森</td> <td>①外国文化や昔話の手作り本 ②万歩計を活かした豊明ウォークアプリ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>長田</td> <td>ツイッター開設、情報発信</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">仰星 2組</td> <td>1</td> <td>黄</td> <td>共有できる食事のメニューの開発</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>青山</td> <td>坂道避けマップの開発、フードトラックの活用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>佐藤</td> <td>リモートで交流できる機会をつくる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>伊豆原</td> <td>運動支援動画、料理動画の作成・配信</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中島</td> <td>脳トレの開発・配信</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">特進 1組</td> <td>1</td> <td>鈴木健</td> <td>豊明市「カフェ」マップの作成で高齢市民の外出支援</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>岡村</td> <td>巡回まちかど健康チェックの復活とチェックシートに食事サポートの追加</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>池田</td> <td>豊明市の認知症予防活動お知らせポスターの作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>柴口</td> <td>俳句・絵手紙コンテストの開催と高齢市民の参加</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>沖吉</td> <td>高齢市民にもわかるスマホ活用マニュアルと交流アプリの作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>吉田</td> <td>高齢市民活動おたすけ大辞典の作成</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">特進 2組</td> <td>1</td> <td>相武</td> <td>多言語看板の設置とQRコードの掲示</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>上村</td> <td>簡単・見やすい・持ち運びに便利な医療マップの作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中村</td> <td>外国人市民が多く居住する二村台団地を中心とした防災マップ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>浅野</td> <td>やさしい日本語(場面別・簡単な日常会話文)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>川瀬</td> <td>児童向け絵本または紙芝居「おはようからおやすみまで、日本の一日」</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>太田</td> <td>「あいうえお」カード・カルタ・「生活日本語」単語帳など</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">特進 3組</td> <td>1</td> <td>岡本</td> <td>高校生が案内する豊明市紹介動画の作成(多言語字幕)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>村本</td> <td>TOYOAKE PUBLIC TRANSPORT MAP(多言語&amp;QRコード付)の作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>峯尾</td> <td>豊明市歴史スタンプラリーの作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>蟹江</td> <td>「花の街とよあけ」全容マップ(花き市場・マルシェ・花屋・フラボラ等)の作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>島田</td> <td>豊明ウォーキング&amp;健康グルメマップの作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>伊藤涼</td> <td>学習教材「豊明市カルタ」の作成と日本語教室などでの実践</td> </tr> </tbody> </table>	クラス	班	班長	開発内容	仰星 1組	1	飯田	①高齢者向けの料理動画配信 ②外国人市民とのeスポーツ交流	2	中田	①オンラインによるベトナム語での料理教室 ②eスポーツ大会	3	杉浦	SNSの活用、リーフレットの作成(多言語対応)	4	森	①外国文化や昔話の手作り本 ②万歩計を活かした豊明ウォークアプリ	5	長田	ツイッター開設、情報発信	仰星 2組	1	黄	共有できる食事のメニューの開発	2	青山	坂道避けマップの開発、フードトラックの活用	3	佐藤	リモートで交流できる機会をつくる	4	伊豆原	運動支援動画、料理動画の作成・配信	5	中島	脳トレの開発・配信	特進 1組	1	鈴木健	豊明市「カフェ」マップの作成で高齢市民の外出支援	2	岡村	巡回まちかど健康チェックの復活とチェックシートに食事サポートの追加	3	池田	豊明市の認知症予防活動お知らせポスターの作成	4	柴口	俳句・絵手紙コンテストの開催と高齢市民の参加	5	沖吉	高齢市民にもわかるスマホ活用マニュアルと交流アプリの作成	6	吉田	高齢市民活動おたすけ大辞典の作成	特進 2組	1	相武	多言語看板の設置とQRコードの掲示	2	上村	簡単・見やすい・持ち運びに便利な医療マップの作成	3	中村	外国人市民が多く居住する二村台団地を中心とした防災マップ	4	浅野	やさしい日本語(場面別・簡単な日常会話文)	5	川瀬	児童向け絵本または紙芝居「おはようからおやすみまで、日本の一日」	6	太田	「あいうえお」カード・カルタ・「生活日本語」単語帳など	特進 3組	1	岡本	高校生が案内する豊明市紹介動画の作成(多言語字幕)	2	村本	TOYOAKE PUBLIC TRANSPORT MAP(多言語&QRコード付)の作成	3	峯尾	豊明市歴史スタンプラリーの作成	4	蟹江	「花の街とよあけ」全容マップ(花き市場・マルシェ・花屋・フラボラ等)の作成	5	島田	豊明ウォーキング&健康グルメマップの作成	6	伊藤涼	学習教材「豊明市カルタ」の作成と日本語教室などでの実践
	クラス	班	班長	開発内容																																																																																											
	仰星 1組	1	飯田	①高齢者向けの料理動画配信 ②外国人市民とのeスポーツ交流																																																																																											
		2	中田	①オンラインによるベトナム語での料理教室 ②eスポーツ大会																																																																																											
		3	杉浦	SNSの活用、リーフレットの作成(多言語対応)																																																																																											
		4	森	①外国文化や昔話の手作り本 ②万歩計を活かした豊明ウォークアプリ																																																																																											
		5	長田	ツイッター開設、情報発信																																																																																											
	仰星 2組	1	黄	共有できる食事のメニューの開発																																																																																											
		2	青山	坂道避けマップの開発、フードトラックの活用																																																																																											
		3	佐藤	リモートで交流できる機会をつくる																																																																																											
		4	伊豆原	運動支援動画、料理動画の作成・配信																																																																																											
		5	中島	脳トレの開発・配信																																																																																											
	特進 1組	1	鈴木健	豊明市「カフェ」マップの作成で高齢市民の外出支援																																																																																											
		2	岡村	巡回まちかど健康チェックの復活とチェックシートに食事サポートの追加																																																																																											
		3	池田	豊明市の認知症予防活動お知らせポスターの作成																																																																																											
4		柴口	俳句・絵手紙コンテストの開催と高齢市民の参加																																																																																												
5		沖吉	高齢市民にもわかるスマホ活用マニュアルと交流アプリの作成																																																																																												
6		吉田	高齢市民活動おたすけ大辞典の作成																																																																																												
特進 2組	1	相武	多言語看板の設置とQRコードの掲示																																																																																												
	2	上村	簡単・見やすい・持ち運びに便利な医療マップの作成																																																																																												
	3	中村	外国人市民が多く居住する二村台団地を中心とした防災マップ																																																																																												
	4	浅野	やさしい日本語(場面別・簡単な日常会話文)																																																																																												
	5	川瀬	児童向け絵本または紙芝居「おはようからおやすみまで、日本の一日」																																																																																												
	6	太田	「あいうえお」カード・カルタ・「生活日本語」単語帳など																																																																																												
特進 3組	1	岡本	高校生が案内する豊明市紹介動画の作成(多言語字幕)																																																																																												
	2	村本	TOYOAKE PUBLIC TRANSPORT MAP(多言語&QRコード付)の作成																																																																																												
	3	峯尾	豊明市歴史スタンプラリーの作成																																																																																												
	4	蟹江	「花の街とよあけ」全容マップ(花き市場・マルシェ・花屋・フラボラ等)の作成																																																																																												
	5	島田	豊明ウォーキング&健康グルメマップの作成																																																																																												
	6	伊藤涼	学習教材「豊明市カルタ」の作成と日本語教室などでの実践																																																																																												
4 限目																																																																																															

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

前回に引き続き、啓発素材の開発を各班で進めた。校外で活動する班が増えてきて、各班によって取り組みはさまざまである。それぞれの班が目的によって異なる場所に向かい、必要な情報を得ようと活動していた。外国人市民が多く居住する団地では、複数の班がインタビューをしていたが、節度をふまえながらも積極的に活動する様子が見られた。

啓発素材の制作については生徒たちの自主性を重んじて、教師サイドからの声かけは極力避けた。アドバイスを求められた際にも、生徒の求める情報を直接与えるのではなく、どのようにその情報に近づくかといった程度に抑えるように心がけた。安易に教師に頼るのでなく、生徒間の協働で仕上げていく姿勢を大事にしていきたい。

## 【生徒の学びと教育的効果】

外国人児童を対象に「あいうえお練習帳」を制作した班は「子ども日本語教室」に出かけ、試作品を使ってもらったが、生徒が予想したよりも外国人児童の日本語力が高く、作り直すことになった。やはり、教室に閉じこもっては何が必要なのかがはっきりしない。制作する前に、対象となる皆さんの情報をきちんと集め、コンソーシアムの方々のアドバイスを聞くことの重要性が痛感できたようだった。

豊明市は坂道が多く、徒歩や自転車での移動は大変である。足腰が弱く、苦勞なさっている人たちのために「坂道避けマップ」を制作する班は、図書館で詳細な地図を入手した後に、実際に歩いて坂道の様子を調べて、地図の完成をめざしている。高校生ですら難儀する坂道があり、地図の完成に向けて意欲をかきたてられたようだった。

校内でパソコンを相手にするだけでは不十分なことを実感できた1日だった。

## 【育成の評価と改善点】

新型コロナウイルスの影響もあって、生徒の活動は制限されている。「坂道避けマップ」の制作にしても、もともとは高齢市民を対象に考えたものであるが、実際に高齢市民から意見を聞くことは難しかった。しかし、「坂道避けマップ」は高齢者市民だけでなく、豊明市内を自転車で走行する高校生にとってもありがたい代物である。この班だけでなく、多くの班が啓発素材を開発する過程で気づかされたことがある。

たとえば、外国人市民を対象としてブラジル語やローマ字の時刻表を制作した班がある。しかし、制作過程でバス停ごとにふりがなと番号をつけるように変更した。外国人児童がローマ字を読めないと知り、漢字とふりがなの方が理解されるとわかったからである。そのほうが日本人の児童にとってもやさしいものであるとクラス内で語ったことで、外国人を対象とする啓発素材では、漢字+ひらがな表記が主流となった。

一つの班で得た情報が他班にも共有されることは、大変よいことだと思われる。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第8回 10月3日(土)】

1. 単元名 : 校内で啓発素材を開発又は校外で現地踏査をし、11月中に開発が完了するように今後の工程を計画しながら開発を進める
2. 学習内容 : 啓発素材の開発、現地踏査、今後の作業工程の計画
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	地域協創プロジェクト 【TL 探究】 校内で啓発素材開発 (各教室)  【AL 探究】 校外で現地踏査 (豊明市内)  緊急連絡先: 弓場先生 080-3137-0847	各班で啓発素材開発をすすめる ・地域の情報や声を収集する ・地域課題を的確に把握する ・課題解決を意識してすすめる ・啓発素材の作成にとりかかる *校外活動 班長は出欠を報告する ハンアウトで <a href="mailto:glocal.sgl@seijoh.jp">glocal.sgl@seijoh.jp</a> 又は弓場先生に電話連絡をする *校外活動が終了したら、終了報告をして解散する。(又は学校に戻る)	校内・校外で活動する班を把握する ・事前に校外活動申請書を提出させる ・事前に manaca を各班に渡す ・班長から出欠及び解散報告を受ける ・事後に校外活動報告書を提出させる 各担任は原則として各クラスで校内活動する班を指導する。ただし、すべての班が校外で活動する際は、校外に出て指導することができる
2 限目	11月中に完成するように今後の作業工程を計画し、開発を進める	地域課題解決につながるものを創り上げるために、丁寧につくり、雑な作業をしない	作業を分担し、すべての班員が開発に意欲的に取り組めるように促す
3 限目			
4 限目			

クラス	班	班長	開発内容
仰星 1組	1	飯田	高齢者向けの料理動画配信
	2	中田	健康的な和食レシピのポスター作成
	3	杉浦	SNS の活用、リーフレットの作成 (多言語対応)
	4	森	豊明市立図書館に特設コーナーを設置する
	5	長田	ツイッターを使用し、LGBT についての情報を広めることによって、日本人に LGBT (外国人の人々) のことをより理解してもらう
仰星 2組	1	近藤	セロトニンの分泌を促す提案
	2	青山	坂道避けマップの開発
	3	佐藤	高齢者の、リモートによるコミュニケーションを助けるポスターの開発
	4	伊豆原	運動支援動画、料理動画の作成
	5	中島	脳トレの開発
特進 1組	1	鈴木健	豊明市「カフェ」マップの作成で高齢市民の外出支援
	2	岡村	健康チェックシートの復活とチェックシートによる改善
	3	池田	豊明市のウォーキングポスターの作成
	4	柴口	俳句コンテストの開催と高齢市民の参加
	5	沖吉	高齢市民にもわかる QR コードを利用した簡易説明書の作成
	6	吉田	高齢市民活動おたすけパンフレットの作成
特進 2組	1	相武	外国人用ひまわりバス時刻表
	2	上村	見やすい・便利な医療マップ
	3	中村	二村台団地を中心とした防災マップ
	4	浅野	避難所用コミュニケーション支援ボード
	5	川瀬	児童向け紙芝居『おはようからおやすみまで、日本の一日』
	6	太田	外国人児童用『あいうえお練習帳』
特進 3組	1	岡本	高校生が案内する豊明市紹介動画の作成 (多言語字幕)
	2	村本	TOYOAKE PUBRIC TRANSPORT MAP (多言語&QR コード付) の作成
	3	峯尾	豊明市歴史スタンプラリーの作成
	4	蟹江	「花の街とよあけ」全容マップ (花き市場・マルシェ・花屋・フラボラ等) の作成
	5	島田	豊明ウォーキング&健康グルメマップの作成
	6	伊藤涼	学習教材「豊明市カルタ」の作成と日本語教室などでの実践

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

今回の活動も、啓発素材の開発を進めている。

愛知県豊明市は、トヨタ関連の工場への通勤が便利であることに加えて家賃が比較的安価な公団が存在することで、外国人市民が占める割合が増加している。なかでも、増加傾向が顕著なのがベトナム人である。ベトナム人との交流の橋渡しを目的に、ベトナム料理を作る動画を作成し、レシピの発信に取り組む班がある。

ベトナム料理を作っているところを見学させていただいたところ、豊明市に住むベトナム人の方々が日本人ともっと交流したいと考えていることを知った。実際にふれあう機会を持ったことで、親しみを感じることができた。

今回も、実体験の重要性を改めて認識する1日となった。

## 【生徒の学びと教育的効果】

制作を進めるにあたって、現地調査は欠かせない段階となってきた。大雑把ではあるが、啓発素材の形が見えてきてので、それが地域課題の解決手段として有効であるかどうか、確認が必要なのである。苦勞して制作したとしても、それが人々に求められていなかったり、不十分なものであったりしたら、企画を練り直さねばならない。現在に至っても、なお外部との折衝を避ける班があるので、声掛けをする。しかし、完成してから出かけようと計画しているようで、まだできていないと主張している。

コンソーシアムにしても、協力的であるかどうかは、生徒の姿勢に関わっている。真剣さを見せなければ、協力を得ることも難しいということを知る必要がある。相手の対応が親切でないと不平を言う前に、自らの姿勢を反省してもらいたい。

## 【育成の評価と改善点】

啓発素材開発に関しては、各班に予算を与え計画的に使うよう指導してあるのだが、あまり有効に使えていないようである。少額の場合、領収書をとらずに自己負担してしまったり、自宅にあるものを利用して済ませたりしている。予算の使い方、領収書の取得については、そのたび毎に説明しなければならないようだ。

特に気がかりなのは印刷に関するもので、生徒の多くが家でカラー印刷を済ませているのだが、かなり枚数も多いので、必要な際は校内での印刷を申し出るように伝えた。また、申告が遅れて領収書を紛失するなどのミスがないように心がけることも指導した。活動報告をきちんと義務づけないと、見落としが多いと改めて感じた。一部の生徒に不利益が生じないように注意しなければならない。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第9回 10月17日(土)】

1. 単元名 : 地域課題解決のための啓発素材の開発及び現地踏査をする
2. 学習内容 : 校内又は校外で啓発素材を開発し、11月中に開発が完了するように調査や作業などを進める
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1限目	地域協創プロジェクト  【TL探究】 校内で啓発素材開発（各教室）  【AL探究】 校外で現地踏査（豊明市内） 緊急連絡先：弓場先生 080-3137-	各班で啓発素材開発をすすめる ・地域の情報や声を収集する ・地域課題を的確に把握する ・課題解決を意識してすすめる ・啓発素材の作成にとりかかる *校外活動 班長は出欠を報告する ハンアウトで <a href="mailto:glocal.sgl@seijoh.jp">glocal.sgl@seijoh.jp</a> 又は弓場先生に電話連絡をする *校外活動が終了したら、終了報告をして解散する。(又は学校に戻る) 地域課題解決につながるものを創り上げる 丁寧につくり、雑な作業をしない	校内・校外で活動する班を把握する ・事前に校外活動申請書を提出させる ・事前に manaca を各班に渡す ・班長から出欠及び解散報告を受ける ・事後に校外活動報告書を提出させる  ・各担任は原則として各クラスで校内活動する班を指導する。 ・作業を分担し、すべての班員が開発に意欲的に取り組めるように促す ・地域住民や団体に文書や製作した物を渡す前に、必ず担任やSGL主任の許可を得ること。
2限目	11月末に完成するように今後の作業工程を計画し、開発を進める		
3限目	<p>2年生今後の流れ</p> <p>11月7日(土) 9:00~10:30 啓発素材開発 10:45頃~12:30頃 アラカルト講座</p> <p>11月21日(土) 啓発素材完成予定(完成していない場合は授業後等をつかって速やかに完成させる) *期末テスト前完成した成果物の設置や配布等はこの日以降でかまわない。</p> <p>12月3日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の内容検討を始める。発表時間は6分(一人1分程度の計算)今年度はポスターセッションではなく、Google Meetでのセルフレコーディング(Googleスライド共有)1年生は日本語での発表のみを、2年生は日本語と英語の2つの発表を録画する。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>12月5日(土)「探究成果発表」の内容検討 これまでの啓発素材開発のまとめを中心に、客観的なデータや資料を用いて発表ができるようにする。日本語発表原稿・スライドから作る。1分間の発表は日本語が300文字程度、英語は120語程度が目安。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>12月10日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の日本語原稿・スライド作成。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>12月17日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の日本語原稿・スライドの完成。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>冬休み課題 ①各班で日本語発表をGoogle Meetでセルフレコーディングする。(学校でも自宅でもかまわない) ②自分の発表パートの日本語を英語に訳す。</p>		
4限目	<p>1月14日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の英語原稿・スライド作成。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>1月16日(土) クラス内で各班の日本語発表(コンソーシアム関係者来校・発表見学) クラス1位の班を選出する。</p> <p>1月21日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の英語原稿・スライド作成。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>1月28日(木) SGL第2外国語の授業で「探究成果発表」の英語原稿・スライド完成。(担任共有・担任指導は必須)</p> <p>2月2日(火)、3日(水)の一般入試・採点日に各班で日本語発表をGoogle Meetでセルフレコーディングする。</p> <p>2月6日(土) クラス内で各班の英語発表 クラス1位の班を選出する。</p> <p>2月13日(土) 各クラス代表班のオンライン発表をGoogle Meet(プロジェクター投影)で見る。最優秀班をその場で表彰</p>		



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

啓発素材の開発を各班で進めた。

体験活動を重視しながら、探究的、協働的な学習を実践することで、主体性・協働性・探究力・発信力を広く養う事を学習の狙いとしている。

活動の一例に、豊明市に在住する高齢者に向けて、より健康的な体づくりを補助することを目的とした動画制作に取り組む班の実践例を挙げる。動画の内容は、健康的な体づくりのための料理・運動をレクチャーするものである。坂道が多いということと、高齢者の人口が比較的多いという地域課題を意識したテーマとなっている。動画制作にあたり、豊明市役所の健康長寿課の方々や管理栄養士の方々に助言を頂きながら進めている。

## 【生徒の学びと教育的効果】

動画制作にあたり、はじめに豊明市立図書館にて食事や運動に関わる資料を調べた。ここで、健康的な体づくりのために必要な基礎的・基本的な知識を得ることができた。ここで知った事を基に、制作する動画の大まかな構成と扱う内容を決定した。次に、動画の質をさらに高めるために、管理栄養士の方にアポイントメントを取ってインタビューを行った。この機会を設ける上で、コンソーシアムのスギ薬局より協力を頂いている。また、豊明市役所健康長寿課、星城高校に所属する体育科の教員にもインタビューを行っている。以上の活動をもって動画の構成、内容を決定し、それに沿って動画の撮影を行った。動画の撮影は、星城高校内の多目的室、家庭科室にて行われた。撮影した動画の編集は、班員にメディア部に所属する生徒がおり、その生徒が主に取り組んだ。

## 【育成の評価と改善点】

フィールドワーク、体験活動、探究的、協働的な学習にバランス良く取り組んでおり、かなり理想に近い実践例である。今後の展開としては、制作した動画を視聴、またその内容を実践してもらうための宣伝活動となるが、こちらについても落合みまもりサロンという市内の高齢者が集まるコミュニティーと連携しており、充実した活動が期待される。全体を通して、理想的に活動が展開している理由に、活動全般で必要となる様々な作業を、各々がその個性を発揮できるように役割を分担できているところにあると感じた。生徒主体で活動が進んでいく中で、班の中での取り組みの状況に差が生じることから少なからずある。授業者が各班の活動の概要をある程度把握し、その班における役割について適切に助言することで、学習意欲につながる満足感を達成させたい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第10回 11月7日(土)】

1. 単元名 : 地域課題解決のための啓発素材の開発及び現地踏査をする
2. 学習内容 : 校内又は校外で啓発素材を開発し、11月中に開発が完了するように調査や作業などを進める
3. 授業進行表【TG 探究 Think Global】【TL 探究 Think Local】【AG 探究 Act Global】【AL 探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目 9:00	<p>【TL 探究】地域協創プロジェクト</p> <p>教室等で啓発素材を開発する</p> <p>11月末に完成するように、計画的に開発を進める</p> <p><u>担任に開発状況を確認してもらう</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で啓発素材開発をすすめる</li> <li>・地域課題解決につながるものを創る</li> <li>・地域住民が活用できるよう丁寧につくる</li> <li>・班内で役割を分担し、全班員で取り組む</li> <li>・担任の先生に開発状況、今後の工程、配布したいチラシや資料などのデータなどを確認してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外の活動はしない</li> <li>・作業を分担し、すべての班員が開発に意欲的に取り組めるように促す</li> <li>・各班の開発内容を把握する</li> <li>・<b>地域住民や団体に文書や製作した物を渡す前に、必ず担任や SGL 主任の許可を得ること。</b></li> </ul>
2 限目	<p>クオリティーの高い素材(成果物)を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発についての助言を聞き、内容や今後の予定に反映する(担任からの助言・SGL 主任からの助言など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発が完了(完成)するように、必要な助言をする</li> <li>・<b>成果物のクオリティーが重要</b></li> </ul>
10:30	<p>各アラカルト講座会場へ移動する (トイレ休憩含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カバンなどの荷物をもって、各会場へ移動する(トイレ休憩含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトや配布物の準備をする</li> <li>・生徒の出欠状況を確認する</li> </ul>
10:45	<p>【TG 探究】 アラカルト講座を受講し、世界各地の現状や課題を聞く</p> <p>①内海悠二(名大准教授アフガン、ヨルダン)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間内に指定された座席に着席する</li> <li>・号令をかけ、挨拶する</li> <li>・講師の方々の自己紹介を聞く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣旨を説明し、自己紹介を促す</li> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取るように指示する</li> </ul>
3 限目	<p>②佐藤邦子(元 JICA、東ティモール)</p> <p>③後藤千明(JICA、エジプト、スーダン)</p> <p>④玉置美晴(看護師、カンボジア)</p> <p>⑤倉坪久美(元 JICA、ジンバブエ)</p> <p>⑥荒木恵美子(JICA、ジャマイカ)</p> <p>⑦林研吾(JICA、SDGs)</p> <p>⑧世古英弘(JICA、トンガ)</p> <p>⑨久富翔子(JICA、スリランカ)</p> <p>⑩山田修士(名大農学センター、ドミニカ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地の現状や課題について、講師の方が活動されたことや経験されたことを聞く</li> <li>・必要に応じてワークシートにメモを取る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の顔を見ながら話を聞くように促す</li> </ul>
4 限目	<p>課題解決についてグローバルな視点で考える</p> <p>提示された内容について各班で話し合う(その場で即席のグループをつくる)</p> <p>発表・質疑応答などをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界規模の課題や地域課題をどのように考えているかを聞く</li> <li>・高校生に期待したいことを聞く</li> <li>・提示された内容について各班で話し合う(班内で話し合いの進行役(リーダー役)をきめる)</li> <li>・発表したり、質問したりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで活動する際は、速やかに構成できるように、教員主導で指示を出す</li> <li>・各班の発表や質疑応答が円滑に進むように支援する</li> <li>・担任は事前に指導しておく</li> </ul>
12:45	<p>授業を終了する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼のあいさつをする(代表者&amp;クラス全体)</li> <li>・教室の片づけをして解散する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の方を SGL 室まで案内する</li> </ul>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

啓発素材の開発を各班で進めた。また後半では、10名の講師を招いてアラカルト講座を実施した。

啓発素材の開発では、体験活動を重視しながら、探究的、協働的な学習を実践することで、主体性・協働性・探究力・発信力を広く養う事を学習の狙いとしている。また、啓発素材の開発に充てる授業は、本時を含めて残り2回となっている。

アラカルト講座は、第1学年、第2学年合同で実施した。受講したい講座について事前に希望調査をとっており、各講座の人数は40名程度で編成した。講師の先生方による2時間程度の講義を受講した後、統一のワークシートを記入させる。世界各地の現状や課題について、講師の方々が活動されたことや経験されたことを聞くことで、地球規模の課題について深く考えるきっかけとし、グローバルマインドを身につけることを狙いとした。

## 【生徒の学びと教育的効果】

本時の啓発素材の開発に係る活動においては、授業の後半でアラカルト講座を予定していたことから、校外へ出向いてのフィールドワークは原則行わないものとした。そのため各ホームルームにて、主に制作作業に取り組んだ。啓発素材の開発完了の締め切りが迫っていることから、アラカルト講座までの短い時間ではあったが、集中して取り組む様子がうかがえた。

後半のアラカルト講座は、各生徒1講ずつの受講となった。記入させたワークシートには、「濃い2時間を過ごすことができ、とても勉強になりました」「SGLに限らず、将来にも今回の講座で学んだことを生かして行きたいと思います」といった内容の感想がみられた。それぞれの先生方がしてきた体験や、物事の考え方は生徒にとって大変刺激となり、生徒の関心や意欲を喚起させる効果があった。

## 【育成の評価と改善点】

啓発素材の開発について、班ごとに、その進捗状況に差が見られる。期限内に完了、またよりよい成果物ができるように指導・声かけをしていきたい。

アラカルト講座について、課題解決についてグローバルな視点で考えさせ、SGL活動全般をさらに充実させることが主な狙いであったが、その枠を越えた、生徒それぞれの在り方や生き方について、関心や意欲を喚起させるものであった。外部講師を活用することは、教員にはない専門知識・技能を学習することができ、キャリア教育にもつながる大変効果的な指導の工夫であることを改めて実感した。今後の活動においても、積極的に活用するようになりたい。また、今回の授業では各生徒1講ずつの受講であったが、さらに学習効果を高めるために、同日において複数受講できるような工夫も考えていきたい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第11回 11月21日(土)】

1. 単元名 : 地域課題解決のための啓発素材を完成させる
2. 学習内容 : 啓発素材の開発を進め、地域課題解決のための啓発素材を完成させる模擬
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目 9:00	<p>【TL 探究】地域協創プロジェクト</p> <p>教室等で啓発素材を開発する</p> <p>11月末に完成するように、開発を進める</p> <p><u>担任に開発状況を確認してもらう</u> (場合によってはSGL主任に確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班で啓発素材開発をすすめる</li> <li>・地域課題解決につながるものを創る</li> <li>・地域住民が活用できるよう丁寧につくる</li> <li>・班内で役割を分担し、全班員で取り組む</li> <li>・担任の先生に開発状況、今後の工程、配布したいチラシや資料などのデータなどを確認してもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業を分担し、すべての班員が開発に意欲的に取り組めるように促す</li> <li>・各班の開発内容を把握する</li> <li>・<b>地域住民や団体に文書や製作した物を渡す前に、必ず担任やSGL主任の許可を得ること。</b></li> </ul>
2 限目	<p>クオリティーの高い素材(成果物)を作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発についての助言を聞き、内容や今後の予定に反映する (担任からの助言・SGL主任からの助言など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発が完了(完成)するように、必要な助言をする</li> <li>・<b>成果物のクオリティーが重要</b></li> </ul>
3 限目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表ツールはGoogle Meet でセルフレコーディング <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は6分(生徒1人につき1分以上)</li> <li>・発表資料はGoogle Slide で8枚(増減不可)</li> <li>・日本語版を作成し、その後英語版を作成(SGL第2外の授業活用 英語版作成がゴール)</li> <li>・Google Slide と Google Document の共有編集ファイルを各班に設定</li> <li>・日程 <ul style="list-style-type: none"> <li>12月 3日(木) 第2外 日本語発表内容検討&amp;発表タイトル決定</li> <li>12月 5日(土) SGL 地 日本語発表内容&amp;スライド構成検討 データ収集</li> <li>12月10日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</li> <li>12月17日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</li> <li>12月28日(月) 冬休み 日本語発表スライド&amp;原稿完成、提出 (~1/8 担任&amp;SGL 開発部教員による修正指導)</li> <li>~1月 7日(木) 冬休み <u>日本語発表原稿の英訳作成、提出</u></li> <li>~1月11日(月) 3連休 日本語発表セルフレコーディング&amp;動画提出(校外)</li> <li>1月14日(木) 第2外 <u>英語発表スライド&amp;原稿修正、発表練習</u></li> <li>1月16日(土) SGL 地 クラスで各班日本語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</li> <li>1月21日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></li> <li>1月28日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></li> <li>~2月 3日(水) 2連休 <u>英語発表セルフレコーディング&amp;動画提出(校外)</u></li> <li>2月 6日(土) SGL 地 <u>クラスで各班の英語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</u></li> <li>2月13日(土) 選抜班による発表 仰星・特准各1班</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>		
4 限目	<p>授業を終了する</p> <p>解散する</p>		

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

啓発素材の開発を各班で進めた。また、本時が開発作業に取り組むことのできる最後の回となっている。

体験活動を重視しながら、探究的、協働的な学習を実践することで、主体性・協働性・探究力・発信力を広く養う事を学習の狙いとしている。

活動の一例に、高齢者の認知症を予防するための活動に取り組む班の実践例をあげる。この班は、豊明市に在住する高齢者の認知症を予防し、健康寿命を伸ばすことで、豊明市の高齢者の人口増加という地域課題の解決を目的としている。認知症を予防するための脳トレを開発し、プリントを制作して高齢者の所属する各団体に配布、実践してもらうことが主な活動内容である。

## 【生徒の学びと教育的効果】

活動にあたり、扱う脳トレを開発する班と、開発した脳トレに取り組んでもらうために、豊明市内の各団体にアポイントメントを取る班の二手に分かれた。

脳トレ開発班は、インターネット、図書館等を活用し、既存の脳トレを調べ、実際に取り組み、特に効果的だと思ったものを精選、再編成し、今回の活動で扱う脳トレとした。著作物を扱う上で、掲載されていた本の出版社等にメールを送って連絡を取り、使用の許可を得ている。交渉班は、豊明市内で行われているまちかど運動教室、福祉施設であるアイナ、ぴいす、豊明苑、桜ヶ丘公民館、藤田こころケアセンターに連絡、活動の概要を説明し、協力を依頼した。それぞれの団体から快諾を頂き、開発した脳トレに取り組んでいただく運びとなった。

## 【育成の評価と改善点】

他の班の活動と比較すると、開発した素材を用いた実践が充実している活動であった。班内で大まかに役割を分担し、早い段階から他団体へのアポイントメントに取り組んでいたことが要因だと考えられる。感染症の係るリスクが懸念される中、十分な準備があったことで高齢者との交流の機会を設けることもできた。しかし扱う脳トレが既存のもの寄せ集めにとどまってしまったため、脳科学に携わる方々との協働を促すことで、素材の開発に係る活動も充実させたかった。

啓発素材の開発に取り組む上で、成果物の完成が大きな目標にあり、それに係る指導に偏りがちであった。この班の活動例のように実践を充実させるために、完成したものを使い地域課題の解決にアプローチする実践に係る指導・声かけを継続的に行うことで、活動全体の目的意識をはっきりさせたい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第12回 12月5日(土)】

1. 単元名 : 探究成果発表の発表スライドと発表原稿の作成 (啓発素材の開発完了)
2. 学習内容 : 啓発素材の開発をもとに発表スライドと発表原稿を作成する (啓発素材開発が終わっていない班は開発を完了させる)
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p>【TG 探究】地域協創プロジェクト 啓発素材開発を完了する</p> <p><u>担任に完成した成果物を確認してもらう</u> (場合によっては SGL 主任に確認)</p> <p>【TG 探究】 探究成果発表の発表スライドと発表原稿を検討し、作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発素材を完成させ、担任に提出する (地域への提供は後日で構わない)</li> <li>・完成した啓発素材のデジタルデータを Google Classroom に提出する</li> <li>・自分が作成する発表スライドと発表原稿を作成する</li> <li>・12月28日までに発表スライドと発表原稿の作成が完成するように取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や団体に文書や制作した物を渡す前に、必ず担任や SGL 主任の許可を得ることを徹底する。</li> <li>・各担任が Google Classroom に課題を設定する</li> <li>・地域課題・仮説・SDGs・啓発素材開発・実践・振り返りなどをまとめて1年間の探究成果をまとめられるように導く</li> </ul>
2 限目			
3 限目			
4 限目			
	<p>・発表ツールは Google Meet でセルフレコーディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は6分 (生徒1人につき1分以上)</li> <li>・発表資料は Google Slide で8枚 (増減不可)</li> <li>・日本語版を作成し、その後英語版を作成 (SGL 第2外の授業活用 英語版作成がゴール)</li> <li>・Google Slide と Google Document の共有編集ファイルを各班に設定</li> <li>・日程</li> </ul> <p>12月3日(木) 第2外 日本語発表内容検討&amp;発表タイトル決定</p> <p>12月5日(土) SGL 地 日本語発表内容&amp;スライド構成検討 データ収集</p> <p>12月10日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月17日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月28日(月) 冬休み 日本語発表スライド&amp;原稿完成、提出 (~1/8 担任&amp;SGL 開発部教員による修正指導)</p> <p>~1月7日(木) 冬休み <u>日本語発表原稿の英訳作成、提出</u></p> <p>~1月11日(月) 3連休 日本語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</p> <p>1月14日(木) 第2外 <u>英語発表スライド&amp;原稿修正、発表練習</u></p> <p>1月16日(土) SGL 地 クラスで各班日本語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</p> <p>1月21日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>1月28日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>~2月3日(水) 2連休 <u>英語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</u></p> <p>2月6日(土) SGL 地 <u>クラスで各班の英語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</u></p> <p>2月13日(土) 選抜班による発表 仰星・特進各1班</p>	<p>・発表ツールは Google Meet でセルフレコーディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は6分 (生徒1人につき1分以上)</li> <li>・発表資料は Google Slide で8枚 (増減不可)</li> <li>・日本語版を作成し、その後英語版を作成 (SGL 第2外の授業活用 英語版作成がゴール)</li> <li>・Google Slide と Google Document の共有編集ファイルを各班に設定</li> <li>・日程</li> </ul> <p>12月3日(木) 第2外 日本語発表内容検討&amp;発表タイトル決定</p> <p>12月5日(土) SGL 地 日本語発表内容&amp;スライド構成検討 データ収集</p> <p>12月10日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月17日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月28日(月) 冬休み 日本語発表スライド&amp;原稿完成、提出 (~1/8 担任&amp;SGL 開発部教員による修正指導)</p> <p>~1月7日(木) 冬休み <u>日本語発表原稿の英訳作成、提出</u></p> <p>~1月11日(月) 3連休 日本語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</p> <p>1月14日(木) 第2外 <u>英語発表スライド&amp;原稿修正、発表練習</u></p> <p>1月16日(土) SGL 地 クラスで各班日本語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</p> <p>1月21日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>1月28日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>~2月3日(水) 2連休 <u>英語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</u></p> <p>2月6日(土) SGL 地 <u>クラスで各班の英語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</u></p> <p>2月13日(土) 選抜班による発表 仰星・特進各1班</p>	<p>・発表ツールは Google Meet でセルフレコーディング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間は6分 (生徒1人につき1分以上)</li> <li>・発表資料は Google Slide で8枚 (増減不可)</li> <li>・日本語版を作成し、その後英語版を作成 (SGL 第2外の授業活用 英語版作成がゴール)</li> <li>・Google Slide と Google Document の共有編集ファイルを各班に設定</li> <li>・日程</li> </ul> <p>12月3日(木) 第2外 日本語発表内容検討&amp;発表タイトル決定</p> <p>12月5日(土) SGL 地 日本語発表内容&amp;スライド構成検討 データ収集</p> <p>12月10日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月17日(木) 第2外 日本語発表スライド&amp;原稿作成</p> <p>12月28日(月) 冬休み 日本語発表スライド&amp;原稿完成、提出 (~1/8 担任&amp;SGL 開発部教員による修正指導)</p> <p>~1月7日(木) 冬休み <u>日本語発表原稿の英訳作成、提出</u></p> <p>~1月11日(月) 3連休 日本語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</p> <p>1月14日(木) 第2外 <u>英語発表スライド&amp;原稿修正、発表練習</u></p> <p>1月16日(土) SGL 地 クラスで各班日本語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</p> <p>1月21日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>1月28日(木) 第2外 <u>英語発表練習</u></p> <p>~2月3日(水) 2連休 <u>英語発表セルフレコーディング&amp;動画提出 (校外)</u></p> <p>2月6日(土) SGL 地 <u>クラスで各班の英語発表(プロジェクター使用)、代表班選出</u></p> <p>2月13日(土) 選抜班による発表 仰星・特進各1班</p>
	授業を終了する	解散する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月16日の授業でコンソーシアムの方々をお招きし、各クラスで全班的日本語発表をプロジェクターを用いて実施することを伝える</li> </ul>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

啓発素材の開発を各班で進めた。また、ルーブリック評価表を用いて2学期の活動に対する自己評価をさせた。

啓発素材の完成締め切りを本時としており、未完成の班に対する指導を重点的に行うことで各班の活動の節目とすることを目標とした。引き続き、体験活動を重視しながら探究的、協働的な学習を実践することで、主体性・協働性・探究力・発信力を広く養うことを学習の狙いとしている。

ルーブリック評価表を用いた自己評価は、主体性・協働性・探究力・発信力の各項目について、4段階のレベルで評価させた。併せて、2学期の活動について簡単にまとめ、振り返らせた。自己の現状を客観的に認識し、次の課題を考えさせることで、自己評価能力を伸ばすことを狙いとした。

## 【生徒の学びと教育的効果】

啓発素材の開発状況には班ごとに差がみられる。本時の活動は班ごとに、啓発素材の制作作業、成果物を用いた実践など様々であった。最も活動が進んでいる班は、探究成果発表の発表スライドと発表原稿の検討・作成の作業に取り組んでいた。発表スライドと発表原稿の作成完成の予定日が12月28日に設定されており、その予定日までの最後の授業が本時であったことから、スライド作成に係る指導を中心に行った。

ルーブリック評価表を用いた自己評価について、ホームルームにて、ワークシートを用いて評価させた。まとめ、振り返りを記入する欄があり、熱心に取り組む様子が見られた。取り組み状況から、新たな努力への意欲と方法づけに効果的であるように感じた。

## 【育成の評価と改善点】

啓発素材の開発については概ね良好であったが、地域への提供、成果物を用いた実践に係る活動については、その取り組み状況にばらつきがあった。地域への提供、実践には外部との連携・連絡が必須であり、生徒主体の活動において発展的な内容であったことが要因として考えられる。制作した成果物が効果的に活用・実践されるための指導、声かけを継続的に行い、また授業者が適切に手助けすることで、実践に係る活動を充実させたい。

3学期の活動はここまでの活動のまとめ、成果発表が中心となる。第2学年の成果発表は日本語での発表と英語での発表を予定しており、さらに3学期の授業日は累計3日間となっている。短期間での準備となるため、時間を有効に活用するよう指導を工夫したい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第13回 1月15日(土)】

1. 単元名 : 日本語での探究成果発表と代表班の選出
2. 学習内容 : 各班が探究成果発表を日本語で行い、審査・投票によってクラス代表班を選出する
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	【Glocal 探究】 ルーブリック評価表を確認する 日本語で探究成果発表の練習をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック評価表の内容を確認する</li> <li>・原稿を見ずにスライド内容が説明できるように内容を暗記する</li> <li>・黒板前のどの位置に立って話すか、その位置を考える</li> <li>・実際にプロジェクターでスライドを投影して発表してみる</li> </ul>	<p>レベル4を目指すように促す</p> <p>最低限の発表ではなく、できるだけ努力の成果があらわれる発表になるように、生徒には高い目標を持たせる</p>
2 限目	日本語で探究成果発表をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の先生に発表を見てもらい、助言をもらう</li> <li>・原稿を見ずにスライドを用いて発表できるように練習する。</li> </ul>	<p>各班発表の前後は拍手をする</p> <p>厳正に審査するように指導する</p>
3 限目	代表班を選出する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班の探究成果発表を順番に行う</li> <li>(1)プロジェクターでスライドを投影する</li> <li>(2)日本語で発表する</li> <li>(3)発表しない班は審査する *別途審査用紙あり</li> <li>(4)時間は計測しない</li> <li>・審査用紙の集計によりクラス1位の班を選出する</li> </ul>	<p>各生徒に合計点数を書かせ、用紙回収後はすみやかに集計し、結果を発表する</p>
4 限目	SGL 国内研修(修学旅行)の概要説明と関係書類の説明  英語の発表原稿とスライドを修正する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内研修の日程や持ち物、服装などの情報を確認する</li> <li>・参加同意書やキャンセル料についての関係書類を確認する</li> <li>・コロナ感染症関連の書類について確認する</li> <li>・英語版の発表原稿とスライドの修正を行う</li> </ul>	<p>保護者説明会は動画配信に変更したので、動画視聴と配布資料の内容確認をしてもらうように生徒から保護者に伝えてもらう</p> <p>参加同意書の提出期限を確認する</p>
	授業終了	解散する	



## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

日本語による探究学習の成果発表を実施した。

各班で取り組んできた活動をまとめて発表させ、取り組み状況とその成果を共有した。また、他の班の発表とその内容について評価させ、クラス毎に代表班を選出した。発表の準備を進めることで生徒自身がここまでの活動を振り返り、さらに発表を通して、他の班の活動とその成果を確認させ、自分の所属する班の活動と比較することで、自らの学習のプロセスや効果についてメタ認知的な思考を身につけることを狙いとした。

授業の後半でSGL 国内研修（修学旅行）の概要説明を実施する予定であったが、緊急事態宣言の発令に伴い修学旅行が中止となったことから説明は行わなかった。

## 【生徒の学びと教育的効果】

成果発表は各クラスにて実施した。授業の前半部分で成果発表の練習し、後半部分で各班6分の持ち時間の中で発表、発表を聞いている他の生徒は配布された審査用紙にて、グローバルな視点、地域課題の理解、地域協働活動の内容、調査・探究の深さ、発表力、発信力の5項目で採点し、併せて発表に対するコメントを記入した。ルーブリック評価表を用いてプレゼンテーションに関する達成基準を具体的に明示していたことから、目的意識を持って練習に取り組む様子が見られた。また発表を聞く姿勢は真剣で、発表後の質疑応答も充実していたことから、他の班の活動内容に対する関心の高さがうかがえた。ここまで主として取り組んできた啓発素材の開発に係る活動の総まとめに位置づけられる本時の活動は、学習に対する肯定的な態度を育てる効果があった。

## 【育成の評価と改善点】

本時の活動は、主に主体性を獲得し、発信力を養うものであった。今回の発表で準備させたスライドには、8枚で構成するように制限を設けた。その結果、発表の内容が簡潔であったこと、各班の発表にかかる時間がおおよそ持ち時間程度に収まったことなどの利点があった。ボリュームのある内容をまとめさせる上である程度の枠組みを授業者が設定したことがまとめの活動全般を円滑に進める上で良い方向に作用したため、今後も同様の形式で実践したい。

スライドの内容について、どの班も概ね良好であったが、地域課題の根拠となるデータが乏しいように感じた。該当地域に対する調査が不十分であったこと、根拠として機能するためのデータが不足していた事が原因として考えられるため、データの活用する方法について適宜指導することで改善したい。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第14回 2月6日(土)】

1. 単元名 : 全国大会の優秀探究成果発表の動画視聴・ベトナムオンラインツアー
2. 学習内容 : 他校の優れた発表を視聴し、感想を出し合う。またベトナムオンラインツアーに参加しグローバルな視点で多文化共生について学ぶ。
3. 授業進行表 【 TG 探究 Think Global 】 【 TL 探究 Think Local 】 【 AG 探究 Act Global 】 【 AL 探究 Act Local 】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p><b>【Glocal 探究】</b></p> <p>全国高等学校グローバル探究オンライン発表会の優秀発表を動画視聴</p> <p>感想や意見を出す</p> <p>自分たちの探究発表について改善点を見出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語部門の金賞校の探究成果発表から1つ選びプロジェクターで動画を視聴する</li> <li>・感想や意見をワークシートに記入する</li> <li>・英語部門の金賞校の探究成果発表から1つ選び、プロジェクターで動画を視聴する</li> <li>・感想や意見をワークシートに記入する</li> <li>・自分の班の発表と比較して、優れているところを考える。また、自分の班の発表の改善すべき点をまとめる</li> </ul>	<p>大会 HP の結果ページを見せる</p> <p>生徒に各部門1つの発表を選ばせる</p> <p>時間があれば意見や感想を発表させてクラス内で共有する</p> <p>時間があれば改善点などを発表させてクラス内で共有する</p>
2 限目	<p><b>【AG 探究】</b></p> <p>ベトナムオンラインツアー参加前のベトナムについての事前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム共和国についてインターネットで調べ、ワークシートに内容をまとめる</li> </ul>	<p>ワークシートを配布し、調べたことを記入させる</p> <p>時間があれば調べたことを発表させてクラス内で共有する</p>
10:40	オンラインツアー会場へ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレを済まし、荷物をすべて持ってオンラインツアーの会場へ移動する</li> </ul>	<p>教室へは戻ってこない前提</p>
10:50 11:00	ベトナムオンラインツアーに接続 ベトナムオンラインツアーに参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長または副班長の iPad をプロジェクターにつなぎ投影する。指定された Zoom ミーティングに参加する</li> </ul>	<p>ケーブル・リモコンの事前準備 プロジェクターと iPad の接続確認</p> <p>Zoom に参加できているかの確認</p>
3 限目	<p>ガイド1 仰星1組1, 2, 3班</p> <p>ガイド2 仰星2組4, 5, 6班</p> <p>ガイド3 特進1組7, 8, 9班</p> <p>ガイド4 特進2班11, 12, 13班</p> <p>ガイド5 特進3班13, 14, 15班</p>	<p>ID : 991 3710 8843</p> <p>パスワード :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドさんをスポットライトビューに設定する</li> <li>・ガイドの案内でホーチミン市内を探索する</li> </ul>	<p>スポットライトビューの指示する</p> <p>クラスの各班の参加状況を確認する</p>
4 限目 12:10	オンラインツアーの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに感想や意見などを記入する</li> <li>・アンケート用紙に感想を記入する</li> </ul>	<p>アンケート用紙を配布する</p>
	ワークシート・アンケート用紙の回収	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートとアンケート用紙を担任に提出する</li> </ul>	<p>ワークシートとアンケート用紙を回収する</p>
	授業終了	解散する	各会場で解散の指示を出す

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」の優秀発表動画を視聴した後、ベトナムへのオンラインツアーを実施した。

先日行われた「全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」にて金賞・局長賞を受賞した学校の発表動画を視聴し、感想や意見をワークシートに記入させた。他校の活動の取り組み状況を知り、学習内容を掘り下げ、自分たちの活動を内省することで、他地域・異文化の理解と学習を追求する意欲を高める事を狙いとした。

ベトナムへのオンラインツアーにおいては、現地の方と Zoom を用いて中継し、ホーチミン市内の様子を擬似的に見て回った。日頃の授業では得ることのできない体験をすることで、グローバルな視点を身につけること、視野を広げ好奇心を育む事を狙いとした。

## 【生徒の学びと教育的効果】

動画の視聴は各クラスにて実施し、1時間の中でおおよそ2班分の動画を視聴、ワークシートの記入を実施した。受賞した発表には日本語部門・英語部門があり、それぞれの受賞動画を視聴した。自分たちとは異なる視点で地域の諸問題の解決に向けて取り組むその内容に、生徒は感心をもって視聴する様子がうかがえた。この活動では、交流学习の要素が一端にあった事から、他者を尊重する態度を育む効果があったと感じた。

授業の後半で実施されたオンラインツアーでは、各クラスを3つのグループに分けて、それぞれのグループにて、プロジェクターに投影された現地の様子を見て回った。ベトナムの現在の状況を知ることができたことから、生徒たちの見聞を広める事のできた活動であった。

## 【育成の評価と改善点】

本時の活動は、主に協働性を獲得し、探究力を養うものであった。特に、他の学校の実践例は生徒にとって刺激となり、今後の様々な課題に対応するための課題解決能力・探究力に資するものであった。そのため受賞校の発表のみならず、発表会に参加した各学校の動画について視聴する機会を設けたい。また英語部門の発表について、英語の習熟度によって生徒間で理解度に差があったため、発表の内容が理解できるよう何らかの手立てを考えたい。後半で実施したオンラインツアーの生徒の反応は良好であった。コロナ禍において様々な活動が制限される中で、海外の文化に触れるために企画された初めての試みであったが、リアルタイムで質問しながら現地の様子を観察でき、校舎内にて可能な取り組みとしては十分な機会であった。

令和2年度 総合的な探究の時間 SGL 地域協創学Ⅱ 授業進行表【第15回 2月13日(土)】

1. 単元名 : 1年生の探究成果発表に対するアドバイス・カンボジアオンラインツアー
2. 学習内容 : 1年生の探究成果発表動画を視聴し、今後に向けた助言を行う。またカンボジアオンラインツアーに参加する。
3. 授業進行表【TG探究 Think Global】【TL探究 Think Local】【AG探究 Act Global】【AL探究 Act Local】

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 限目	<p><b>【Glocal 探究】</b></p> <p>1年生の探究成果発表動画視聴</p> <p>発表に対するアドバイス</p> <p>ループリック評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰星1組→仰星1-1、仰星2組→仰星1-2 特進1組→特進1-1、特進2組→特進1-2 特進3組→特進1-3の発表動画を視聴する</li> <li>・1つ目の発表動画を学校HPから視聴し、感想と良いところ、改善点や不足していることなどについてアドバイスを書く</li> <li>・2つ目の発表動画を学校HPから視聴し、感想と良いところ、改善点や不足していることなどについてアドバイスを書く</li> <li>・ループリック評価表をもとに3学期の活動について自己評価をする</li> </ul>	<p>クラスを男女混合の7グループに分けて1年生各クラス7班の発表動画に振り分ける</p> <p>各グループが2つ班の発表動画を視聴するように割り振る</p> <p>感想・アドバイス記入用紙を配布する</p> <p>記入用紙を回収する</p> <p>ループリック評価表を配布し、記入後に回収する</p> <p>ワークシートを配布し、調べたことを記入させる</p>
2 限目	<p><b>【AG 探究】</b></p> <p>カンボジアオンラインツアー参加前のカンボジアについての事前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンボジア王国についてインターネットで調べ、ワークシートに内容をまとめる</li> </ul>	<p>時間があれば調べたことを発表させてクラス内で共有する</p> <p>教室へは戻ってこない前提</p>
10:40	オンラインツアー会場へ移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレを済まし、荷物をすべて持ってオンラインツアーの会場へ移動する</li> </ul>	<p>ケーブル・リモコンの事前準備 プロジェクターとiPadの接続確認</p>
10:50 11:00	カンボジアオンラインツアーに接続 カンボジアオンラインツアーに参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長または副班長のiPadをプロジェクターにつなぎ投影する。指定されたZoomミーティングに参加する</li> <li>・音声ケーブルを接続しスピーカーを利用する</li> </ul>	<p>Zoomに参加できているかの確認</p>
3 限目	<p>ガイド1 仰星1組1, 2, 3班 ガイド2 仰星2組4, 5, 6班 ガイド3 特進1組7, 8, 9班 ガイド4 特進2班10, 11, 12班 ガイド5 特進3班13, 14, 15班</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声ケーブルを接続しスピーカーを利用する</li> <li>ID: パスコード:</li> <li>*ガイドさんをスポットライトビューに設定する</li> <li>・ガイドの案内でアンコールワットなどを探索する</li> </ul>	<p>スポットライトビューの指示する</p> <p>クラスの各班の参加状況を確認する</p>
4 限目	<p>オンラインツアーの振り返り</p> <p>ワークシート・アンケート用紙の回収</p> <p>授業終了</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに感想や意見などを記入する</li> <li>・アンケート用紙に感想を記入する</li> <li>・ワークシートとアンケート用紙を担任に提出する</li> </ul> <p>解散する</p>	<p>アンケート用紙を配布する</p> <p>ワークシートとアンケート用紙を回収する</p> <p>各会場で解散の指示を出す</p>

## 【授業の様子（写真）】



## 【授業の概要と学びの狙い】

1年生の各班の活動の成果をまとめた動画を視聴した後、カンボジアへのオンラインツアーを実施した。

1年生の活動をまとめた動画を視聴し、学校全体で取り組んできた活動と成果の共有と、2年生から1年生に向けての感想・アドバイス記入用紙を書かせた。用紙を介した間接的な学び合いの活動ではあるが、その機会をもって、わかり合うことで他者への理解を深めると同時に、情意、人間関係など、学習者が多面的に成長していくことを狙いとした。

カンボジアへのオンラインツアーにおいては、現地の方とZoomを用いて中継し、アンコールワット、オールドマーケットの様子を擬似的に見て回った。日頃の授業では得ることのできない体験をすることで、グローバルな視点を身につけること、視野を広げ好奇心を育む事を狙いとした。

## 【生徒の学びと教育的効果】

動画の視聴は各クラス7班程度に分かれ、一時間の中で2班分の動画を視聴、用紙の記入を実施した。昨年度、同様の活動に取り組んできた事が背景にあったためか、どの生徒も熱心に視聴する様子が見られた。また用紙への記入内容について、スライドの構成に対する助言、来年度の取り組みに向けた助言、1年生を励ます言葉が多く見られた。この活動では、主に他者理解に関わる活動が広く効果的に実践されたことから、豊かな人間性を育む効果があったと感じた。

授業の後半で実施されたオンラインツアーでは、各クラスを3つのグループに分けて、それぞれのグループにて、プロジェクターに投影された現地の様子を見て回った。カンボジアの現在の状況を知ることができたことから、学習者の見聞を広める事のできた活動であった。

## 【育成の評価と改善点】

本時の活動は、主に主体性・協働性を獲得するものであった。これまでの活動では下級生と関わる機会がほとんど無かったが、前時に実施した全国高等学校グローバル探究オンライン発表会の優秀発表動画の視聴と比較すると、生徒の反応、取り組みの状況が良好であったことから、活動全体を充実させる上で高い効果があるように感じた。今後の活動において、成果を共有する場面以外にも、学年の枠を越えて協働する活動を積極的に取り入れたい。また前回に引き続き、オンラインツアーでの生徒の反応は良好であった。ツアーを通して知った事、得た経験をSGL活動に結びつけるために、どのように指導していくのが今後の課題である。この点を十分に検討・吟味することで、年間の活動の中で、ツアーの機会を適宜設けるようにしたい。

### (3) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 英語 I】

コミュニケーション力アプローチとして、「SGL 語学」を学校設定教科とし、1年次の教育課程では学校設定科目「SGL 英語 I (1 単位)」の研究開発を行った。ネイティブ教員による少人数授業の実施により、英語の Speaking 技能と Listening 技能のブラッシュアップをすることによって、英語でのコミュニケーション力の向上を重点においた研究開発に取り組んだ。英語で他者と会話する力、自分の考えを英語で発表する力、異なる意見を持つ相手と英語で理解し合う力を育成する。

また、今年度はコロナ禍の中で対面授業が制限された。その中で、ICT を活用した新たな試みとして、各生徒に学校から提供されている iPad を用いて授業内での動画撮影、音声録音、Speaking テストの録画などを試みた。自ら話している姿を客観的に観察することで、自身の発音や話しかたの改善点を見出して、結果として相手に伝わりやすい Speaking 技能の向上に繋がられた。回数を重ねるごとに、生徒の取り組みの姿勢の違いも見受けられ、より活動的な授業を行うことができた。

#### 1. 学習の到達目標

これらの指導内容に基づき、学習の到達目標として、学習内容は CEFR の A2 から B1 にレベル設定し、B1 以上の運用能力育成を目標とする。(図 1 参照)

(図 1) Can-do リスト

CEFR	Listening	Speaking
Grade B1	短い物語も含めて、学校、日常生活で、出会う、ごく身近な事柄について、標準語で明瞭に話された英語なら普通に理解できる。 英語のネイティブ・スピーカーが標準語で話し、発音もはっきりとしていれば、比較的長い講義・議論の要点を理解できる。	1. 自分の関心のあるさまざまな話について、ほどほどの流暢さで説明や意見を述べプレゼンテーションができる。 2. 自分のよく知っている話題について、簡単なディベートができ英語のネイティブ・スピーカーの質問にも的確に答えることができる。
Grade A2	ゆっくりははっきりと話してもらえればスポーツや料理などの一連の行動の指示を聞いて理解し、指示通りに行動することができる。 英語のネイティブ・スピーカーがスピードやポーズなどにある程度配慮して話をすれば、おおよその内容を理解することができる。	1. 自己紹介をしたり、時間・日にち・場所について質問したり、事前に準備した身近なトピックについて短い話ができる。 2. 英語のネイティブ・スピーカーと、自分のことやなじみのある話題について、英語で短いやり取りをすることができる。

#### 2. 定期テストと 5 段階評価の算出方法

定期テストは 1 学期期末、2 学期期末、3 学期学年末の年 3 回実施する。テスト内容は担当ネイティブ教員の作成した Listening テストと事前に指定した内容でネイティブ教員にスピーチを行う Speaking テストの 2 つを行う。5 段階評定の算

出方法については、テストの配点に授業参加点、課題提出点の 4 つの配点を合計 100 点とする。

### 3. 評価の観点及び評価の方法

評価の観点及び評価の方法は以下の図の通りで行う。(図 2 参照)

(図 2)

	関心・意欲 ・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観点	英語を話すことによって積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしているか。	場面や目的に応じて必要な情報や自分の考えを英語で相手に伝えようとしているか。	相手が英語で話すことを理解しているか。また自分が伝えたいことを英語で話しているか。	英語を話すために必要な語彙や表現などの言語運用知識を身に付けているか。
方法	・ 日常の授業態度 ・ Speaking テスト	・ スピーチ及び発表 ・ Speaking テスト	・ スピーチ及び発表 ・ Speaking テスト ・ Listening テスト	・ スピーチ及び発表 Speaking テスト Listening テスト

### 4. 使用教材

仰星コース、特進コースの使用教材は以下のとおり。

#### (1) SGL 英語 I 【仰星コース】

教科書： Revised POLESTAR English Communication I (数研出版)

仰星コースはコミュニケーション英語 I とセットで行うため、使用教材は高校英語の文法をメインにした教材をベースに、文法に気を付けながらも発音、言い回しをネイティブ教員により強化した。

#### (2) SGL 英語 I 【特進コース】

教科書： MAINSTREAM English Expression I 2<sup>nd</sup> Edition (増進堂)

特進コースは SGL 英語 I 単独での展開のため、教科書は日常会話ベースのもの、授業はプレゼンテーション形式にすることによって、ネイティブ教員から正しい発音、表現、言い回しを学んでいった。

### 5. 年間学習計画

仰星コース、特進コースの年間学習計画は以下のとおり。(図 3, 図 4 参照)  
両コースともに教科書に沿っての学習に加え、生徒同士での活動の様子の動画撮影を行う。ペアワークの際は録音して見返すなどの時間を取ることによって、反復学習の時間を作り、英語を話すことに対する苦手意識をなくすよう試みた。

(図3 仰星コース年間学習計画)

学習単元	学習方法	評価のポイント
1. Washoku-Japanese Food Culture	文型を理解し和食と日本の食文化について英語で話す	和食の材料や特徴について英語で説明できる
2. Different Bottles, Different Names	現在完了形を理解し、ペットボトルの利点と問題点について英語で話す	リサイクルについて、自分の考えを英語で説明できる
3. The Adventures of Ishikawa Naoki	関係代名詞を理解し、石川直樹が冒険家になるまでについて英語で話す	外国に行く利点・注意点について英語で説明できる
4. Bright Stars in a Dark Sky-Tekapo	進行形を理解し、テカポの夜空が世界遺産に推薦される経緯を話す	テカポの特徴について英語で説明できる
5. The Story of Amazing Grace	動態を理解し、アメイジンググレイス誕生の物語について英語で話す	ジョン・ニュートンと本田美奈子の人生を英語で説明できる
6. The Dark Side of Diamonds	分詞を理解し、シエラレオネのダイヤモンドに関わる紛争について話す	「血のダイヤモンド」に対する国連の対策を英語で説明できる
7. Ice Cream That Does Not Melt	分詞構文を理解し、溶けないアイスクリームを作った大学生について話す	大学生たちが溶けないアイスクリーム作った経緯を説明できる
8. The World of Haiku	仮定法を理解し、英語の俳句について話す	俳句が海外で関心を集めている理由を英語で説明できる

(図4 特進コース年間学習計画)

学習単元	学習方法	評価のポイント
1. Nice to meet you	文の要素を理解し、英語で自己紹介をする	・5文型の理解
2. What kind of Music Do You Like?	現在形の性質を理解し、自分の好みについて英語で話す	3人称単数現在の‘s’の理解
3. My Treasure	過去形の性質を理解し、自分の大切なものについて英語で話す	・動詞の過去形の理解
4. This coming weekend	未来を表す表現を理解し、未来の予定について英語で話す	will・be going toなどの理解
5. Subjects I'm taking	進行形の働きを理解し、自分が勉強している科目や内容について英語で話す	・be動詞 + doingの理解



## 6. 定期テストの様子

1 学期期末、2 学期期末、3 学期期末と行った Speaking テストでは、SGL 活動で行った内容と関連付けた内容でスピーチ原稿を作成することによって関連性を意識づけた。原稿内容は提出課題として事前に提示することにより、授業内、または SGL 活動内に原稿案を考えるよう促した。

「SGL 英語 I」では、ネイティブ教員による原稿案の添削、テスト前の発音、言い回しのチェックを徹底することにより、生徒の英語を話すことに対する苦手意識をなくすよう取り組みを進めていった。

また、2 学期からは原稿内容に基づいたスライドを作成し、スライドを使用しながらの発表形式での Speaking テストを実施することにより、より実践的なスピーチスキルを英語で行うよう、Speaking 力に加え、プレゼンテーション力の向上を図った。それに加え、内容設定を学期ごとに難しくしていくことによって生徒のチャレンジ精神を磨いた。Speaking テストの様子は以下の写真のとおり。



### 1 学期「自己紹介」

コロナ禍であることを考慮し、各自がタブレットでレコーディングをする形で実施した。6 月に学校を再開し、クラスメイトとも馴染みだした頃を実施したため、自己紹介、自身の好きなこと、頑張りたいことをテーマに設定。自身についての内容だったため、生徒は比較的スムーズに発表ができた。しかし、動画を取ることを照れくさく感じている様子が見受けられた。

### 2 学期「豊明市の問題について述べる」

SGL 活動で学んだ豊明市の問題点について、自身の考えや提言を述べるよう内容を設定。発表はスライドを用いたプレゼンテーション形式で実施した。SGL 活動で事前に学んだことをもとに原稿作成。

スライドは原稿の内容を視覚的に理解できるものにするよう、また、表記もすべて英語で記載するよう徹底した。発表時は前を向くことを意識しつつも、原稿に視線を向ける場面が多く見受けられた。





### 3 学期「SGL 活動での学び」

1 年生を振り返り、SGL 活動で学んだこと、また自身が成長したと思うことを内容に 2 学期同様プレゼンテーション形式で行った。

それぞれが SGL 活動での学びを自身の成長と結び付け、またコロナ禍での葛藤などを述べた。発表時は原稿を見ず、自然に手振りなどをつける場面も見受けられた。発表内容はスライドも含め 1 学期・2 学期以上の成果を見せる生徒が多々見受けられた。

## 7. 「ショート・ムービー・プロジェクト」

6 月の学校再開より授業をスタートした SGL 英語 I では、コロナ禍の影響により、英会話のベースとなる対面での会話・グループワーク等が制限された。授業内ではペアワークの際には距離を開けて、マスク着用を徹底し、各々が iPad に音読内容を録音、反復学習を行うことにより、Speaking 能力の向上を図った。面と向かってのコミュニケーションがとれない中で、生徒の話すことへの苦手意識はそのままに授業が進み、発音の向上のみに重点を置く傾向がでていた。

その状況下で、生徒の Listening 技能の向上、また、Speaking 技能の向上を図るため、ネイティブ教員監修のもと、「ショート・ムービー・プロジェクト」を実施した。生徒自身が好きな映画・ドラマのワンシーンを選び、グループで配役を決め、実際にレコーディングする。

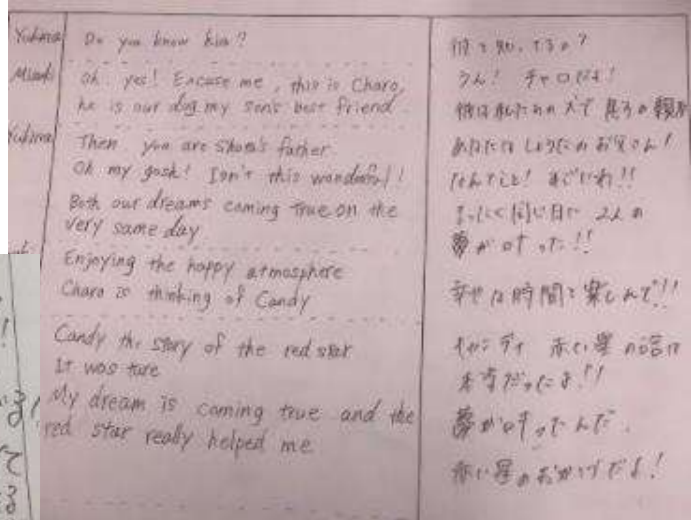
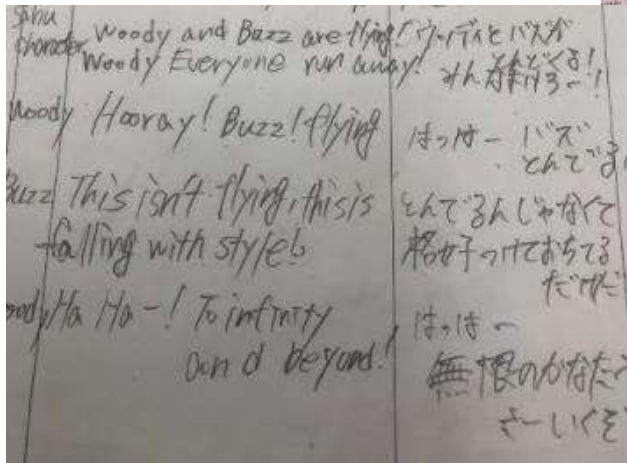
グループごとにネット上で題材を決め、そのワンシーンを聞き取り、セリフを書き起こす。その台本をもとに決まった役割のセリフを覚え、生徒間で動画撮影を行う。ネット上の動画からセリフを書き起こす際、字幕のあるものは字幕を元に動画を繰り返し聞くことで、実際のセリフと字幕の表現の違いに気づくきっかけ作りができた。いくつかのグループは日本語からの翻訳変換をした後、台本と洋画を聴き比べることにより、自然な言い回しの英語表現を自らの学びにしていた。また事前にネット上に上がっているスクリプトを何個か用意し選べるようにしておくことで、活動のないグループができないように考慮した。

ネイティブ教員の添削、発音チェックのもと行った動画撮影では各グループ指定教室または個々でシチュエーション設定した場所での撮影を行った。シチュエーション設定のため、授業外で撮影を行うグループなどもあり生徒の意欲的な活動が多く見受けられた。一部ではタイトル・字幕を付ける、効果音・BGM を付けるなどの編集技能の高いグループもあり、他グループに指導する場面も見受けられた。

最終的に、各クラスで上映会を実施。自身のグループ、他グループに対してのフィードバックを行った。この活動により、生徒の録画する照れくささ、気恥ずかしさが薄れ、Speaking テストの際にも、より堂々とした自然体でスピーチする生徒が増える結果となった。活動の様子は以下の写真のとおり。

「台本の作製」

各グループで動画を選び、セリフを書き起こした台本。配役、英文、訳をつけることにより、自然な言い回しでの英語表現を身に付けられた。



「完成動画」

各グループ学校内で撮影したものを編集。字幕を付けることでより見やすさを意識するグループが多く見受けられた。中には小道具を用意する、画像の編集をすることにより、視覚的に楽しませることを意識したグループもあった。



#### (4) 学校設定教科：SGL 語学【SGL 第 2 外国語】

SGL 第 2 外国語では、地元豊明市で急増するベトナム人との交流を促進させるためにベトナム語の学習に取り組む。そして 11 月の全員参加型ベトナム海外研修でベトナム語学習の成果を発揮する。また、多文化共生社会で求められる multilingual の必要性を理解するために、授業時間の前半をベトナム語、後半を英語という複数言語学習に取り組む。ベトナム語学習については、挨拶や自己紹介、日付、曜日、数字、天候、食事、身の回りの物などについてベトナム語で理解し、表現できるようになることを目標とする。英語学習については SGD の理解を深めるために、17 の持続可能な開発目標に関連した英語の長文を読解することで、海外研修や探究学習に活用できる学びを展開する。英語学習のレベルは CEFR の A2（英検準 2 級レベル）から B1（英検 2 級レベル）に設定し、B1 以上の読解力を身につけることを目標とする。授業担当者はベトナム人と外国語(英語)科教員とし、1 クラスを 2 教室に分けて少人数学習を実施する。SGL 第 2 外国語の授業概要については下記のとおりである。

教科・科目名	教科：SGL 語学 科目：SGL 第 2 外国語
単位数	1 単位
対象学科 学年	コース：仰星コース・特進コース 学 年：2 学年
必履修・ 選択の別	必履修
設定する 教科・科 目の内容	<p>1. 学習の到達目標</p> <p>SGL 第 2 外国語では地元豊明市で急増するベトナム人との交流を促進させるため、ベトナム語の学習に取り組む。ベトナム語学習の成果を発揮する場面は、外国人市民との地域協働活動と 11 月に実施するベトナム海外研修（修学旅行）となる。また、多文化共生アプローチでの学びを通して多文化共生推進で求められる multilingual の必要性を理解するために、授業の前半にベトナム語、後半に英語を学ぶ複数言語学習に取り組む。</p> <p>ベトナム語学習については、日常会話での基礎的なコミュニケーション技能の育成を図る。日常生活で用いる挨拶や自己紹介、日付、曜日、数字、天候、食事、身の回りの物などについてベトナム語で理解したり、表現したりすることができるようになることを目標とする。</p> <p>英語学習については SGD の理解を深めるために、17 の持続可能な開発目標に関連した英語の長文を読解することで、SGL 活動での探究学習に活用できる英語の学びを展開する。学習レベルは CEFR の B1（英検 2 級レベル）に設定し、B1 以上の読解力育成を目標とする。</p> <p>2. 教科書</p> <p>【ベトナム語】 自主制作教材</p> <p>【英 語】 読解力と表現力を高める SGD 英語長文 825 円（税込） 竹下厚志著 三省堂出版</p>

### 3. 評価の観点及び評価の方法

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
観 点	[ベトナム語] ベトナム語を知ろうとし、基本的な表現を習得しようとしているか。	[ベトナム語] 場面や目的に応じて、学んだ表現を用いて相手に伝えようとしているか。	[ベトナム語] 挨拶や自己紹介などについて、相手とのやりとりが成り立っているか。	[ベトナム語] 日常会話に必要な基本的な語彙や表現を身につけているか。
	[英語] SDGs に関わる諸問題を知り、深く理解しようとしているか。	[英語] SDGs の諸課題を理解し、課題解決に向けて自分の考えを持とうとしているか。	[英語] SDGs に関する英語の文章について、その内容を正しく理解しているか。	[英語] SDGs に関する英文を理解するために必要な語彙を身につけているか。
方 法	[ベトナム語] ベトナム語の学習状況から、各学期において A, B, C, D, E の 5 段階で評価する。 [英語] SDGs 英語長文テキストでの学習状況を A, B, C, D, E の 5 段階で評価する。			

### 4. 授業形態及び授業担当者

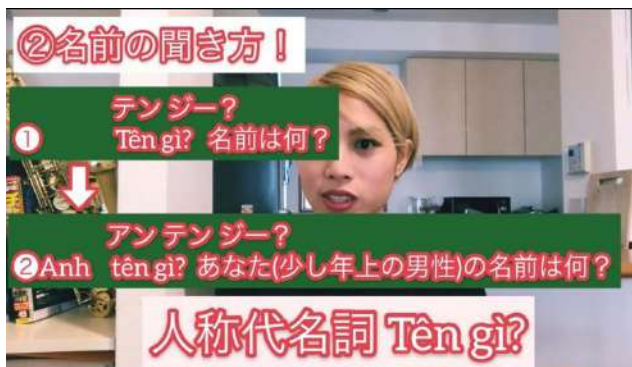
- (1) 授業は 1 クラス 2 展開で実施する。(1 教室最大 20 名)  
授業の半分 (25 分間) がベトナム語学習、残りの半分 (25 分間) が英語学習となる。
- (2) ベトナム語は星城大学のベトナム人学生 2 名が授業を担当し、英語は SGL 開発部の英語科教員が担当する。
- (3) 4 月～11 月末まではベトナム語 25 分、英語 25 分の 2 展開授業を実施するが、12 月からは英語のみの 50 分間 1 展開授業になる。

#### 【1, 2 学期の授業展開例】

		ベトナム人講師 A (ベトナム人学生)	ベトナム人講師 B (ベトナム人学生)	本校教員 (SGL 開発部英語教員)
1 限	前半	1 組 $\alpha$	1 組 $\beta$	/
	後半	/		
2 限	前半	2 組 $\alpha$	2 組 $\beta$	/
	後半	/		
3 限	前半	3 組 $\alpha$	3 組 $\beta$	/
	後半	/		

学年	学習単元	学習方法
2 年	<p>〔ベトナム語〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ベトナム語の歴史・文字</li> <li>2.ベトナム語の母音・子音</li> <li>3.こんにちは／お元気ですか</li> <li>4.ありがとう／おめでとう</li> <li>5.はい／いいえ／わかる／わからない</li> <li>6.そうです／ちがいます／すみません／ごめんなさい</li> <li>7.どうぞ～してください／また会いましょう</li> <li>8.基本表現〔ホテルの部屋〕</li> <li>9.基本表現〔乗り物・施設〕</li> <li>10.基本表現〔街〕</li> <li>11.基本表現〔自然〕</li> <li>12.基本表現〔動物〕</li> <li>13.基本表現〔市場〕</li> <li>14.基本表現〔服・身の回り〕</li> <li>15.基本表現〔家族〕</li> <li>16.基本表現〔身体・顔〕</li> <li>17.基本表現〔国名〕</li> <li>18.基本表現〔数字〕</li> <li>19.基本表現〔月〕</li> <li>20.基本表現〔曜日〕</li> <li>21.基本表現〔季節〕</li> </ol> <p>〔英語 SDGs 英語長文〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Water Crisis</li> <li>2.Palm Oil</li> <li>3.Plastic Waste</li> <li>4.Refugees</li> <li>5.Natural Disasters</li> <li>6.Gender Equality</li> <li>7.Virtual Water</li> <li>8.Sustainable Society</li> <li>9.Zero Plastic</li> <li>10.Refugees in Recent Years</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム語の文字を理解する。</li> <li>・ベトナム語の音を理解する。</li> <li>・あいさつの表現を理解する。</li> <li>・感謝と喜びの表現を理解する。</li> <li>・返事の表現を理解する。</li> <li>・肯定と否定、謝罪の表現を理解する。</li> <li>・勧める際の表現と別れの挨拶を理解する。</li> <li>・ドア、ベッド、机などの表現を理解する。</li> <li>・バス、車、飛行機などの表現を理解する。</li> <li>・ホテル、寺院、公園などの表現を理解する。</li> <li>・海、山、雨、木、花などの表現を理解する。</li> <li>・犬、サル、鳥、虫などの表現を理解する。</li> <li>・野菜、果物などの表現を理解する。</li> <li>・カバン、靴、財布などの表現を理解する。</li> <li>・父、母、兄、妹などの表現を理解する。</li> <li>・目、耳、手、腹、足などの表現を理解する。</li> <li>・ベトナム、日本などの表現を理解する。</li> <li>・0～10、百、千などの表現を理解する。</li> <li>・1月～12月の表現を理解する。</li> <li>・日曜日～土曜日の表現を理解する。</li> <li>・春夏秋冬などの表現を理解する。</li> <li>・How can we collect and save water?</li> <li>・How does palm oil affect our daily lives?</li> <li>・Can plastic make living things on the globe happy or unhappy?</li> <li>・How much can you sacrifice yourself to help people in need?</li> <li>・How can we recover from natural disasters?</li> <li>・In Japan a gender-equal society?</li> <li>・How much water does Japan import from foreign countries?</li> <li>・How is palm oil produced and used?</li> <li>・Do you have any ideas to reduce the use of plastic?</li> <li>・Why does Japan not accept many refugees?</li> </ul>

今年度はコロナ禍でベトナム語講師に来校してもらうことができなかった。そのため、授業の多くは英語の学習となった。6月と7月、9月は読解力と表現力を高めるSDGs英語長文のテキストを用いてSDGsの各目標についての英語長文を読解することで、世界各地での課題、世界共通の課題、日本と共通する課題などについて考える授業を行った。10月と11月はベトナム語講師による授業は設定でいなかったものの、ベトナム人によるベトナム語の会話学習動画を視聴しながら、挨拶や簡単な自己紹介などを学習した。12月と1月、2月は探究成果発表の英語版の作成に取り組み、全探究班が英語での探究成果発表の原稿とスライドを完成させ、発表をiPadで画面収録するかたちで記録した。



来年度はコロナ禍であってもベトナム人講師によるベトナム語の授業が実施できるように準備を進めたい。また、予定しているベトナム海外研修ができない状況では生徒のベトナム語学習に対するモチベーションはあまりあがらないと想像する。このことも考慮に入れて計画を立てたい。生徒が多文化共生の重要性を学びながら、英語や第2外国語を学ぶ中で multilingual の必要性に気づき、言語学習に対する学習意欲が向上するように導きたい。ベトナム語学習動画サイト <https://www.youtube.com/watch?v=pbdfw7bAMw0>

#### 4. Think Global 探究【アラカルト講座】



6月から学校の授業が通常再開されたものの、コロナウイルスの感染防止対策のため、大人数で生徒を一か所に集めることができなかった。昨年まで、SGL活動におけるグローバルな学びは、100～300名規模の生徒を対象に、有識者をお招きする講演の形式を主力としてきました。しかし、この状況下で、この形式が取れない中、また海外研修も中止となる中、生徒たちにいかにしてグローバルな学びを与え、グローバルな視点を持たせられるかが我々の大きな課題でした。プリントやインターネットを使って、SDGsの学び、グローバルな学びを生徒たちに提供してきましたが、やはり実際に志を持って海外で活躍された方々の生の声を生徒たちに届けたいという思いが強くなり、1か所に集められないのであれば、沢山の講座を用意して、人数を教室単位に小分けすれば実施できるのでは考え、このアラカルト講座を企画しました。用意する講座は全部で10講座。1年生、2年生の枠、クラスの枠を取っ払って、自分が興味のある講座、聴きたいと思う講座を自ら選ぶ方式を採用しました。理由は自分で選ぶという主体性が、生徒たちにとってこの講座がより価値あるものに高められると思ったからです。

まずは講師の先生方の手配ということで、本校海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員の古藪真紀子氏にご指導とご助言を賜り、古藪氏のご協力のもと、JICA中部にもお声かけしていただき、海外での活動経験の豊富な方々10名を集めていただきました。この時、我々が重視した点は、海外での経験が豊富であることはもちろんのこと、できるだけ年齢が生徒に近い人、熱量を持って熱く生徒に語りかけてくれる人を集めていただきたいということでした。国際貢献、国際交流に対して熱い思いを持った身近な大人を生徒たちに感じて欲しかったからです。お集まりいただいた講師の方々、講座タイトルは以下の通りです。

- 荒木美恵子氏 「日本のファンを増やすために～あなた一人ひとりが親善大使～海外の人にとっての日本の窓口（日本大使館 in ジャマイカ編）」
- 内海 悠二氏 「国際協力、紛争、難民：彼らの問題か、私たちの問題か（アフガニスタン・ヨルダンなど）」
- 久富 翔子氏 「世界の課題解決が、あなたの地元の活性化に繋がる?!～スリランカで出会った新たな国際協力のカタチ～



- 倉坪 久美氏 「部活命！の女子高生と国際協力とその後。(ジンバブエ)」  
 後藤 千明氏 「国際協力×SDGs を広めるシゴト ～エジプトと出会い人生が変わった！～」  
 佐藤 邦子氏 「東ティモールのトイレプロジェクト」  
 世古 英弘氏 「トンガ×協力隊×防災 ～我が人生はここから始まった！？～」  
 玉置 美晴氏 「救急病院設立プロジェクトと看護 in カンボジア」  
 林 研吾氏 「あなたもできる！世界への挑戦 ～Oxford University・国連・スポーツ～」  
 山田 修士氏 「カリブ海の島国・ドミニカ共和国での見聞録 ～なぜドミニカ共和国へ行き、何をしてきたのか～」

生徒たちには事前に 10 講座を提示し、この中から自分が受講したいものを 3 つ選ばせ、2 年生の第 1 希望を優先しながら、振り分けを行った。概ね第 1 希望通りの受講であったが、一部の 1 年生には第 2、第 3 希望に回ってもらいました。

さて講義の方は、講師の先生方は実体験に基づく具体的な話を生徒たちに語りかけてくれ、スライドを使って説明し、時にグループディスカッションやグループワークの時間を設けて、生徒たちが飽きないように工夫をしながら講義を進めていただきました。

古藪氏のご尽力のおかげで、若く、熱量を持った講師の先生方を集めることができ、実際に海外で社会貢献活動に身を投じた方々の生きた言葉を聴くことで、生徒たちにとってグローバルな視点を持つことの重要性を知る良い機会になりました。また、自らが選択した講座を受講したことから、受け身の姿勢ではなく、より能動的に話を聴いたのではないかと思います。講演後も残って講師の先生方に今回のテーマについて質問をしている姿が見られました。特に印象的だったのは、どういう勉強をしたらいいか、またどういふ大学へ進学したらいいかアドバイスを求めている姿でした。



今回実施したアラカルト講座では、思った以上に生徒たちが興味・関心を持って話を聴いていた。コロナ禍の中、海外研修が中止となる中でも、生徒たちはグローバルな事柄に興味・関心を持ち続けていたことを嬉しく思うと共に、次年度以降も新型コロナウイルスの影響で海外研修は厳しい状況であることは予想されるので、いかにグローバルな視点を与え続けられるか工夫をする必要性を強く感じました。

来年度以降も、このアラカルト講座は継続して実施していきたいと思います。その際の課題としては、以下の3点があげられる。

- ①事前学習・事後学習
- ②受講希望の仕組み
- ③アイスブレイクの導入

①については、今年度はコロナ対応ということで、元々計画になかった企画だったので、来年度は年間行事の中に事前に組み込み、どのタイミングで、どんな内容で、何回実施するのかを考慮しながら、継続的な学びになるように検討していく。

②については一部とはいえ、1年生には第2、第3希望に回ってもらったので、できるだけ多くの生徒が、第1希望の講座を受講できるような仕組み作りが必要である。



③については、生徒に自由に選択させたのはいいが、初対面の生徒同士が集まってしまい、いざグループディスカッション、グループワークをしようとしても、暖まるまで時間を要したので、次回実施するときには、あらかじめ講座の冒頭でアイスブレイクの時間を設定し、講師の先生方と生徒たち、また生徒同士も暖まるように工夫をしたい。

令和2年度SGL地域協創学アラカルト講座 教室配置図 (講座開講時間 10:45~12:45)

4F

通常閉鎖 40	多目的2 40	多目的1 補習	女 トイ レ		通常閉鎖 定40 玉置美晴 先生 (38人)	通常閉鎖 定40 後藤千明 先生 (38人)	通常閉鎖 40	通常閉鎖 40	通常閉鎖 40

廊下

3F

旧書道室	1年1組 定37 山田修土 先生 (35人)	1年2組 定40 内海悠二 先生 (38人)	男 トイ レ		3年3組 補習	3年2組 補習	3年1組 補習	多目的4 補習	多目的3 補習

廊下

2F


多目的6 机椅子出し 入れ	1年3組 定40 荒木恵美子 先生 (38人)	1年4組 定27+10 佐藤邦子 先生 (35人)	女 トイ レ		2年4組 定23+15 倉坪久美 先生 (34人)	2年3組 定32 林 研吾 先生 (30人)	2年2組 定30 久富翔子 先生 (33人)	2年1組 定30 世古英弘 先生 (31人)	多目的5 机椅子出し 入れ

廊下

SGL室 講師控え室	音楽室
---------------	-----



多くの講師が来校されます！自分が受けたい講座を受けよう！

 アフガニスタン・ヨルダンでの支援活動

**内海 悠二 先生**  
名古屋大学准教授

 東ティモールでの支援活動

**佐藤 邦子 先生**  
元JICA中部NGO支援

 エジプト・スーダンでの支援活動

**後藤 千明 先生**  
JICA中部市民参加協力

 カンボジアでの支援活動

**玉置 美晴 先生**  
看護師・元NGO職員

 ジンバブエでの支援活動

**倉坪 久美 先生**  
元JICA中部開発教育

 ジャマイカでの支援活動

**荒木 美恵子 先生**  
JICA中部研修業務

 慶応大学 蜷江ゼミ出身 SDGs

**林 研吾 先生**  
JICA中部研修業務

 トンガでの支援活動

**世古 英弘 先生**  
JICA中部企業連携

 スリランカでの支援活動

**久富 翔子 先生**  
JICA中部企業連携

 ドミニカでの支援活動

**山田 修士 先生**  
名古屋大学農学国際教育研究センター

**目的**：海外でさまざまな支援活動を経験された講師をお招きし、地球規模又は世界各地の課題について深く考えることで、グローバルマインドを身につける。

**日時**：令和2年11月7日(土) 10:45～12:45 (予定)

**場所**：星城高等学校2号館2F・3F・4F各教室

**内容**：10講座の中から希望する講座を受講する。(事前調査実施)

**対象**：仰星・特進コースの1, 2年生

## 5. Act Global 探究【オンラインツアー】

本校では2年生全員を対象に11月にベトナムへの海外研修を、また1年生と2年生の希望者を対象に12月マレーシアへの海外研修を計画していた。しかし、新型コロナウイルスの影響で、12月のマレーシア海外研修は中止、ベトナム海外研修については場所を国内に変更して、3月に振替となった。そこで我々は、国内でもSDGsの学びができることはないかと考え、八重山諸島で、SDGs14「海の豊かさを守ろう」、SDGs15「陸の豊かさも守ろう」に着目し、環境問題に目を向けようとプログラムを構築して、準備を進めていた。ところが1月に入り、再び緊急事態宣言が発令されたことから、学校方針として、全ての修学旅行を中止という判断が下りました。

このことを受けて我々は、ベトナム海外研修、八重山諸島研修に代わる、「Act Global」な学びを生徒たちに提供できないかと急遽考え、「オンラインツアー」を企画することとなりました。元々はオンラインツアーといったヴァーチャルな体験でどこまでの事ができるのか懐疑的ではありましたが、来年度も海外研修については厳しい情勢が続き、実施できるかどうか極めて不透明な事を想定して、まずはやってみて、課題を見つけてみようという判断を下しました。目的地は新型コロナウイルスの感染状況が深刻ではなく、オンラインツアーが実施できる国を探しました。

そこで浮上したのがベトナムとカンボジアでした。ベトナムは当初の海外研修先ということもあり、まずはベトナムを決定としました。あとは予算との折り合いが付けばカンボジアもということで、旅行業者との話し合いの結果、我々が想定した予算内で、ベトナムもカンボジアも行けるということなので、ベトナムに加えてカンボジアでも実施することになりました。ただし、授業までの準備期間が全くといっていいほどなかったため、今回については観光をベースに、生徒たちにもまずは海外に触れてみることを最優先としたプログラムを作成しました。

まず2月6日（土）にベトナムで実施することにしました。各クラスを1グループあたり8から10名程度の3グループずつに分け、コロナ対策として、各グループ1つにつき1教室を割り当て、代表生徒のiPadを使ってログインし、各教室のプロジェクターに繋ぎ、ホワイトボードに投影してグループ単位で視聴する体制を整えました。そして3グループごとに現地ベトナム人ガイド1人を付け、できるだけコミュニケーションが取れるようにもしました。



オンラインツアーに先だって、事前学習としてワークシートを用意し、ベトナムについての基礎的な知識を iPad を使って調べ学習をしました。その後現地と繋いでオンラインツアーの開始となります。ベトナムでの内容はホーチミン市内の散策ということで、統一会堂からスタートし、大教会、中央郵便局、ベトナムの屋台、バイク移動を経てオペラハウス、地下鉄、グエンフエ通りという流れで、約 60 分間のツアーを行いました。事前の現地との打合せで、観光地だけを巡るのではなく、コロナ禍の中で、旧正月を迎えるベトナムの人々の息吹が感じられるような要素を入れて欲しいという要望を出し、マーケットの様子を写していただきました。当初、懐疑的であったオンラインツアーでしたが、ガイドの方々の案内も良く、生徒たちの海外体験の少ないこともあって、概ね好評でした。

次に 2 月 13 日（土）はカンボジアを企画しました。体制はベトナムと同じ 5 クラス 3 班構成で、現地ガイドは 6 人体制で実施しました。ベトナム同様、まずは事前学習としてカンボジアについての基礎的な知識を iPad を使って調べ学習をしました。その後現地と繋いでオンラインツアーの開始となります。カンボジアは現地支所が高校生を対象としたオンラインツアーをこれまでも経験していたこともあり、スタートの段階で丁寧なカンボジアに関するレクチャーがあり、その後現地ガイドによる案内となります。カンボジアでの内容は、2 つのプログラムを用意しました。一つは世界遺産であるアンコールワットの見学、もう一つは庶民の台所といえるオールドマーケットの見学です。この 2 つのプログラムを、60 分を 2 つのパートに分けて、ZOOM のブレイクアウトルームの機能を使って、前後半を入れ替えることで両方のプログラムを生徒たちに体験させました。アンコールワットは生徒たちも知っている世界遺産でオンラインとはいえ感動している様子でした。そしてオールドマーケットは現地の人たちが実際に利用しているマーケットということもあり、生徒たちは見たことのない食材が画面に登場する度に、驚きのリアクションを取っていました。2 週続けてのオンラインツアーでしたので、生徒も飽きているかなと思われましたが、これもまた生徒には好評でした。

今年度は準備期間がなく行ったため観光ベースの内容でありましたが、来年度は前もって計画を立てれば、グローバルな学びに結びつけられるツールであると確信しました。どこの国に、何回行くのか、またそのための事前学習や事後学習は何をすべきか、現地の方々のアドバイスをいただきながらプログラムを構築することで、現地に行くことには及びませんが、コロナ禍の中でも、生徒たちにグローバルな学びを提供することが可能だと思います。来年度は、海外研修の腹案として、生徒たちのグローバルな学びを効果的に刺激するタイミングを見計らって、事前に年間行事の中に入れ込んでいきたい。



## SGL地域協創学Ⅱ 海外オンラインツアー



**目的:** コロナ禍であっても、海外の多文化共生社会をオンラインで体感し、グローバルな視点で探究的な学びを深める一助とする

**期日:** 令和3年2月 6日(土) 10:30～ ベトナム(ホーチミン)  
13日(土) 10:30～ カンボジア(アンコールワット)

**対象:** 仰星コース2年1組・2組 特進コース2年1組・2組・3組

**班編制:** 各クラス3班編制(5クラス×3班=15班)

**場所:** 仰星コース 仰星棟2-1教室・2-2教室・2-3教室・3-13教室・理科室・家庭科室(合計6教室)

**特進コース** 2号館2-1教室・2-2教室・2-3教室・多目的室1・多目的室2・4405教室・4406教室・4407教室・4408教室・4409教室(合計9教室)



2号館4F

多目2 2-2 10班	多目1 2-2 11班	階 段	4405 2-2 12班	4406 2-3 13班	4407 2-3 14班	4408 2-3 15班
-------------------	-------------------	-----	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

2号館2F

1-1教室	1-2教室	階 段	2-4教室	2-3教室 2-1 7班	2-2教室 2-1 8班	2-1教室 2-1 9班
-------	-------	-----	-------	--------------------	--------------------	--------------------

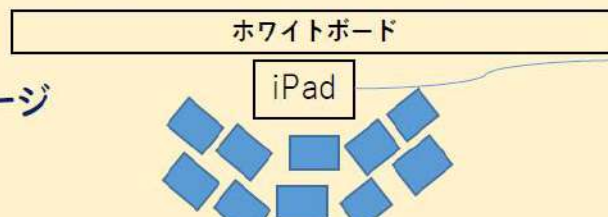
**持ち物:** 筆記用具・iPad(各班長・副班長はZoomアプリを事前インストール)

**接続テスト:** 2月4日(木) 15:50～ 各班長と副班長が参加(iPad持参)  
上記の各教室にて現地スタッフとの接続を確認する

**接続の方法:** 各班長又は副班長のiPadにZoomアプリをインストールし、Zoomミーティングで接続する  
iPadをHDMIケーブルでプロジェクターに接続し投影する



各教室の配置イメージ



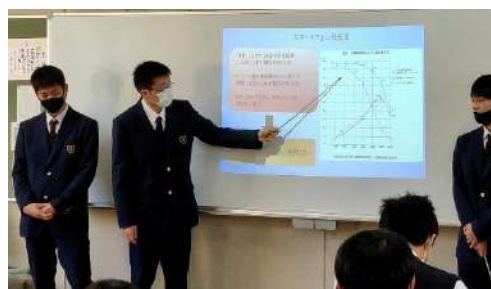
## 6. 探究成果の発表

探究成果の発表内容は、1年生が花溢れる街づくりプロジェクトでの経験を踏まえた「新たな地域協働活動の提言」、2年生は地域協創プロジェクトでの「啓発素材開発の実践報告」である。発表形式については、当初の予定では1年生がポスターセッション形式での発表、2年生がスライドを投影してのプレゼンテーション形式での発表を計画していた。しかし、コロナ禍において三密を避けるためには発表の形式を変更する必要があった。そこで1年生、2年生共に発表内容をGoogleスライドにまとめ、発表をiPadで画面収録した探究成果発表動画を作成することにした。

### 探究成果発表動画の作成方法

- 発表時間6分の発表骨子を班員全員で作成する
- ↓
- Googleドキュメントで発表原稿を班員で分担して作成する
- Googleスライドで発表スライド8枚を班員で分担して作成する
- ↓
- iPadにスライドを表示し、画面収録機能をオンにする
- 自分が担当する発表部分について発表スライドを用いて順次発表していく
- ↓
- 発表がすべて終わったら画面収録機能をオフにして画面収録を終了する
- ↓
- Google Classroomで探究成果発表動画ファイルを添付し提出する

発表時間を6分間に設定したのは、各探究班の班員が5～6名なので1人1分程度の発表を全班員に課すためである。また、発表スライドを8枚に指定したのは、いつでもポスター形式での印刷を可能にするためである。ポスターセッション形式での発表が可能な状態になれば、いつでも8枚のスライドを1枚のポスター紙に印刷してポスターセッションを実施できるように準備した。また、各クラスにおいてクラス内の全班が探究成果発表を行った。発表スライドをプロジェクターでホワイトボードに投影し、各発表後には質疑応答を実施し、お互い発表についての評価も行った。そしてその相互評価によって各クラスの優秀発表を選出した。2年生については日本語での探究成果発表を実施したのち、英語版探究成果発表にとりかかった。発表原稿だけでなく、発表スライドもすべて英語で作成した。次ページに各発表班の発表タイトル一覧を記した。





## 2年生の探究成果発表タイトル一覧

令和2年度SGL地域協創学Ⅱ 探究成果発表動画一覧	
【2年生】	
仰星2年1組A班	タイトル:異文化交流を目指して!!
仰星2年1組B班	タイトル:外国人市民と高齢者が輝く新たな架け橋プロジェクト
仰星2年1組C班	タイトル:外国人in豊明
仰星2年1組D班	タイトル:本で繋ぐもの
仰星2年1組E班	タイトル:LGBTを含む多文化理解プロジェクト
仰星2年2組A班	タイトル:高齢者を幸せにするために
仰星2年2組B班	タイトル:登りたいノ避けたいノでも、坂道たまんない!!!
仰星2年2組C班	タイトル:高齢者によるリモート交流
仰星2年2組D班	タイトル:坂道に負けない!～高齢者を強くする!～
仰星2年2組E班	タイトル:認知症なんて怖くない!脳トレによる認知症予防
特進2年1組1班	タイトル:コミュニケーションを取るために外に出よう!!
特進2年1組2班	タイトル:目指せ1000000歳👴👵
特進2年1組3班	タイトル:レインボーブリッジのように長く生きろ!～めざせ平均寿命150歳～
特進2年1組4班	タイトル:思考を止めるな!～豊明市俳句コンテスト～
特進2年1組5班	タイトル:孤独死を止めろ!～高齢者の青春AMORE～
特進2年1組6班	タイトル:一人暮らし高齢市民の豊明市での活動支援
特進2年2組1班	タイトル:バス停で迷った外国人を救え!～君は外国人 僕は時刻表～
特進2年2組2班	タイトル:誰でも使いやすい豊明市の病院案内
特進2年2組3班	タイトル:cứu trợ!!～危険を察知して安心を～
特進2年2組4班	タイトル:指で伝わる思いやり～やさしい日本語が命を救う～
特進2年2組5班	タイトル:言語の壁をぶち壊せ!!～日本語って難しいよね!～
特進2年2組6班	タイトル:カルタで学ぼう日本語教室～with日本語文化～
特進2年3組1班	タイトル:TOYOAKE FILM～のぶながくとよしもとくんの旅行記～
特進2年3組2班	タイトル:Toyoake Transport Map～みんなのための交通マップ～
特進2年3組3班	タイトル:豊明SANPO～豊かに明るく健康を!～
特進2年3組4班	タイトル:やっぱり豊明は花の街!～自信を持って言えるように～
特進2年3組5班	タイトル:高齢者の健康寿命を伸ばす
特進2年3組6班	タイトル:南蛮×伝統=多文化共生!?～アミーゴ!僕らは地球の未来だ!～

## 1年生の探究成果発表タイトル一覧

令和2年度SGL地域協創学Ⅰ 探究成果発表動画一覧	
<b>【1年生】</b>	
仰星1年1組A班	タイトル:豊明市への提言 ～公共交通機関～
仰星1年1組B班	タイトル:高齢者の住みよい街づくり ～交通事故を減らし安全な豊明市へ～
仰星1年1組C班	タイトル:コロナ禍での地域の多世代・多国籍交流の促進
仰星1年1組D班	タイトル:元気100倍 高齢者! ～健康な体を手に入れよう!～
仰星1年1組E班	タイトル:豊明市民が輝くために ～For the citizens to shine～
仰星1年1組F班	タイトル:豊明市の 高齢者 外国人の関わり ～住み続けられるまちづくりを～
仰星1年1組G班	タイトル:豊明市高齢者の生涯学習について
仰星1年2組A班	タイトル:高齢化が進む豊明市
仰星1年2組B班	タイトル:年齢・国籍に関わらず住みやすい街づくり
仰星1年2組C班	タイトル:シルバー世代が集い若者も楽しめる「場」の創出 ～『まちかどテラス』のご提案～
仰星1年2組D班	タイトル:豊明市への提言 ー現役世代の人口減少についてー
仰星1年2組E班	タイトル:豊明市を改善するためにできること
仰星1年2組F班	タイトル:環境にいい花を植えよう! ～花マルシェプロジェクト～
仰星1年2組G班	タイトル:市民の生活を豊かにするために
特進1年1組1班	タイトル:高齢者の孤立化 ～すべての人に健康と福祉を～
特進1年1組2班	タイトル:外国人コミュニティを広げるためには?
特進1年1組3班	タイトル:高齢者の人口上昇と若い世代の減少
特進1年1組4班	タイトル:高齢者との関わり
特進1年1組5班	タイトル:高齢者の運動不足解消について
特進1年1組6班	タイトル:災害時の被害を抑えるには?
特進1年1組7班	タイトル:文化の継承
特進1年2組1班	タイトル:外国人と共生する為に
特進1年2組2班	タイトル:外国人市民が地域の人々と交流するためには
特進1年2組3班	タイトル:外国人との溝をなくすために
特進1年2組4班	タイトル:外国人との交流の場 with コロナ
特進1年2組5班	タイトル:高齢者の方々と子供たちが繋がる方法
特進1年2組6班	タイトル:外国人が住みやすい町づくり
特進1年2組7班	タイトル:高齢者の方々とコミュニケーションを取るためには～池や川をきれいに～
特進1年3組1班	タイトル:観光客が少ない
特進1年3組2班	タイトル:豊明市のゴミの減量化や分別について
特進1年3組3班	タイトル:多文化共生 外国人市民にも日本語を!!
特進1年3組4班	タイトル:地産地消しか勝たん!!
特進1年3組5班	タイトル:Great CityをCreate!!
特進1年3組6班	タイトル:外国人・高齢者と仲良くなろうぜ
特進1年3組7班	タイトル:高校生と外国人の交流について

12月に行われる予定であった全国高校生フォーラムの中止によって、校内代表発表班の発表の機会を失ったが、本校が中心となり全国高等学校グローバル探究オンライン発表会が開催された。日本語発表部門では特進コース2年3組6班が、英語発表部門では仰星コース2年2組D班が学校代表として出場した。

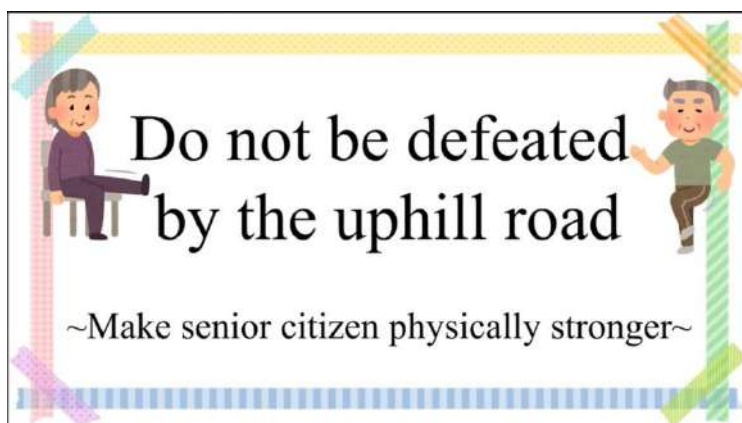
日本語発表部門出場班 特進コース2年3組6班

発表タイトル：南蛮×伝統＝多文化共生社会！？～アミーゴ！僕らは地球の未来だ！～



英語発表部門出場班 仰星コース2年2組D班

発表タイトル：Do not be defeated by the uphill read ~Make senior citizen physically stronger~



大会結果は、日本語発表部門の特進コース2年3組6班が金賞及び探究成果発表委員会特別賞を受賞し、英語発表部門の仰星コース2年2組D班は銅賞を受賞した。

3月21日に行われるWWL×SGH探究甲子園には、特進コース2年1組5班がプレゼンテーション部門にエントリーした。そして書類選考の結果、出場権を得た。今回の探究甲子園はオンラインで実施される。

プレゼンテーション部門

特進コース2年1組5班

発表タイトル：孤独死を止めろ！  
～高齢者の青春 AMORE～



## 7. 2021 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 Glocal High School Meetings 2021 の開催

コロナ禍において全国高校生フォーラムが中止となり、生徒による探究成果発表の場がなくなりました。このことを発端にコロナ禍であっても実施できる新たな探究成果発表の場を自分たちの手で作ることにした。今年度は全国のほとんどの高校が Zoom などのオンライン会議アプリを活用している状況で、Zoom を活用した新たなオンライン発表会にすればコロナ禍であっても全国から多くの学校が参加できるのではないかと考えた。

この企画案について文部科学省初等中等教育局の矢澤健様に相談し、文部科学省の大会共催についてご尽力いただいた。また九里学園高等学校の鈴木精先生、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校の勝間田秀紀先生、和歌山信愛中学校・高等学校の大村寛之先生に大会内容について相談し、大会委員として大会運営に協力していただくことになった。また、立教大学経営学部教授・グローバル教育センター長の松本茂先生には大会審査員長を快く引き受けていただいた。大会開催の目的は下記のように設定した。

文部科学省指定グローバル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、ふだん直接交流する機会が少ない全国の高校生が一堂に会して新たな気づきを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローバル探究の深化や意欲の向上を図る。

全国の文部科学省指定グローバル型地域協働推進校は研究開発指定校と事業特例校、アソシエイト校のすべてを合わせると 37 校になる。その中で 34 校が新たな大会に参加していただいた。今まで使ったことのないオンラインツールをどのように活用するか、またどのような機能があって、それをどのように活用すれば参加する生徒にとって実りある探究成果発表会になるかを考えることは、言わば私たち教員にとっての探究活動であった。

大会要項の作成や大会 HP の作成、大会運営委員会の開催、Zoom の接続テスト、大会運営、表彰状の作成、大会報告書の作成など、関係する業務はかなり多かったが、全国のグローバル型地域協働推進校の生徒が一堂に会してお互いの探究成果を発表し合い、学び合う機会をつくれたことは、価値ある学びの機会であった。本校生徒だけでなく、グローバル型地域協働推進校の同じ仲間と言える全国の高校生にとって有意義な学びの場をつくれたことは、本校のカリキュラム研究開発の基盤となっている「共生・協働・協創」というキーワードに合致するものである。

次ページ以降は 2021 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会 Glocal High School Meetings 2021 の大会報告書の内容である。

## 文 部 科 学 省

文部科学省初等中等教育局  
高等学校改革推進室長

安彦 広斉



### 「新たな価値」の想像と創造に向けて

2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会の開催について、共催者の文部科学省として、まずは、大会関係者の皆様のご尽力にお礼を申し上げます。ありがとうございました。そして、本発表会に参加した全ての学校の生徒及び教職員、そして各地域のコンソーシアムの関係者の皆さん、発表に向けた取組お疲れ様でした。

グローバル化は、我々の社会に多様性をもたらし、また、AIやロボティクスなど急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつあります。また、グローバル化が進展する社会における様々な国内外の課題は、世界的な規模で複雑につながっており、すなわち、それは日本のどの地域に住んでいたとしても他人事ではなく、自分事として捉える必要があるものということになります。

このように、社会的変化が、人間の予測を超えて進展する中で、子供たちの成長を支える教育の在り方も、新たな事態に直面していることは明らかです。このため、文部科学省においては、こうした未来の予測が困難な時代においても、生徒一人一人が、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、「新たな価値」を生み出していくために必要な力を身に付け、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要であると考え、新しい学習指導要領に基づき、よりよい高等学校教育の実現を目指しています。なお、ここで言う「新たな価値」とは、グローバルな規模でのイノベーションのような大規模なものに限られるものではありません。地域課題や身近な生活上の課題を自分なりに解決し、自他、自分やその周りの人々の人生や生活を豊かなものとしていくための様々な工夫なども含むものであり、今回のグローバル探究発表会においても、こうした「新たな価値」の想像と創造、Imagination and creation of "new value"につながるような発表が多数あったと感じました。

今後も、グローバルな視点を持って、様々な地域のローカルな社会課題を自分事として捉え、グローバルな探究的な学びを通じて、多様な他者・仲間と協働し、コミュニティを支える地域のリーダーとして活躍することを心より期待しています。



全国高等学校グローバル探究オンライン発表会  
大会委員長  
星城高等学校長

四方 元

大会委員長

「協働、共創の発表会」

「生徒に発表の場を提供したい」。本校担当者のこの思いだけで、本大会を開催しました。

昨年12月に開催予定であった全国高校生フォーラムが中止になりました。このフォーラムは、生徒にとっては探究の成果を発表する貴重な機会です。それが失われたため、オンラインでの発表会を実施したいと本校の担当者が申ししてきました。そこで、文部科学省のご担当に相談したところ、思いかけず、その発表会を共催しようとの回答をいただきました。また、これもまったく思いがけないことでしたが、局長賞を出しましょうと言っていただきました。これに勇気を得た本校の担当者が、全国のグローバル型の関係校様に参加を呼びかけたところ、34校もの高校がご参加くださり、「発表の場」をつくることができました。

私どもの慣れない運営にもかかわらず、貴重な時間を割いてご参加いただいた生徒の皆さん、そして先生方から感謝申し上げます。また、審査員長の松本茂先生には生徒発表への講評の他に事前講話「グローバル探究のすすめ」もいただき、誠にありがとうございました。安彦広斉室長様始め文部科学省の皆様には様々なご配慮をいただきました。心からお礼申し上げます。そして、大会をともに運営して下さった協力校の先生方にも深謝いたします。

本大会に参加していただいた皆様のご協力によって、未完成ながら「発表会の新しい形」をつくることができましたのではないかと考えています。この発表会をきっかけに全国の皆様がつながり、生徒の探究が一層充実することを願うばかりです。「生徒に発表の場を提供したい」との一滴の水が一筋の流れになりました。この流れが滔々たる大河になる目を夢見ております。

## 大会審査員長

立教大学経営学部教授  
グローバル教育センター長

松本 茂



世界に発信しよう、グローバル人！

「2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会（Glocal High School Meetings 2021）」のご成功、おめでとうございます！

コロナ禍というむづかしい状況において名古屋石田学園星城高等学校様がリーダーシップを発揮して開催してくださったおかげで、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」（グローバル型）の指定校・事業特例校・アソシエイト校の生徒さんにとって、素晴らしい学びの場となりました。四方校長のご采配に心より感謝申し上げます。また、城戸先生をはじめ同校の教職員の皆様、協力校の委員の皆様をはじめ、運営に携わってくださったすべての方々のご尽力に御礼申し上げます。

「地域のことを学び、地域の方々と連携・協働する」ことは近年の中学・高校における教育の弱点でした。しかし、今回の発表を聞いて、高校生たちが自分たちの地域のことをしっかり調べ、しかも課題を探しだし、地域の方々と協働して課題を改善しようと実際にアクションを起こし、さらには効果検証まで行っていたことに驚きましたし、とても元気づけられました。まさしく、主体的に調べ、考え、学び、意見や情報を言語化して発表し、質問に堂々と答えているといった「深い学び」になったと確信しました。

もしかしら、地域の課題を探究することと学校における教科の学びはまるで関係ないと思われる先生や生徒さんがいらっしゃるかもしれません。しかし、実際にはそうではなく、地域の課題を探究することで自分にはどのような知識が必要なのかが分かります。また、授業・教科書を介しての学びが進めば地域の課題に取り組む際に、より深く探究できるようになり、質の高い改善策を思いつきやすくなることを実感できるはずです。

そしてこれからは、これまで以上に地域の方々と連携し、みなさんの地域の良さや課題の現状を日本の「中央」に向けてだけでなく、世界に向けて発信して、世界とつながってください。そのためにもすべての教科に真剣に取り組むとともに、英語の授業ではコミュニケーション能力を大いに磨いてください。Keep up the good work!



全国高等学校グローバル探究オンライン発表会  
大会委員

星城高等学校 城戸 孝之

## 大会委員

「生徒たちに探究成果発表の場を！」、これを合言葉に新たな発表会を立ち上げることになりました。コロナ禍で地域活動や海外研修、発表会などが取りやめになる中、生徒たちは自分たちができることを模索し、探究活動に取り組んできました。その成果を発信できる機会がどうかしてつれないものか、そして全国の高校生がお互いの探究活動から学び合う機会をつくりたいという思いが原動力となりました。文部科学省の皆様をはじめ、審査員長の松本先生や大会委員の先生方とこの思いを共有することができ、企画・運営に大きなお力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。オンラインでの開催やブレイクアウトルームの活用は、言わば私たち教員にとっての探究活動でした。これからも新たな時代を切り開くグローバル探究に開発校のみなさんと協働で取り組んでいきたいと思っております。



大会委員  
九里学園高等学校  
鈴木 精



大会委員  
昭和女子大学附属昭和高等学校  
勝間田 秀紀



大会委員  
和歌山信愛中学校高等学校  
大村 寛之



大会委員  
星城高等学校  
弓場 将司

# 大会要項

## Glocal High School Meetings 2021

【2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会】

- 目的：** 文部科学省指定グローバル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、ふだん直接交流する機会が少ない全国の高校生が一堂に会して新たな気付きを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローバル探究の深化や意欲の向上を図る。
- 主催：** 文部科学省指定グローバル型地域協働推進校探究成果発表委員会
- 共催：** 文部科学省
- 幹事校：** 名古屋石田学園星城中学校・高等学校
- 協力校：** 九里学園高等学校、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、和歌山信愛中学校・高等学校
- 参加校：** 地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型の研究開発指定校・事業特例校・アソシエイト校で参加を希望する学校（対象37校、参加自由）
- エントリー：** (1) 各校は日本語発表部門と英語発表部門について、それぞれ1チームをエントリーできる。  
(片方だけのエントリーも可)  
(2) 1チームの人数は6名以内とする。
- 表彰：** (1) 日本語発表部門 金賞・銀賞・銅賞  
(2) 英語発表部門 金賞・銀賞・銅賞  
(3) 審査結果は大会ホームページ上で公表し、表彰状は各校へ郵送する。
- 審査：** 審査員長 松本 茂教授（立教大学経営学部教授・グローバル教育センター長）  
審査員 文部科学省及び参加校教職員（各校2名）  
審査方法 審査員及び参加生徒による投票
- 大会HP：** 大会ホームページ <https://www.seijoh.ed.jp/glocalhsm/>  
発表動画の視聴や投票などのページはIDとパスワードの入力が必要となる。  
IDとパスワードは各校の参加生徒及び管理機関、地域協働コンソーシアム関係者と共有できる。
- 参加申込：** (1) 学校エントリー 令和2年10月1日（木）～10月10日（土）  
大会ホームページからエントリーする。  
(2) 出場生徒エントリー 令和2年11月16日（月）～11月30日（月）  
大会ホームページからエントリーする。その際、以下の内容が必要となる。  
① 出場生徒全員の氏名（漢字とローマ字の両方）  
② 発表タイトル（文字数の指定なし）  
③ 発表概要（日本語部門は400字以内、英語部門は800words以内）  
④ 各部門の出場生徒集合写真（横置き）のJPEG画像データ  
⑤ 発表動画公開に関わる肖像権及び個人情報使用承諾書のPDFデータ  
(大会ホームページから印刷して署名及び捺印後にスキャンし、PDFデータで提出する。  
生徒一人につき1枚を作成し、原本は各校にて保管する。)  
\*①～④は大会ホームページ上で限定公開します。

**参加費：** 無料

日程と内容： (1) 発表動画提出 令和2年12月21日(月)～令和3年1月8日(金)

- ① 動画ファイルはMP4のHD1280×720以上のもので、FHD1920×1080が望ましい。
- ② 発表動画はZoomを使用して撮影する。発表資料はパワーポイント等でスライド資料を作成する。Zoomミーティングを開催してスライドを画面共有する。参加生徒人数分の端末がある場合は全員がミーティングに参加し生徒の顔が見える状態で、端末が1台の場合は発表する生徒が順番に入れ替わりレコーディングする。発表時間は10分以内。  
\* サンプル発表動画を大会ホームページ上に掲載します。発表を録画する際の参考にしてください。

(2) 動画視聴・投票 令和3年1月12日(火)～1月19日(火)

- ① 大会ホームページから全参加校の発表動画視聴と投票ができる。
- ② 視聴した発表に対してYouTubeコメント欄に、感想や質問などのコメントを投稿する。また、自分たちの発表動画に寄せられた質問などに対する回答コメントも投稿する。
- ③ 投票は大会ホームページ上から、各校の担当教員2名と参加生徒全員が投票できる。
- ④ 管理機関及び地域協働コンソーシアム関係者は参加校から案内されたIDとパスワードで発表動画を視聴できる。
- ⑤ 参加校多数の場合はA～Dの4グループに分け、各グループ内で発表動画視聴・審査・投票をする。(発表動画は全参加校のものを視聴できる。)

(3) 審査結果発表・自校取組紹介用スライド提出 令和3年1月25日(月)

- ① 審査結果は大会ホームページ上で発表する。
- ② 各部門の代表校は1月30日(土)にオンライン発表を行う。
- ③ 審査員長の松本茂教授(立教大学グローバル教育センター長)による講話動画を掲載する。  
\* 今後の活動に向けた学びの機会として活用してください。
- ④ 1月30日(土)のオンライン発表会で用いる自校取組紹介スライド1枚を提出する。大会ホームページから指定ファイルをダウンロードし、パワーポイントでスライドを作成する。(オンライン発表会当日の発表時間は各校1分以内。)

(4) オンライン発表会 令和3年1月30日(土)

Zoomを使用してオンライン発表会を実施

- 10:00 大会委員長開会挨拶
- 10:05 文部科学省挨拶
- 10:10 自校取組紹介〔ブレイクアウトセッション①〕
- 10:25 日本語発表部門金賞校発表〔ブレイクアウトセッション②〕
- 10:50 英語発表部門金賞校発表〔ブレイクアウトセッション③〕
- 11:15 文部科学省初等中等教育局長賞発表〔日本語発表部門・英語発表部門〕
- 11:40 審査員長総評
- 11:50 大会委員長閉会挨拶

問合せ先： 名古屋石田学園星城高等学校 SGL開発部主任 城戸 孝之 E-mail: kido.takayuki@seijoh.jp  
〒470-1161 愛知県豊明市栄町新左山20 Tel: 0562-97-3111 (代)

大会委員： 大会委員長 星城高等学校長 四方 元  
大会委員 九里学園高等学校 鈴木 精 昭和女子大学附属昭和高等学校 勝間田秀紀  
和歌山信愛高等学校 大村寛之 星城高等学校 城戸孝之、弓場将司

その他： (1) 大会要項、大会結果などは大会ホームページ上に掲載する。  
(2) 参加校はオンライン発表会当日までにZoom接続テストを実施する。  
(3) 大会ホームページ上に参加校情報として、各校の研究開発構想名・海外研修実施国名・学校HPリンク等の一覧を掲載する。



## 大会参加校一覧 (No.1～9)

No.1	東ブロック	北海道	北海道登別明日中等教育学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア・タイ他		学校HP： <a href="http://www.akebi.hokkaido-c.ed.jp">http://www.akebi.hokkaido-c.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：AKB Future Project 2nd Stage ～北海道と世界の明日を創る				英語発表：○	
No.2	東ブロック	山形県	九里学園高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：米国、フィリピン他		学校HP： <a href="https://kunori-h.ed.jp">https://kunori-h.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：世界に誇れる持続可能な置賜を創造する人材の育成				英語発表：○	
No.3	東ブロック	山形県	山形県立山形東高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：シンガポール他		学校HP： <a href="http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp">http://www.yamagatahigashi-h.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：ふるさとやまがたの課題に立ち向かうグローバルリーダーの育成				英語発表：○	
No.4	東ブロック	福島県	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	研究開発指定校	2年度指定
海外研修先：ドイツ、アメリカ他		学校HP： <a href="https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp">https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバルリーダー育成				英語発表：○	
No.5	東ブロック	千葉県	千葉市立稲毛高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：アメリカ、カナダ他		学校HP： <a href="http://www.inage-h.ed.jp">http://www.inage-h.ed.jp</a>		日本語発表：—	
研究開発構想名：2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成				英語発表：○	
No.6	東ブロック	東京都	昭和女子大学附属昭和高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：フィンランド・カンボジア他		学校HP： <a href="https://jhs.swu.ac.jp">https://jhs.swu.ac.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：都市型社会課題への発信力を育成するクロスサービスラーニングプログラム				英語発表：○	
No.7	中ブロック	新潟県	新潟市立高志中等教育学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：シンガポール他		学校HP： <a href="http://www.kohshichuto.city-niigata.ed.jp">http://www.kohshichuto.city-niigata.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：SDGs・にいがた未来ビジョンの実現を通して、よりよい未来、世界の变革を志す生徒を育てる				英語発表：—	
No.8	中ブロック	福井県	福井県立丸岡高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：台湾 タイ他		学校HP： <a href="http://maruoka-h.sakura.ne.jp">http://maruoka-h.sakura.ne.jp</a>		日本語発表：—	
研究開発構想名：持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成				英語発表：○	
No.9	中ブロック	福井県	福井県立武生東高等学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：シンガポール、アメリカ他		学校HP： <a href="https://www.takefuhigashi-h.jp">https://www.takefuhigashi-h.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：主体的に、地域活性化に向けてグローバルな視点で考え抜き行動する人材の育成 ～多文化共生によるわか町えちぜん発展を目指して～				英語発表：○	

## 大会参加校一覧 (No.10~18)

No.10	中ブロック	山梨県	山梨県立甲府第一高等学校	研究開発指定校	2年度指定
海外研修先：フィリピンセブ島他		学校HP： <a href="http://www.first.kai.ed.jp">http://www.first.kai.ed.jp</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成 DOOR-扉を開いて-			英語発表：○
No.11	中ブロック	長野県	長野県長野高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：アメリカ、台湾他		学校HP： <a href="https://www.nagano-c.ed.jp/naganohs">https://www.nagano-c.ed.jp/naganohs</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		SDGs 未来都市を創造するグローバルファシリテーターの育成			英語発表：○
No.12	中ブロック	岐阜県	岐阜県立斐太高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先：アメリカ他		学校HP： <a href="https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/hida-hs">https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/hida-hs</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		斐高生が結ぶ地域と世界！～地域で考え世界とつながる、地域振興プロジェクト！～			英語発表：○
No.13	中ブロック	静岡県	静岡県立榛原高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：台湾、シンガポール他		学校HP： <a href="http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf">http://www.edu.pref.shizuoka.jp/haibara-h/home.nsf</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		HAF プロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～			英語発表：○
No.14	中ブロック	愛知県	星城中学校・高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：ベトナム、マレーシア他		学校HP： <a href="https://www.seijoh.ed.jp">https://www.seijoh.ed.jp</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト ～新たなコミュニティを協創できるスーパーグローバル・リーダーの育成～			英語発表：○
No.15	中ブロック	愛知県	名古屋国際中学校・高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：アメリカ・シンガポール他		学校HP： <a href="https://www.nihs.ed.jp">https://www.nihs.ed.jp</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		持続可能なランドスケープの設計 ～天白川水系から世界を俯瞰する～			英語発表：○
No.16	中ブロック	愛知県	愛知県立惟信高等学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： <a href="https://ishin-h.aichi-c.ed.jp">https://ishin-h.aichi-c.ed.jp</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		H I I R A G I グローカル人材育成プロジェクト			英語発表：—
No.17	中ブロック	三重県	三重県立宇治山田商業高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： <a href="http://www.mie-c.ed.jp/cujiya">http://www.mie-c.ed.jp/cujiya</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		観光都市 with SDGs ～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～			英語発表：○
No.18	西ブロック	大阪府	大阪府立豊中高等学校能勢分校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：ドイツ、マレーシア他		学校HP： <a href="https://nose-br.toyonaka-hs.ed.jp">https://nose-br.toyonaka-hs.ed.jp</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		能勢町版シュタットベルケとの協働実践の研究 《人口減少全国ワースト24位の町と分校の雇用創造への挑戦》			英語発表：○

## 大会参加校一覧 (No.19~27)

No.19	西ブロック	大阪府	プール学院高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先：カナダ、英国、タイ他		学校HP： <a href="https://www.poole.ed.jp">https://www.poole.ed.jp</a>		日本語発表：－	
研究開発構想名：		大阪市生野区から発信する多文化共生社会の実現を目指す実践的カリキュラム		英語発表：○	
No.20	西ブロック	兵庫県	兵庫県立柏原高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：台湾、米乳、カンボジア他		学校HP： <a href="https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/kaibara-hs">https://www2.hyogo-c.ed.jp/weblog2/kaibara-hs</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		TAMBA Mirai Project 丹波から TAMBA へ ～グローバルな視点で丹波の地域課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～		英語発表：○	
No.21	西ブロック	兵庫県	兵庫県立兵庫高等学校	研究開発指定校	2年度指定
海外研修先：ベトナム、イギリス他		学校HP： <a href="https://www.hyogo-c.ed.jp/~hyogo-hs">https://www.hyogo-c.ed.jp/~hyogo-hs</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		“次世代が選ぶまち”KOBE の実現～地域社会の未来を担い、世界へはばたく実践者の育成～		英語発表：○	
No.22	西ブロック	奈良県	育英西中学校・高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：シンガポール他		学校HP： <a href="https://www.ikuei.ed.jp/ikunishi">https://www.ikuei.ed.jp/ikunishi</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		「他者を巻き込む行動」により地域に貢献する「自立女子」の育成		英語発表：○	
No.23	西ブロック	奈良県	奈良県立畷傍高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： <a href="http://www.e-net.nara.jp/hs/unebi">http://www.e-net.nara.jp/hs/unebi</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		奈良発！未来を創造するグローバル・リーダー育成プログラム		英語発表：○	
No.24	西ブロック	和歌山県	和歌山信愛中学校高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：カンボジア他		学校HP： <a href="https://www.shin-ai.ac.jp">https://www.shin-ai.ac.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		和歌山発！地域の未来を拓く鍵となる「Key Girl」育成プログラム		英語発表：○	
No.25	西ブロック	岡山県	岡山県立岡山城東高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：マレーシア、カナダ他		学校HP： <a href="http://www.joto.okayama-c.ed.jp">http://www.joto.okayama-c.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		「ステージは『世界』だ！」～岡山発グローバルリーダーの育成～		英語発表：○	
No.26	西ブロック	岡山県	岡山学芸館高等学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：フィンランド、カンボジア他		学校HP： <a href="http://www.gakugeikan.ed.jp">http://www.gakugeikan.ed.jp</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		これからの地域社会を創造するグローバルリーダーシップの育成～社会課題の解決に正面から立ち向かうユース層の育成を目指して～		英語発表：○	
No.27	西ブロック	岡山県	金光学園中学・高等学校	アソシエイト校	元年度指定
海外研修先：イギリス・オーストラリア他		学校HP： <a href="http://www.konkougakuen.net/high">http://www.konkougakuen.net/high</a>		日本語発表：○	
研究開発構想名：		真に世のお役に立つ「グローバル」人材の育成を目指す教育の実践開発		英語発表：○	



## 大会参加校一覧 (No.28~34)

No.28	四国/九州ブロック	香川県	香川県立高松北高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：カナダ、シンガポール他		学校HP： <a href="https://www.kagawa-edu.jp/kitah02">https://www.kagawa-edu.jp/kitah02</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		グローバル化に対応した地域デザインを創造する地域創生リーダーの育成			英語発表：—
No.29	四国/九州ブロック	愛媛県	愛媛県立松山東高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア・中国他		学校HP： <a href="https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp">https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp</a>			日本語発表：—
研究開発構想名：		東高がんばっていきましょいーグローバルからグローバルへの挑戦ー			英語発表：○
No.30	四国/九州ブロック	愛媛県	愛媛県立宇和島南中等教育学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：シンガポール・台湾他		学校HP： <a href="https://uwajimaminami-h.esnet.ed.jp">https://uwajimaminami-h.esnet.ed.jp</a>			日本語発表：—
研究開発構想名：		夢・挑戦・感動つむぐ宇和島南グローバル・イノベーション ～宇和島の海・やま・まちを世界の中で考え、仲間とともに創る～			英語発表：○
No.31	四国/九州ブロック	高知県	高知県立高知西高等学校	事業特例校	2年度指定
海外研修先：オーストラリア、イギリス他		学校HP： <a href="http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/mt">http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/mt</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		高知の“産業・文化”を活用したワールド・コミュニティー・プロジェクト ～高知と海外との連携による双方の地域創生ができるグローバルリーダーの育成～			英語発表：—
No.32	四国/九州ブロック	高知県	高知県立室戸高等学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： <a href="https://www.kochinet.ed.jp/muroto-h">https://www.kochinet.ed.jp/muroto-h</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		目指せ！持続可能な社会の担い手を育む教育の実践			英語発表：○
No.33	四国/九州ブロック	熊本県	熊本県立人吉高等学校	アソシエイト校	2年度指定
海外研修先：オーストラリア他		学校HP： <a href="https://sh.higo.ed.jp/hitoyoshi-z">https://sh.higo.ed.jp/hitoyoshi-z</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		「豊かな隠れ里と世界を結ぶ、資質能力を備えたリーダー育成プログラム」 相良700年×(読解力+論理的思考力+グローバルな視点+情報活用能力)=グローバルリーダー			英語発表：○
No.34	四国/九州ブロック	宮崎県	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	研究開発指定校	元年度指定
海外研修先：フィリピン・イフガオ地域他		学校HP： <a href="http://gokase-h.com">http://gokase-h.com</a>			日本語発表：○
研究開発構想名：		学校を核とした「共学共創コミュニティ(GIAHS Co-Learning Community)」の形成			英語発表：○



- ・オンライン発表会参加校数 34校
- ・日本語発表部門参加校数 29校
- ・英語発表部門参加校数 30校



## 日本語発表部門【Aグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



JA1	東ブロック	山形県	私立	九里学園高等学校	 
発表生徒:	我妻 里莉	黒田 梨々花	小山 優美		
発表生徒:	村山 幸恵	遠藤 みなみ			
タイトル:	ゲンキナの商品開発				



JA2	東ブロック	福島県	公立	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	 
発表生徒:	金成 美怜				
タイトル:	富岡さくら復興プロジェクト ～届け! さくらタピオカ～				

JA3	中ブロック	新潟県	公立	新潟市立高志中等教育学校	 
発表生徒:	佐藤 心優	風間 愛菜	古野間 天音		
発表生徒:	清田 日向子	高橋 知里	平原 風花		
タイトル:	鳥屋野潟から始まる 私たちのSDGs活動				



JA4	中ブロック	愛知県	私立	名古屋国際中学校・高等学校	 
発表生徒:	小島 雪花	福地 美月	渡辺 結愛		
発表生徒:	大島 梨紗子	石川 愛子	伊藤 衣音		
タイトル:	2枚の写真から見るグローバル探究				



JA5	西ブロック	大阪府	公立	大阪府立豊中高等学校能勢分校	 
発表生徒:	泉 明日美	井上 朱音	三谷 真矢		
タイトル:	能勢町の子どもたちの遊びを広げる提案				



JA6	四国/九州ブロック	香川県	公立	香川県立高松北高等学校	 
発表生徒:	吉川 基稀	土谷 凛			
発表生徒:	宮脇 孝輔	富重 嵩登			
タイトル:	Reborn Aji Stones Project				



JA7	四国/九州ブロック	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	 
発表生徒:	川島 一華	森田 玲朱			
タイトル:	GIAHS 子どもサミット ～子どもたちと考える GIAHS の未来～				



## 日本語発表部門【Bグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



JB1	東ブロック	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校	 
発表生徒:	中村 真央 寺田 心 竹内 心亜				
タイトル:	世田谷モデルから学んだコロナ禍での生活				



JB2	中ブロック	山梨県	公立	山梨県立甲府第一高等学校	 
発表生徒:	樋川 翔大 増田 尚太 鶴田 敦也 佐藤 優里亜 西村 俊星				
タイトル:	小水力発電				

JB3	中ブロック	長野県	公立	長野県長野高等学校	 
発表生徒:	町田 莞大				
タイトル:	長野にベストな案内サインは？				



JB4	中ブロック	岐阜県	公立	岐阜県立斐太高等学校	 
発表生徒:	大野 誉史 大坪 真心				
タイトル:	地域医療の新たな可能性を探る				

JB5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立兵庫高等学校	 
発表生徒:	豊田 亜由香				
タイトル:	女性議員を5割に増やすための政策提言 ～神戸市議員へのアンケート調査をもとに～				



JB6	西ブロック	岡山県	私立	金光学園中学・高等学校	 
発表生徒:	渡邊 文奈 岡邊 こむぎ 中藤 浩文 三澤 葵				
タイトル:	くらしにプラス くらしきガラス				



JB7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立高知西高等学校	 
発表生徒:	片岡 陽音 矢野 里沙 三木 花梨				
タイトル:	日本のトイレの良さを世界に広めよう				



## 日本語発表部門【Cグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



JC1	西ブロック	和歌山県	私立	和歌山信愛中学校高等学校	 
発表生徒:	藪野 沙枝子	榎田 真央	沖田 奈優		
発表生徒:	知念 耀	田中 結衣			
タイトル:	W&C=B				



JC2	東ブロック	山形県	公立	山形県立山形東高等学校	 
発表生徒:	寒河江 茜里	高橋 晴仁			
発表生徒:	石原 愛来未	緒方 佑太朗			
タイトル:	もう生ゴミは捨てない				

JC3	中ブロック	福井県	公立	福井県立武生東高等学校	 
発表生徒:	納村 優香	酒井 瑞歩			
発表生徒:	吉村 真依	河野 さちえ			
タイトル:	広がれ!笑顔の輪プロジェクト!!				

JC4	中ブロック	愛知県	公立	愛知県立惟信高等学校	 
発表生徒:	海田 優未	長谷川 真優			
発表生徒:	小笠原 孝樹	芹生 憲伸			
タイトル:	地域に届け!希望の光!				

JC5	西ブロック	奈良県	私立	育英西中学校・高等学校	 
発表生徒:	岡本 依央理	中村 心			
発表生徒:	能登 若菜	森本 真心			
タイトル:	奈良県と滋賀県を対比してみて ~女性の無業者に対する行政の取り組みとは~				

JC6	西ブロック	岡山県	公立	岡山県立岡山城東高等学校	 
発表生徒:	綾部 愛華	大津寄 優衣	金田 優里		
発表生徒:	佐藤 真亜子	田中 菜々海			
タイトル:	どれが最強の柱かしら				

JC7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立室戸高等学校	 
発表生徒:	橋本 くるみ	北村 鷹胡			
タイトル:	室戸市の防災と減災のために、私たちができること				



## 日本語発表部門【Dグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



JD1	中ブロック	愛知県	私立	星城中学校・高等学校		
発表生徒:	伊藤 涼祐 河合 忠 鳥原 崇汰 齋東 遥香 佐藤 楓 中山 美沙					
タイトル:	南蛮×伝統=多文化共生!? ～アミーゴ! 僕らは地球の未来だ!!～					
JD2	東ブロック	北海道	公立	北海道登別明日中等教育学校		
発表生徒:	今野 優菜 小淵 美海					
タイトル:	海に飛んでけ Our Hair ～世界の海を Clean に～					
JD3	中ブロック	静岡県	公立	静岡県立榛原高等学校		
発表生徒:	中嶋 祐貴 増田 大夢 中山 将吾 中田 守香 鈴木 春香 村松 日向					
タイトル:	安全な水を～世界遺産を守ろう～					
JD4	中ブロック	三重県	公立	三重県立宇治山田商業高等学校		
発表生徒:	谷 今日佳 村田 きらり 堂東 直矢 福田 遥空 幸田 凜花 柴山 ひなた					
タイトル:	観光業やグリーンツーリズムが盛んな地域から学ぶ 伊勢志摩の地方創生					
JD5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立柏原高等学校		
発表生徒:	木村 陸生					
タイトル:	結核に対する社会の差別意識の解消の要因から新型 コロナウイルス差別解消の観点を考察する					
JD6	西ブロック	奈良県	公立	奈良県立畝傍高等学校		
発表生徒:	片岡 千遥 山下 泰平					
タイトル:	高校生女子800メートル選手に向いているシューズとは?					
JD7	西ブロック	岡山県	私立	岡山学芸館高等学校		
発表生徒:	常藤 亜子					
タイトル:	技能実習生の認識の実態について					
JD8	四国/九州ブロック	熊本県	公立	熊本県立人吉高等学校		
発表生徒:	上藤 玲太 早田 隆之介 東 瑞貴 宮原 高亮 鳥越 かれん 西 萌花					
タイトル:	MPPS から創る地域のかたち ～M (マルチ) P (パーパス) P (パブリック) S (スクエア)～					





## 英語発表部門【Aグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



EA1	東ブロック	山形県	私立	九里学園高等学校	 
発表生徒:	石川 舞桜 長谷川 玲	加藤 綾乃 樋口 楓	齋藤 千紘		
タイトル:	Multicultural Symbiosis Society				

EA2	東ブロック	北海道	公立	北海道登別明日中等教育学校	 
発表生徒:	佐々木 あかり	山谷 翠			
タイトル:	Give a boost to Jomon in Hokkaido				

EA3	中ブロック	山梨県	公立	山梨県立甲府第一高等学校	 
発表生徒:	村松 来海 大柴 宗悦	佐野 美月 清水 瑞人	飯野 未悠 土屋 秀		
タイトル:	Know Visit Pass Shosenkyo "Re" propagandize Yamanashi's nature-				

EA4	中ブロック	静岡県	公立	静岡県立榛原高等学校	 
発表生徒:	大石 花 木下 珠希	若林 莉央 池ヶ谷 姫七			
タイトル:	Attractive Town Development				

EA5	西ブロック	大阪府	私立	ブール学院高等学校	 
発表生徒:	清水 孝枝 古川 実佳	谷口 美実 松本 奏子	西野 日菜 米田 有花		
タイトル:	Multicultural action from Ikuno Ward to the world				

EA6	西ブロック	岡山県	公立	岡山県立岡山城東高等学校	 
発表生徒:	田中 まい 野中 陽菜	谷本 七海 丸尾 保乃華			
タイトル:	Non-Slaughtered Meat				



EA7	四国/九州ブロック	愛媛県	公立	愛媛県立宇和島南中等教育学校	 
発表生徒:	善家 綾音				
タイトル:	Virtual Tours for the Sustainable Local Tourism				



## 英語発表部門【Bグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



EB1	東ブロック	東京都	私立	昭和女子大学附属昭和高等学校		
発表生徒:	小寺 萌奈 野口 聖菜 渡邊 英美里 笠原 万桂子					
タイトル:	A Path to a Brighter Future					
EB2	中ブロック	長野県	公立	長野県長野高等学校		
発表生徒:	竹節 世音花 古川 航					
タイトル:	Interview with Palestine					
EB3	中ブロック	福井県	公立	福井県立丸岡高等学校		
発表生徒:	角 明純 白川 悠大 上中 康彰					
タイトル:	Our Dream For an Inclusive Town					
EB4	中ブロック	三重県	公立	三重県立宇治山田商業高等学校		
発表生徒:	竹田 裕喜 大門 絵美 中原 沙奈					
タイトル:	Awareness of SDGs in Everyday lives ～Activities from Pioneering Countries and Areas～					
EB5	西ブロック	大阪府	公立	大阪府立豊中高等学校能勢分校		
発表生徒:	滝口 るな 谷 安祐美 中岡 陸喜 東 梨佳 牧志 アンナ					
タイトル:	Report of Nose Community Revitalization					
EB6	西ブロック	奈良県	私立	育英西中学校・高等学校		
発表生徒:	小川 亜望 中家 来瑠美 宮木 舞 山根 千佳					
タイトル:	For the future of our education					
EB7	四国/九州ブロック	高知県	公立	高知県立室戸高等学校		
発表生徒:	川口 結愛 川島 七海 田中 怜奈 満洲 実槻 安岡 真人					
タイトル:	Our Proposal for the Regional Development of Muroto City					
EB8	四国/九州ブロック	熊本県	公立	熊本県立人吉高等学校		
発表生徒:	山本 世風 大岩 航 永椎 宗太					
タイトル:	球磨村広報特派員活動記録 ～人吉・球磨豪雨を体験して～					

## 英語発表部門【Cグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)



EC1	西ブロック	和歌山県	私立	和歌山信愛中学校高等学校	 
発表生徒:	宇野 実優				
タイトル:	Sustainable Fashion is NOT a Trend!				

EC2	東ブロック	福島県	公立	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	 
発表生徒:	有賀 真尋 吉田 智美				
タイトル:	One step toward sustainable communities starting from a picture book				

EC3	中ブロック	岐阜県	公立	岐阜県立斐太高等学校	 
発表生徒:	遠藤 朱純 藤守 言				
タイトル:	To make Takayama more comfortable to live in with foreign people				

EC4	中ブロック	愛知県	私立	名古屋国際中学校・高等学校	 
発表生徒:	森 さくら 渡辺 萌華 木村 グレース 茉莉花 南 優音 小野 アン・カンドル サムバワナ				
タイトル:	Water Festival and True Happiness				

EC5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立柏原高等学校	 
発表生徒:	増田 莉子				
タイトル:	Class Innovation Using Standing Desk				

EC6	西ブロック	岡山県	私立	岡山学芸館高等学校	 
発表生徒:	小森 百華 大賀 さくら				
タイトル:	Qualitative research on correlation of taking paternity leave and lightening of the burden imposed on women. ~What high School Students can do on promoting men's participation in real child caring~				

EC7	四国/九州ブロック	愛媛県	公立	愛媛県立松山東高等学校	 
発表生徒:	森田 菜々美 木下 輝来 加 彩花 大塚 那保				
タイトル:	Are Eco-friendly Gym Clothes Really Eco-friendly?				

## 英語発表部門【Dグループ】(QRコードから発表動画を視聴できます)

ED1	中ブロック	愛知県	私立	星城中学校・高等学校		
発表生徒:	伊豆原 圭太      岡本 麻琳      山口 晋太郎 大瀬 弦宜      長坂 紗良      加藤 奏風					
タイトル:	Do not defeated by the uphill road ～Make senior citizen physically stronger～					
ED2	東ブロック	山形県	公立	山形県立山形東高等学校		
発表生徒:	若林 哲平      森谷 菜都美      土田 一花 神尾 真知子      門脇 カリナ					
タイトル:	Yamagata PRIDE ～a project to help high school students be proud of their hometown～					
ED3	東ブロック	千葉県	公立	千葉市立稲毛高等学校		
発表生徒:	大竹 正悟      長谷川 沙来      池田 智美 徳永 文奈      多田 陽光					
タイトル:	How Can Japan Be a Multicultural Society?					
ED4	中ブロック	福井県	公立	福井県立武生東高等学校		
発表生徒:	重野 美沙      山本 玲未奈					
タイトル:	外国人が観光しやすい街に！！					
ED5	西ブロック	兵庫県	公立	兵庫県立兵庫高等学校		
発表生徒:	阿部 綾羽      今中 優輝 竹原 理彩      張 優心					
タイトル:	“Cool Japan”, “Card Game”, “Communication” ～Languages Learning for Vietnamese～					
ED6	西ブロック	奈良県	公立	奈良県立畷傍高等学校		
発表生徒:	相良 勇人      七松 采愛					
タイトル:	Endless possibilities paper plane can bring					
ED7	西ブロック	岡山県	私立	金光学園中学・高等学校		
発表生徒:	中藤 浩文      渡邊 文奈      岡邊 こむぎ 三澤 葵      和田 小優姫					
タイトル:	The crisis faced by traditional culture and the significance of protecting culture					
ED8	四国/九州ブロック	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校		
発表生徒:	後藤 清楓					
タイトル:	How to utilize killed wild animals to protect crops for meal					

## 【日本語発表部門】 審査結果

### 金賞・文部科学省初等中等教育局長賞

#### 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

タイトル：富岡さくら復興プロジェクト～届け！さくらタピオカ



私の地元である福島県双葉郡富岡町は桜が有名である。しかし東日本大震災、福島第一原子力発電所事故以降、帰還困難区域などに指定されたため人が住めなくなり、2017年に大部分が解除された後も戻る住民が少ない状況が続いている。

私は未来のまちづくりのために若者の力が必要であると感じ、富岡の桜をイメージした『さくらタピオカ』の商品開発を行った。コロナ禍により地域の様々な取組が中止になる中、諦めずに地域の方や同級生と協働して実践を進め、委託販売や合同イベントの開催を実現した。またエシカル消費や、福島版のデポジット制の検証も行った。さらにオンラインの場を活用して自分の活動や復興の姿を伝え、若い世代や他県の人にも富岡町への興味関心を高めることができた。現在では地元のカフェにて『さくらタピオカ』の定番メニュー化に成功し、今後の復興を担う存在として地域貢献したいと考えている。

### 金賞・審査員長特別賞

#### 長野県長野高等学校

タイトル：長野にベストな案内サインは？



長野の交通の案内サインはどうあるべきなのでしょう？長野に住む外国人に話を聞いてみると、交通機関における外国語案内への弱さが浮き彫りに。駅名標だけで見ても駅ごとにデザインがバラバラだったり、そもそも駅名標がなかったりと課題があります。そこで日本各地の行政や交通事業者への取材や資料収集を行い、インバウンドに向けた先進的な取り組みについて知りました。そこから見えてきた共通点は「日本語+多言語」と「日本語メイン」の併用。主たる利用者の日本人への分かりやすさは失わず、一方では外国人観光客への配慮に優れている…そんなサインシステムの構築に成功している例もありました。長野という地域の特色を踏まえつつ、各事例から学んだことも生かして、日本人にも外国人にも分かりやすい「長野にベストな案内サイン」の姿を探っていきます。

### 金賞・大会委員長特別賞

#### 山形県立山形東高等学校

タイトル：もう生ゴミは捨てない



私たちは世界のごみ問題の深刻化、その中でも生ごみの割合が高いこと、さらに先進国では消費段階の排出が多いことに注目した。また、山形市の生ごみの発生量を見ると、近年は横ばいになっており、生ごみの削減が進んでいないことがわかった。これらの生ごみを処分する際に行う焼却や埋め立てでは大量の温室効果ガスが排出される上に、多くのエネルギーを要する。そこで、私たちは生ごみの排出量削減を通して温室効果ガスの排出量、エネルギーの使用量の削減を実現し、環境を改善することを目標とした。この目標を実現するために私たちは現在のコンポストキットより手軽で、安価で、子供達が家庭で進んで生ごみの堆肥化を行えるようなコンポストキットを提案する。さらに、生産・消費・排出を全て1ヶ所で行うという生活サイクルを通し、ゴミを出さない・食べ物を大切にするという意識の定着を図る。

## 金賞・探究成果発表委員会特別賞



### 星城中学校・高等学校

タイトル：南蛮×伝統=多文化共生!? ～アミーゴ! 僕らは地球の未来だ!!～

愛知県豊明市には約3,000人の外国人市民が暮らしています。中でもブラジル人の数が最も多く、約3分の1を占めています。ブラジル人の方々は母語であるポルトガル語で生活するため、その子どもたちの日本語習得が大きな地域課題となっています。これはSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」に該当する課題でもあります。私たちは豊明市国際交流協会が運営する子ども日本語教室でこの課題解決のために取り組みます。日本語を学ぶだけではなく、地元豊明市の名所や歴史、観光スポットなどを学び親しむ「豊明カルタ」を豊明市との協働で新たに開発しました。カルタの語源は「カード」を意味するポルトガル語です。日本古来の遊び「貝合わせ」と南蛮文化が融合してカルタができたと言われています。そして今、私たちはそのカルタを使ってポルトガル語を母語とする子どもたちに学習支援をすることで、多様性を尊重した多文化共生社会の実現を目指します。

## 金賞・生徒間投票特別賞



### 金光学園中学・高等学校

タイトル：くらしにプラス くらしきガラス

岡山県倉敷市発祥の倉敷ガラスは、創始者・小谷眞三さんとその息子の英次さんがつくる吹きガラス製品の総称で、作家のつくる作品ではなく「生活のための道具」としての実用品です。「倉敷民藝館」の初代館長・外村吉之介さんが説いた「健康で、無駄がなく、真面目で、威張らない」という民藝の精神を体現するもので、生活の中で使われることによって、さらに洗練され、そして生まれる簡素な「美」を讃える倉敷ガラスは、50年にも渡って多くの人に愛されています。この倉敷ガラスを民芸品やそれに付随する文化や伝統を知ってもらうきっかけになるように、全国の人々に広めていくことで、地域を活性化していくことに繋げていきたいと思っています。現在は、作者の小谷さんと協力し、倉敷ガラスと倉敷のジーンズとを掛け合わせた商品を開発したり、CMやポスターを作ったりして倉敷ガラスの認知度をあげる活動をしています。

## 銀賞

九里学園高等学校	育英西中学校・高等学校	香川県立高松北高等学校
高知県立室戸高等学校	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	北海道登別明日中等教育学校
岐阜県立斐太高等学校	岡山学芸館高等学校	兵庫県立兵庫高等学校
熊本県立人吉高等学校	福井県立武生東高等学校	高知県立高知西高等学校

\*順不同

## 銅賞

新潟市立高志中等教育学校	愛知県立惟信高等学校	名古屋国際中学校・高等学校
岡山県立岡山城東高等学校	大阪府立豊中高等学校能勢分校	静岡県立榛原高等学校
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	三重県立宇治山田商業高等学校	山梨県立甲府第一高等学校
兵庫県立柏原高等学校	和歌山信愛中学校・高等学校	奈良県立畷傍高等学校

\*順不同

## 【英語発表部門】 審査結果

### 金賞・文部科学省初等中等教育局長賞

#### 高知県立室戸高等学校 / Muroto High School

Title: Our Proposal for the Regional Development of Muroto City

Muroto High School has been designated as a "glocal" high school, where students discover and explore local issues facing Muroto City and research how to solve them from a global perspective. Muroto is the fifth least populated city in Japan. It is a two-hour drive from the center of Kochi Prefecture, and is a typical city suffering from urban decay due to the low birthrate and aging population. However, Muroto has one major feature: it is home to the UNESCO World Geopark. It is often said that "Muroto has nothing to offer," but in fact, we believe that we can make Muroto an appealing city that attracts a lot of people by valuing what we have and promoting it effectively. We are trying to find out what we, as local high school students, can do to make the city more attractive. Among the various initiatives, we will present how Muroto High School students have been involved in and contributed to the solution of local issues through the UNESCO World Geopark. The main focus of the presentation will be the lessons learned through the re-examination of the Muroto UNESCO World Geopark and the exchange with Langkawi Island in Malaysia, which also has a geopark. As a result of the cancellation and postponement of various activities due to the pandemic, there is still a lot to be done, but I hope to share with you the progress we have made one step at a time through this presentation.



### 金賞・審査員長特別賞

#### 九里学園高等学校 / Kunori Gakuen High school

Title: Multicultural Symbiosis Society

The purpose of my research is to make a community in which all members will be able to live safely. There are quite a few foreigners who live in Nanyo city, Yamagata where my home town is. So I have been doing interview survey to both city hall and foreigners including technical interns in cooperation with the International Exchange Association. Then I realized that many foreigners feel difficulty in every situation and the support from community is not enough. Especially, when the flood damage occurred last year, all foreigners felt anxiety and some of them were evacuated from it to the shelter somehow, but they faced many difficulties and they could not take communication with local people. The measures of city hall are insufficient, too. I thought that support for the foreigners in the time of a disaster was the number one issue. I am planning to make multilingual stock information just in case for them so that I would provide information to them. More than that, supporting each other in the community hand in hand is the best solution. On the other hands, my survey shows us that lack of interest of local people in foreigners is problem. Therefore I propose to hold the workshop which local people experience the difficulty of foreigners to empathize with them so that local people understand them and become to help them in the time of disaster as a community. I have already found the key person to do this workshop together.



### 金賞・大会委員長特別賞

#### 愛媛県立松山東高等学校 / Matsuyama Higashi High School

Title: Are Eco-friendly Gym Clothes Really Eco-friendly?

The charge for plastic shopping bags has begun, and it is said that using plastic is evil. However, is it really necessary to reduce plastics that are light and durable, have excellent sealing properties and heat resistance, and can be mass-produced, or is it necessary to reduce plastics at the cost of our convenient life? By visiting the factory called Matsuyama Container and seeing the plastic recycling site, we learned that recycling is not effective for the economy and the environment. It is important to make things responsibly and use them responsibly, such as SDGs No.12 "Responsibility for making and using," so why not turn our school's unpopular gym clothes into recycled ones made from PET bottles? Will you buy them even if the price goes up? To what extent is recycling accepted by everyone? What is recycling in the true sense of the world? We want to think about it.



## 金賞・探究成果発表委員会特別賞



### 兵庫県立兵庫高等学校 / Hyogo High School

Title: “Cool Japan”, “Card Game”, “Communication” ~Languages Learning for Vietnamese~

We propose to make a card game for Vietnamese parents to learn Japanese and children to learn Vietnamese. In addition, we will conduct a workshop to make the cards with Vietnamese people. The number of Vietnamese living in Nagata is very large, accounting for more than 20% of the total number of foreigners in the district. We went on a fieldwork to Nagata Ward Office to learn about the current situation of Vietnamese people's life and found that communication between Vietnamese parents and children is difficult. We also participated in a study session of the Kobe Vietnamese Friendship Association, which is helping Vietnamese people in Nagata Ward. What we found out there was that Vietnamese people have difficulty understanding Japanese grammar. We would like to create a card game that allows adults and children to learn language while playing together. We made a word and a grammar card each, so that there could be multiple ways to play. Making cards in workshop format allows Vietnamese to learn the language in the process as well. We also thought that by holding a game tournament, both Vietnamese and Japanese people can learn the language, culture, traditions, etc. while interacting with each other.

## 金賞・生徒間投票特別賞



### 愛媛県立宇和島南中等教育学校 / Uwajima Minami Secondary School

Title: Virtual Tours for the Sustainable Local Tourism

**Introduction:** Due to the COVID-19 outbreak around the world, the number of foreign tourists in Japan has sharply declined, while video meeting tools online are becoming more and more popular than before. From these circumstances, I decided to study what the sustainable local tourism under the COVID-19 pandemic be like by conducting the virtual tour for foreigners using a video meeting tool called Zoom. **Methods and Results:** (1) Methods: In order to make a business model of the local remote tour, I ①Conducted a real remote tour for the foreigners through Zoom, ②Interviewed a representative from the local tourism association, ③Made comparisons with similar contents worldwide. (2) The results of the research: I found these important things. ①Before taking the tourists to the site, they needed to gain some prior information about the place. ②Tourists prefer the experience of doing something unique at the place they visit. ③Check and inform the tourists of the standard rate and the duration of the virtual tours. (3) Proposal: From the result of the research, I created a business model of the local virtual tour, including the following 3 points. ①Include short introductory videos related to the contents to give tourists some prior information about the places. ②Prepare experience-based local contents. ③Give preferential treatments to people who actually visit the city among those who have experienced the virtual tour. **Conclusion:** “Active preparation before you go and real enjoyment when you get there” is the new standard of the sustainable local tourism.

## 銀 賞

北海道登別明日中等教育学校	福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校	プール学院高等学校
名古屋国際中学校・高等学校	岡山県立岡山城東高等学校	兵庫県立柏原高等学校
福井県立丸岡高等学校	山形県立山形東高等学校	大阪府立豊中高等学校能勢分校
金光学園中学・高等学校	熊本県立人吉高等学校	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

\* 順不同

## 銅 賞

山梨県立甲府第一高等学校	和歌山信愛中学校・高等学校	静岡県立榛原高等学校
岐阜県立斐太高等学校	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	岡山学芸館高等学校
長野県長野高等学校	千葉市立稲毛高等学校	三重県立宇治山田商業高等学校
福井県立武生東高等学校	育英西中学校・高等学校	奈良県立畝傍高等学校
星城中学校・高等学校		* 順不同

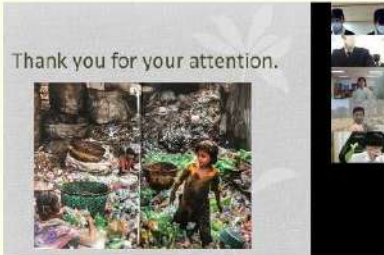


# オンライン発表会の様子

日 程〔令和3年1月30日(土)〕

- 10:00 開会の挨拶 (大会委員長 星城高等学校長 四方 元)
- 10:05 文部科学省挨拶 (初等中等教育局高等学校改革推進室長 安彦 広斉)
- 10:10 ブレイクアウトセッション① 自校取組紹介 (A~Dグループ)
- 10:25 ブレイクアウトセッション② 日本語発表部門金賞校発表 (A~Dグループ)
- 11:00 ブレイクアウトセッション③ 英語発表部門金賞校発表 (A~Dグループ)
- 11:20 日本語発表部門 文部科学省初等中等教育局長賞受賞校発表
- 11:35 英語発表部門 文部科学省初等中等教育局長賞受賞校発表
- 11:50 審査員長総評 (立教大学経営学部教授・グローバル教育センター長 松本 茂)
- 12:00 閉会の挨拶 (大会委員長)





**【Goal】**  
To create a town where there is no gap between foreign Japanese, and everyone can live comfortably as a member of the same community.

**【Purpose】**  
Even migrants from abroad should be recognized as citizens and to prevent them from becoming socially vulnerable trouble.



Leave no one behind!

**Our Proposal for the Region Development of Muroto City**





Yue, Nanami, Reina, Mizuki, Mahito  
(Muroto High School, Kochi Japan)

高知県立宇和島南高等学校





奥田 葉音

総合司会  
星城中学校・高等学校



岡野 優月

A グループ司会  
九里学園高等学校



加藤 綾乃



黒田 梨々花



長谷川 玲

B グループ司会  
昭和女子大学附属昭和高等学校



小寺 萌奈



渡邊 英美里



寺田 心

C グループ司会  
和歌山信愛中学校高等学校



宮本 悠理



寺田 涼花



沖田 奈優



柘田 真央

D グループ司会  
星城中学校・高等学校



名波 有彩



奥田 葉音



岡野 優月

大会公式ホームページ作成・オンライン発表会運営協力  
星城高等学校国際交流部主任・ICT担当 教諭 松尾 慎

## 8. 評価と課題

### (1) ルーブリック評価

「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」(新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー (SGL)の育成プロジェクト) のめざすスーパーグローバル・リーダー像は、地域協働推進校としての SGL 活動、さらには豊明市から認定された豊明市地域協働サポーターとしての活動を通して、次の 4 つの力を身に付けたリーダーである。

- ①自ら行動する力としての主体性
- ②人々とつながる力としての協働性
- ③解決策を探る力としての探究力
- ④相手に伝える力としての発信力

SGL 活動を通じて生徒がどのように変容していくかをルーブリック評価によって把握し、生徒の変容状況を踏まえて活動内容や指導方法の改善につなげる。ルーブリック評価では、育てたいリーダー像に照らして上記の①～④を評価項目としている。自分の活動内容をレベル 1 からレベル 4 までの 4 段階の評価文の中のどのレベルに相当するかによって自己評価する。学期ごとに活動内容が異なるので、各レベルの評価文も学期ごとに異なるように作成してある。下記の表は 1 年生のルーブリック評価文の一覧である。

1 年生ルーブリック評価文一覧表

学期	観点	レベル	評価文
1 学 期	主体性	1	SDGs に興味・関心をもつことができる。
		2	SDGs と地域課題を関連付けて考えることができる。
		3	SDGs 推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる。
		4	SDGs や地域課題に対して自分たちにできる取組を考えることができる。
	協働性	1	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる。
		2	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる。
		3	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる。
		4	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる。
	探究力	1	豊明市について、地域の特性を調べることができる。
		2	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる。
		3	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めることを考えることができる。
		4	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる。
	発信力	1	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。
		2	相手の意見に対する感想を伝えることができる。
		3	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる。
		4	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる。

2 学 期	主体性	1	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。
		2	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。
		3	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりをすすめることができる。
		4	花植え後も地域の方々とコミュニケーションをとり花壇を管理することができる。
	協働性	1	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。
		2	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協働する団体を見つけることができる。
		3	地域の方々と協働しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。
		4	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
	探究力	1	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。
		2	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画をすすめることができる。
		3	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。
		4	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
	発信力	1	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。
		2	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。
		3	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。
		4	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。
3 学 期	主体性	1	発表内容について、自分の考えや意見を持つことができる。
		2	自分が担当する発表原稿やスライドを自分で作成できる。
		3	自分の発表原稿とスライドについて、改善点を考え、修正できる。
		4	全体の発表原稿とスライドについて、改善点を提案し修正できる。
	協働性	1	班の中で自分が担当する役割を実行できる。
		2	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、自分の発表に活かすことができる。
		3	お互いの原稿やスライドについて、意見やアイデアを出し、検討できる。
		4	根拠となる資料やデータを班内で共有しそれに対する意見を集約できる。
	探究力	1	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができる。
		2	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができる。
		3	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してスライドを作成できる。
		4	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができる。
	発信力	1	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		2	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		3	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できる。
		4	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができる。

1 学期は SDGs について考え、地域についての理解を深めることが学びの中心となる。  
2 学期は花溢れる街づくりプロジェクトを核とした地域協働の計画と実践が学びの中心となる。そして 3 学期は 1 学期と 2 学期の探究的な学びの集大成として、探究成果発表を行うことが学びの中心となる。

下記の表は2年生のルーブリック評価文の一覧である。

2年生ルーブリック評価文一覧表

学期	観点	レベル	評価文
1 学期	主体性	1	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる。
		2	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物の作成をすることができる。
		3	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる。
		4	豊明市の地域課題と活動について調べることができる。
	協働性	1	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる。
		2	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる。
		3	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる。
		4	グループ活動で自分の意見を伝えることができる。
	探究力	1	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる。
		2	グループの意見を全体へ発表することができる。
		3	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる。
		4	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができる。
	発信力	1	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができる。
		2	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができる。
		3	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができる。
		4	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができる。
2 学期	主体性	1	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができる。
		2	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できる。
		3	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができる。
		4	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できる。
	協働性	1	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できる。
		2	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できる。
		3	SDGs との関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できる。
		4	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができる。
	探究力	1	グループでまとめた考えた啓発物のアイデアをクラスで発表・説明できる。
		2	啓発物のアイデア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できる。
		3	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができる。
		4	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる。
	発信力	1	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物の作成をすることができる。
		2	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる。
		3	豊明市の地域課題と活動について調べることができる。
		4	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる。

3 学 期	主体性	1	探究成果発表の原稿とスライドの作成に取り組むことができる。
		2	原稿やスライドに自分の意見やアイデアを取り入れることができる。
		3	班内で共有した意見やアイデアをプレゼンテーションに生かすことができる。
		4	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができる。
	協働性	1	発表原稿とスライドの作成で、自分が担当する役割を実行できる。
		2	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、原稿やスライドを作成できる。
		3	他の班員の原稿やスライドについて、改善点などの助言を伝えることができる。
		4	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とスライドが作成できる。
	探究力	1	地域課題を探し、目的を明確にすることができる。
		2	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができる。
		3	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができる。
		4	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができる。
発信力	1	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができる。	
	2	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。	
	3	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができる。	
	4	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。	

2年生1学期はSDGsの各目標についての課題解決策について考え、豊明市の地域課題について調べることが学びの中心となる。2学期は地域協創プロジェクトを核とした地域課題解決を目指した啓発素材開発の計画と実践が学びの中心となる。そして3学期は1学期と2学期の探究的な学びの集大成として、探究成果発表を行うことが学びの中心となる。

これらのルーブリック評価文は、各学期の最初の授業時に生徒に提示し、どのような学習活動が求められているかについて確認するとともに、自分がどのレベルを目指して活動するかについて考え、自分の目標を設定することができるようにした。各学期の最後の授業では学期全体を振り返り、ルーブリック評価表を用いて自己評価する。その自己評価は各クラスで集計し、その後学年全体の集計も実施する。SGL開発会議やSGL実行委員会でその集計データを分析し、育成が不十分な項目の確認やなぜ自己評価が低かったのかその原因を考えることによって、次の学期でどのような授業にしていくか、どのような手立てを講ずるのか、また次の学期のルーブリック評価文の内容をどのようにしていくかなどについて検討する材料にした。

このルーブリック評価文は総合的な探究の時間の評価文にもなっており、授業者から見て、各生徒についてどこ項目が最も評価でき、どの評価文が最も評価できる内容なのかを一覧表から選ぶことによって、生徒の自己評価と教員による評価の一貫性を保つようにしている。次ページから1年生と2年生の1学期から3学期までのルーブリック評価のクラス別及び全体集計をそれぞれ表にまとめた。

1年生1学期ルーブリック評価集計表

令和2年度1学年SGL地域協創学Ⅰ ルーブリック評価表(1学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	SDGsに興味・関心をもつことができる	SDGsと地域課題を関連付けて考えることができる	SDGs推進や地域課題解決について自分の考えをもつことができる	SDGsや地域課題に対して自分たちができる取組を考えることができる
<b>協働性</b> 人々と繋がる力	グループ活動で相手の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの意見を伝え合うことができる	グループ活動でお互いの意見の良いところを認め合うことができる	多様な意見をもとにグループとしての考えをまとめることができる
<b>探究力</b> 解決策を探る力	豊明市について、地域の特性を調べることができる	豊明市の地域課題に対する取組や活動について調べることができる	現地調査を通じて、地域の現状を知り、地域が求めることを考えることができる	地域の課題解決を踏まえて花植えプロジェクトを企画することができる
<b>発信力</b> 相手に伝える力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	相手の意見に対する感想を伝えることができる	グループ内の意見をクラス全体の場で発表することができる	他のグループの意見を踏まえて、自分の意見をクラスで発表することができる

仰星1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.3%	11	28.9%	14	36.8%	11	28.9%	38
協働性	4	10.5%	11	28.9%	18	47.4%	5	13.2%	38
探究力	7	18.4%	23	60.5%	6	15.8%	2	5.3%	38
発信力	7	18.4%	18	47.4%	12	31.6%	1	2.6%	38
小計	20	13.2%	63	41.4%	50	32.9%	19	12.5%	152

仰星1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.4%	10	27.0%	20	54.1%	5	13.5%	37
協働性	1	2.7%	10	27.0%	18	48.6%	8	21.6%	37
探究力	3	8.1%	13	35.1%	14	37.8%	7	18.9%	37
発信力	2	5.4%	13	35.1%	16	43.2%	6	16.2%	37
小計	8	5.4%	46	31.1%	68	45.9%	26	17.6%	148

特進1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	4	10.5%	7	18.4%	18	47.4%	9	23.7%	38
協働性	1	2.6%	7	18.4%	18	47.4%	12	31.6%	38
探究力	3	7.9%	14	36.8%	12	31.6%	9	23.7%	38
発信力	5	13.2%	14	36.8%	15	39.5%	4	10.5%	38
小計	13	8.6%	42	27.6%	63	41.4%	34	22.4%	152

特進1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.4%	4	10.8%	17	45.9%	14	37.8%	37
協働性	1	2.7%	9	24.3%	18	48.6%	9	24.3%	37
探究力	0	0.0%	13	35.1%	15	40.5%	9	24.3%	37
発信力	3	8.1%	7	18.9%	22	59.5%	5	13.5%	37
小計	6	4.1%	33	22.3%	72	48.6%	37	25.0%	148

特進1年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	7.7%	6	15.4%	20	51.3%	10	25.6%	39
協働性	0	0.0%	9	23.1%	20	51.3%	10	25.6%	39
探究力	0	0.0%	14	35.9%	15	38.5%	10	25.6%	39
発信力	5	12.8%	6	15.4%	23	59.0%	5	12.8%	39
小計	8	5.1%	35	22.4%	78	50.0%	35	22.4%	156

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	13	6.9%	38	20.1%	89	47.1%	49	25.9%	189
協働性	7	3.7%	46	24.3%	92	48.7%	44	23.3%	189
探究力	13	6.9%	77	40.7%	62	32.8%	37	19.6%	189
発信力	22	11.6%	58	30.7%	88	46.6%	21	11.1%	189
小計	55	7.3%	219	29.0%	331	43.8%	151	20.0%	756



令和2年度1学年 SGL地域協創学 I ルーブリック評価集計表(2学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	班で計画したことや先生からの助言を活かして前向きに取り組むことができる。	花壇づくりを通して自分の意見や考えたことを班員に伝え話し合うことができる。	地域の方々と積極的に交流を図りながら、花壇づくりを進めることができる。	花上後も地域の方々とコミュニケーションをとり花壇を管理することができる。
<b>協働性</b> 人々と繋がる力	班員の意見を大切にしながら、協力して花壇づくりに取り組むことができる。	地域の方々に事前に説明やお願いをし、協力する団体を見つけることができる。	地域の方々と協力しながら、花壇づくりや花植えを実施することができる。	花植え後も水やりや花壇整備などを通して地域の方々と交流することができる。
<b>探究力</b> 解決策を探る力	花壇づくりの企画を地域の方々に伝える説明資料を班で作成することができる。	予算を活用して、値段や購入先を検討しながら計画を進めることができる。	花壇づくりを通して地域の方々に地域課題について聞き取りすることができる。	花植え活動を地域課題解決にどのようにつなげられるかを考えることができる。
<b>発信力</b> 相手に伝える力	地域の方々に喜んでもらえるように、花壇づくりの計画を立てることができる。	作成した資料をもとに地域の方々に花壇づくりの企画を説明することができる。	地域の方々の意見を聞き、完成した花壇づくりの計画を説明することができる。	自分たちが地域課題解決に向けて取り組んでいくことを発信することができる。

仰星1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	5	13.2%	12	31.6%	18	47.4%	3	7.9%	38
協働性	6	15.8%	10	26.3%	21	55.3%	1	2.6%	38
探究力	6	15.8%	15	39.5%	14	36.8%	3	7.9%	38
発信力	1	2.6%	8	21.1%	10	26.3%	8	21.1%	38
小計	18	11.8%	45	29.6%	63	41.4%	15	9.9%	152

仰星1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	8.1%	12	32.4%	19	51.4%	3	8.1%	37
協働性	2	5.4%	2	5.4%	29	78.4%	4	10.8%	37
探究力	2	5.4%	16	43.2%	14	37.8%	5	13.5%	37
発信力	2	5.4%	14	37.8%	15	40.5%	6	16.2%	37
小計	9	6.1%	44	29.7%	77	52.0%	18	12.2%	148

特進1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	2.7%	17	45.9%	18	48.6%	1	2.7%	37
協働性	1	2.7%	9	24.3%	22	59.5%	13	35.1%	37
探究力	3	8.1%	19	51.4%	10	27.0%	5	13.5%	37
発信力	3	8.1%	15	40.5%	13	35.1%	6	16.2%	37
小計	8	5.4%	60	40.5%	63	42.6%	25	16.9%	148

特進1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	16	45.7%	18	51.4%	1	2.9%	35
協働性	3	8.6%	8	22.9%	14	40.0%	10	28.6%	35
探究力	2	5.7%	17	48.6%	10	28.6%	6	17.1%	35
発信力	3	8.6%	16	45.7%	14	40.0%	2	5.7%	35
小計	8	5.7%	57	40.7%	56	40.0%	19	13.6%	140

特進1年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	9	22.5%	26	65.0%	5	12.5%	40
協働性	1	2.5%	6	15.0%	25	62.5%	8	20.0%	40
探究力	0	0.0%	15	37.5%	16	40.0%	9	22.5%	40
発信力	0	0.0%	18	45.0%	16	40.0%	6	15.0%	40
小計	1	0.6%	48	30.0%	83	51.9%	28	17.5%	160

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	9	4.8%	66	35.3%	99	52.9%	13	7.0%	187
協働性	13	7.0%	35	18.7%	111	59.4%	36	19.3%	187
探究力	13	7.0%	82	43.9%	64	34.2%	28	15.0%	187
発信力	9	4.8%	71	38.0%	68	36.4%	28	15.0%	187
小計	44	5.9%	254	34.0%	342	45.7%	105	14.0%	748

## 令和2年度1学年 SGL地域協創学 I ルーブリック評価集計表(3学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	発表内容について、自分の考えや意見を持つことができた。	自分が担当する発表原稿やスライドを自分で作成できた。	自分の発表原稿とスライドについて、改善点を考え、修正できた。	全体の発表原稿とスライドについて、改善点を提案し修正できた。
<b>協働性</b> 人々と繋がる力	班の中で自分が担当する役割を実行できた。	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、自分の発表に活かすことができた。	お互いの原稿やスライドについて、意見やアイデアを出し、検討できた。	根拠となる資料やデータを班内で共有しそれに対する意見を集約できた。
<b>探究力</b> 解決策を採る力	高齢者や外国人を対象としたテーマ設定ができた。	それぞれのテーマに関する地域課題解決に向けた提言ができた。	提言の根拠となる資料やデータ、グラフを提示してスライドを作成できた。	データやグラフを効果的に使い、提言の根拠を明確に示すことができた。
<b>発信力</b> 相手に伝える力	原稿を見ながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	途中、原稿を確認しながら聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	原稿を見ずに聴衆に向けて、班の伝えたいことが発信できた。	発表に対する質疑に的確に回答し、班の提言をより強く訴えることができた。

仰星1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.4%	4	10.8%	14	37.8%	17	45.9%	37
協働性	2	5.4%	5	13.5%	19	51.4%	11	29.7%	37
探究力	0	0.0%	8	21.6%	21	56.8%	8	21.6%	37
発信力	2	5.4%	11	29.7%	22	59.5%	2	5.4%	37
小計	6	4.1%	28	18.9%	76	51.4%	38	25.7%	148

仰星1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	2.7%	8	21.6%	19	51.4%	9	24.3%	37
協働性	3	8.1%	6	16.2%	23	62.2%	5	13.5%	37
探究力	1	2.7%	13	35.1%	16	43.2%	7	18.9%	37
発信力	0	0.0%	25	67.6%	10	27.0%	2	5.4%	37
小計	5	3.4%	52	35.1%	68	45.9%	23	15.5%	148

特進1年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	8	21.6%	19	51.4%	10	27.0%	37
協働性	2	5.4%	6	16.2%	27	73.0%	2	5.4%	37
探究力	1	2.7%	11	29.7%	21	56.8%	4	10.8%	37
発信力	1	2.7%	15	40.5%	17	45.9%	4	10.8%	37
小計	4	2.7%	40	27.0%	84	56.8%	20	13.5%	148

特進1年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	5.0%	7	17.5%	22	55.0%	9	22.5%	40
協働性	1	2.5%	13	32.5%	17	42.5%	9	22.5%	40
探究力	0	0.0%	8	20.0%	27	67.5%	5	12.5%	40
発信力	2	5.0%	15	37.5%	16	40.0%	7	17.5%	40
小計	5	3.1%	43	26.9%	82	51.3%	30	18.8%	160

特進1年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	7	17.5%	24	60.0%	9	22.5%	40
協働性	1	2.5%	13	32.5%	17	42.5%	9	22.5%	40
探究力	0	0.0%	8	20.0%	27	67.5%	5	12.5%	40
発信力	1	2.5%	24	60.0%	6	15.0%	9	22.5%	40
小計	2	1.3%	52	32.5%	74	46.3%	32	20.0%	160

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	5	2.6%	34	17.8%	98	51.3%	54	28.3%	191
協働性	9	4.7%	43	22.5%	103	53.9%	36	18.8%	191
探究力	2	1.0%	48	25.1%	112	58.6%	29	15.2%	191
発信力	6	3.1%	90	47.1%	71	37.2%	24	12.6%	191
小計	22	2.9%	215	28.1%	384	50.3%	143	18.7%	764

1学期から3学期までのルーブリック評価の全体集計から、今年度の課題にしていた「主体性」について、レベル3と4の自己評価の合計が1学期では73.0%で、2学期では59.9%、3学期では79.6%となった。2学期の自己評価が低くなった要因は花溢れる街づくりプロジェクト当日が雨天となり、計画したとおりに地域の方々と花植えが実施できなかったことが大きく影響したと考えられる。1学期と3学期では約80%の生徒がレベル3または4の自己評価をしたことから、生徒が主体的に探究的な学びに取り組んだといわれてよいと考えられる。

主体性の集計 (%)

主体性	1学期	2学期	3学期
レベル 4	25.9%	7.0%	28.3%
レベル 3	47.1%	52.9%	51.3%
レベル 2	20.1%	35.3%	17.8%
レベル 1	6.9%	4.8%	2.6%

「発信力」については、レベル3と4の自己評価の合計が1学期では57.7%で、2学期では51.4%、3学期では49.8%となった。コロナ禍で話し合う機会や相手に伝える機会、発表する機会などが少なかったことが影響していると思われるが、学期が進むにつれて発信力の自己評価の数値が低くなっていることは見逃せない結果である。昨年度は3学期の探究成果発表がポスターセッション形式であった。しかし、今年度は感染予防を考慮してiPadでの画面収録やクラス内での発表に留まったため、発表だけでなく、発表に向けた練習や発表での質疑応答などに十分な時間をかけられなかった、または経験させられなかったことが自己評価の低下につながったのではないかと考えられる。コロナ禍であっても生徒の発信力や発表力を育成するためにどのような手立てを講ずるべきかを検討し、計画することが今後の大きな課題と言える。

発信力の集計 (%)

発信力	1学期	2学期	3学期
レベル 4	11.1%	15.0%	12.6%
レベル 3	46.6%	36.4%	37.2%
レベル 2	30.7%	34.0%	47.1%
レベル 1	11.6%	5.9%	3.1%

本来ならば1年生でポスターセッション形式での発表を経験する計画を今年度は変更せざるを得なかった。来年度の探究成果発表ではポスターセッション形式での発表をする機会を設けて、発信力の育成に注力したい。

2年生1学期ルーブリック評価集計表

令和2年度2学年SGL地域協創学Ⅱ ルーブリック評価表(1学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	SDGs推進や地域課題解決について自分で考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けての対策をグループで考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の内容を考えることができる	SDGs推進や地域課題解決に向けた啓発物の活用計画を提案することができる
<b>協調性</b> 人々と繋がる力	グループ活動で他者の意見に耳を傾けることができる	グループ活動でお互いの考えを伝え合い、認め合うことができる	グループの話し合いをもとに、協力して啓発物の作成をすることができる	コンソーシアムの方々と意見交換しながら啓発物を改良することができる
<b>探究力</b> 解決策を探る力	豊明市の地域課題と活動について調べることができる	地域課題解決に向けて調べたことをグループで共有し、話し合うことができる	地域課題解決につながるプロジェクトをグループで立案することができる	コンソーシアムの方々と啓発物の活用方法について協議することができる
<b>発信力</b> 相手に伝える力	グループ活動で自分の意見を伝えることができる	グループ活動で他者の意見に対する自分の考えを伝えることができる	グループの意見を全体へ発表することができる	コンソーシアムの方々に自分たちが考えたことを発表することができる

仰星2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	6	24.0%	13	52.0%	6	24.0%	25
協調性	0	0.0%	5	20.0%	16	64.0%	4	16.0%	25
探究力	0	0.0%	3	12.0%	19	76.0%	3	12.0%	25
発信力	0	0.0%	5	20.0%	15	60.0%	5	20.0%	25
小計	0	0.0%	19	19.0%	63	63.0%	18	18.0%	100

仰星2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	4	14.3%	10	35.7%	14	50.0%	28
協調性	1	3.6%	5	17.9%	9	32.1%	13	46.4%	28
探究力	0	0.0%	3	10.7%	19	67.9%	6	21.4%	28
発信力	0	0.0%	9	32.1%	8	28.6%	11	39.3%	28
小計	1	0.9%	21	18.8%	46	41.1%	44	39.3%	112

特進2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	4	14.3%	15	53.6%	9	32.1%	28
協調性	0	0.0%	6	21.4%	10	35.7%	12	42.9%	28
探究力	0	0.0%	8	28.6%	12	42.9%	8	28.6%	28
発信力	0	0.0%	11	39.3%	3	10.7%	14	50.0%	28
小計	0	0.0%	29	25.9%	40	35.7%	43	38.4%	112

特進2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	10.0%	8	26.7%	7	23.3%	12	40.0%	30
協調性	1	3.3%	9	30.0%	13	43.3%	7	23.3%	30
探究力	3	10.0%	6	20.0%	8	26.7%	13	43.3%	30
発信力	2	6.7%	5	16.7%	18	60.0%	5	16.7%	30
小計	9	7.5%	28	23.3%	46	38.3%	37	30.8%	120

特進2年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	4	12.5%	12	37.5%	16	50.0%	32
協調性	0	0.0%	0	0.0%	17	53.1%	15	46.9%	32
探究力	0	0.0%	4	12.5%	13	40.6%	15	46.9%	32
発信力	1	3.1%	8	25.0%	11	34.4%	12	37.5%	32
小計	1	0.8%	16	12.5%	53	41.4%	58	45.3%	128

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	2.1%	26	18.2%	57	39.9%	57	39.9%	143
協調性	2	1.4%	25	17.5%	65	45.5%	51	35.7%	143
探究力	3	2.1%	24	16.8%	71	49.7%	45	31.5%	143
発信力	3	2.1%	38	26.6%	55	38.5%	47	32.9%	143
小計	11	1.9%	113	19.8%	248	43.4%	200	35.0%	572

## 令和2年度2学年SGL地域協創学Ⅱ ルーブリック評価集計表(2学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	地域課題や課題解決のための啓発物開発について、興味・関心をもつことができた	地域課題と新たに開発しようとする啓発物を関連づけて考えることができた	地域課題解決のための啓発物作成にあたって、積極的に取り組むことができた	地域の方々の意見を聞き、それらを生かして、啓発物開発に取り組むことができた
<b>協働性</b> 人々と繋がる力	班員の意見を大切にし、協力して地域課題の発見や啓発物の開発に取り組むことができた	コンソーシアムの方々の助言や意見を聞き、新たな啓発物作成の提案ができた	地域やコンソーシアムの方々と改善点を協議し、協働しながら啓発物を開発できた	開発した啓発物を地域の方々に使用してもらい、感想や意見などをまとめることができた
<b>探究力</b> 解決策を探る力	具体的な地域課題を見つけ、それを解決するための啓発物作成について検討できた	地域課題解決につながる啓発物作成を目指して調査し、その内容を活用できた	現地での調査を通じて地域の現状を知り、地域の要求を開発に反映できた	SDGsとの関連やグローバルな視点を踏まえて、啓発物の作成や活用方法を検討できた
<b>発信力</b> 相手に伝える力	グループ活動で自分の考えや他の意見についての自分の考えを伝えることができた	グループでまとめた考えた啓発物のアイデアをクラスで発表・説明できた	啓発物のアイデア・活用法などをコンソーシアムの方々に発表・説明できた	完成した啓発物を地域の方々に提示し、その活用を呼びかけることができた

仰星2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	1	3.8%	12	46.2%	13	50.0%	26
協働性	0	0.0%	2	7.7%	7	26.9%	17	65.4%	26
探究力	0	0.0%	0	0.0%	11	42.3%	15	57.7%	26
発信力	0	0.0%	1	3.8%	9	34.6%	16	61.5%	26
小計	0	0.0%	4	3.8%	39	37.5%	61	58.7%	104

仰星2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	3.4%	3	10.3%	18	62.1%	7	24.1%	29
協働性	2	6.9%	3	10.3%	14	48.3%	10	34.5%	29
探究力	1	3.4%	7	24.1%	12	41.4%	9	31.0%	29
発信力	1	3.4%	4	13.8%	17	58.6%	7	24.1%	29
小計	5	4.3%	17	14.7%	61	52.6%	33	28.4%	116

特進2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	3.3%	5	16.7%	20	66.7%	4	13.3%	30
協働性	4	13.3%	8	26.7%	14	46.7%	4	13.3%	30
探究力	3	10.0%	8	26.7%	12	40.0%	7	23.3%	30
発信力	1	3.3%	9	30.0%	14	46.7%	6	20.0%	30
小計	9	7.5%	30	25.0%	60	50.0%	21	17.5%	120

特進2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	3	10.3%	5	17.2%	16	55.2%	5	17.2%	29
協調性	5	17.2%	4	13.8%	14	48.3%	6	20.7%	29
探究力	4	13.8%	4	13.8%	15	51.7%	6	20.7%	29
発信力	3	10.3%	6	20.7%	16	55.2%	4	13.8%	29
小計	15	12.9%	19	16.4%	61	52.6%	21	18.1%	116

特進2年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	4	12.9%	20	64.5%	7	22.6%	31
協働性	1	3.2%	7	22.6%	12	38.7%	11	35.5%	31
探究力	1	3.2%	8	25.8%	14	45.2%	8	25.8%	31
発信力	1	3.2%	6	19.4%	13	41.9%	11	35.5%	31
小計	3	2.4%	25	20.2%	59	47.6%	37	29.8%	124

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	5	3.4%	18	12.4%	86	59.3%	36	24.8%	145
協働性	12	8.3%	24	16.6%	61	42.1%	48	33.1%	145
探究力	9	6.2%	27	18.6%	64	44.1%	45	31.0%	145
発信力	6	4.1%	26	17.9%	69	47.6%	44	30.3%	145
小計	32	5.5%	95	16.4%	280	48.3%	173	29.8%	580

2年生3学期ルーブリック評価集計表

令和2年度2学年SGL地域協創学Ⅱ ルーブリック評価集計表(3学期)

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>主体性</b> 自ら行動する力	探究成果発表の原稿とスライドの作成に取り組むことができた	自分の原稿やスライドに自分の意見やアイデアを取り入れることができた	班内で共有した意見やアイデアをプレゼンテーションに生かすことができた	啓発物開発の目的や過程、課題などを明確にしてプレゼンテーションができた
<b>協働性</b> 人々と繋がる力	発表原稿とスライドの作成で、自分が担当する役割を実行できた	他の班員の意見やアイデアを取り入れ、原稿やスライドを作成できた	他の班員の原稿やスライドについて、改善点などの助言を伝えることができた	活発な意見交換を行い、班員の意見などを集約して原稿とスライドが作成できた
<b>探究力</b> 解決策を探る力	地域課題を探し、目的を明確にすることができた	プレゼンテーションをするための資料やデータを探すことができた	データやグラフを効果的に使い、プレゼンテーションの質を高めることができた	プレゼンテーションを通して今後の課題を発見し、新たな探究へ向かうことができた
<b>発信力</b> 相手に伝える力	原稿を見ながら、プレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ながら、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずにプレゼンテーションを行うことができた	原稿を見ずに、聴衆にわかりやすくプレゼンテーションを行うことができた

仰星2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	4.3%	3	13.0%	10	43.5%	9	39.1%	23
協働性	1	4.3%	3	13.0%	9	39.1%	10	43.5%	23
探究力	0	0.0%	4	17.4%	8	34.8%	11	47.8%	23
発信力	3	13.0%	11	47.8%	4	17.4%	5	21.7%	23
小計	5	5.4%	21	22.8%	31	33.7%	35	38.0%	92

仰星2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	2	7.4%	14	51.9%	11	40.7%	27
協働性	2	7.4%	1	3.7%	16	59.3%	8	29.6%	27
探究力	1	3.7%	3	11.1%	14	51.9%	9	33.3%	27
発信力	1	3.7%	7	25.9%	12	44.4%	7	25.9%	27
小計	4	3.7%	13	12.0%	56	51.9%	35	32.4%	108

特進2年1組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	1	3.4%	4	13.8%	15	51.7%	9	31.0%	29
協働性	0	0.0%	7	24.1%	15	51.7%	7	24.1%	29
探究力	0	0.0%	9	31.0%	11	37.9%	9	31.0%	29
発信力	0	0.0%	7	24.1%	19	65.5%	3	10.3%	29
小計	1	0.9%	27	23.3%	60	51.7%	28	24.1%	116

特進2年2組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	6	22.2%	16	59.3%	5	18.5%	27
協調性	2	7.4%	5	18.5%	15	55.6%	5	18.5%	27
探究力	2	7.4%	5	18.5%	16	59.3%	4	14.8%	27
発信力	1	3.7%	19	70.4%	6	22.2%	1	3.7%	27
小計	5	4.6%	35	32.4%	53	49.1%	15	13.9%	108

特進2年3組	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	0	0.0%	5	16.1%	13	41.9%	13	41.9%	31
協働性	0	0.0%	4	12.9%	13	41.9%	14	45.2%	31
探究力	0	0.0%	4	12.9%	14	45.2%	13	41.9%	31
発信力	0	0.0%	14	45.2%	9	29.0%	8	25.8%	31
小計	0	0.0%	27	21.8%	49	39.5%	48	38.7%	124

全クラス合計	レベル1		レベル2		レベル3		レベル4		人数
主体性	2	1.5%	20	14.6%	68	49.6%	47	34.3%	137
協働性	5	3.6%	20	14.6%	68	49.6%	44	32.1%	137
探究力	3	2.2%	25	18.2%	63	46.0%	46	33.6%	137
発信力	5	3.6%	58	42.3%	50	36.5%	24	17.5%	137
小計	15	2.7%	123	22.4%	249	45.4%	161	29.4%	548

2年生にとっても今年度の課題は「主体性」の育成であった。昨年度の探究学習では教員によって段取りされた活動が見られたため、主体性の向上が見られなかった。その反省をもとに、今年度は教員による段取りを最低限にして生徒の主体性をより尊重した活動に改善した。

主体性の集計 (%)

主体性	1学期	2学期	3学期
レベル 4	39.9%	24.8%	34.3%
レベル 3	39.9%	59.3%	49.6%
レベル 2	18.2%	12.4%	14.6%
レベル 1	2.1%	3.4%	1.5%

1学期から3学期までのルーブリック評価の全体集計から、「主体性」についてはレベル3と4の自己評価の合計が1学期では79.8%で、2学期では84.1%、3学期では83.9%となった。80%前後の生徒が主体的に活動できたという自己評価をし、年間を通して同様の結果が出たことは、生徒が主体的に探究活動に取り組んだ証と言えるのではないかと考えられる。

コンソーシアム関係団体と協働して地域課題解決を目指した啓発素材開発に取り組んだ探究学習では、生徒の自由で今までにない発想をもとにした開発が展開された。活動の中ではいくつもの苦難や失敗もあったが、自分たちで考え、自分たちの力で開発をやり切ったという思いが、主体性だけでなく、協働性や探究力での自己評価の高さに表れていると考えられる。

一方で、発信力については課題が残る集計結果となった。レベル3と4の自己評価の合計が1学期では71.4%で、2学期では77.6%と高い自己評価で推移していたが、3学期では54.0%と自己評価は大きく低下した。この原因として考えられることは、探究成果発表を日本語での発表だけでなく、英語での発表も課したことである。英語の原稿と英語のスライドを作成することに苦労したことと英語での発表に自信が持てなかったのではないかと想像する。また、昨年度にポスターセッション形式で発表した経験をしているので、それと比較するとコロナ禍での発表会は盛り上がり欠けた印象を生徒は持ったのかもしれない。

発信力の集計 (%)

発信力	1学期	2学期	3学期
レベル 4	32.9%	30.3%	17.5%
レベル 3	38.5%	47.6%	36.5%
レベル 2	26.6%	17.9%	42.3%
レベル 1	2.1%	4.1%	3.6%

## (2) 目標設定シートの達成状況

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の本校の目標設定シートにおける2021年度の目標値と2020年度の達成状況を表で示す。

### ア SGL活動において実現する成果目標について

目標項目	地域協働活動参加者	海外研修参加率
目標値	300人	100%
達成状況	346人(1,2年生全体)	100%(2年生150人) オンラインツアーを含む

1年生198人がSGL活動の「花溢れる街づくりプロジェクト」として花壇づくりと花植え活動を実施した。2年生150人が「地域協働プロジェクト」として地域課題解決を目指した啓発素材開発に取り組んだ。

海外研修については新型コロナウイルス感染拡大によって実際に海外に行くことは不可能であったが、オンラインツアーの形式に変更し、2年生全員がベトナムオンラインツアーとカンボジアオンラインツアーに参加した。

### イ 地域人材を育成する高校としての活動指標

目標項目	活動発表年間実施回数	英語運用能力がCEFRのB1以上の生徒の割合
目標値	5回	50%
達成状況	3回	17%(25人)

SGL活動の探究成果発表会は、1年生発表会と2年生発表会の2回を各クラスにおいて開催した。コロナ禍のため外部の見学は設定できなかったが、発表をiPadで画面収録して、そのデータを学校HP上で公表することにした。生徒氏名や顔などの画像は表示していないため、誰でも視聴できるようになっている。また、本校が中心となって全国高等学校グローバル探究オンライン発表会を新たに立ち上げ、1月30日にはグローバル型地域協働推進校34校によるオンライン発表会を実施した。英語運用能力については英検2級以上がCEFRのB1以上に相当する。仰星コースと特進コースの2年生(150名)の17%の25名であった。

### ウ 地域人材を育成する地域としての活動指標

目標項目	コンソーシアム会議 実施回数	地域活動参加者の 外国人・高齢市民数
目標値	4回	100人
達成状況	2回 (1学期臨時休校で中止)	266人 (外国人市民150人、高齢市民116人)



1 学期のコンソーシアム会議は新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休校のため中止とした。3 学期のコンソーシアム会議は緊急事態宣言家であったため、メール等での意見聴取とした。地域活動参加者数については、「花溢れる街づくりプロジェクト」としての花壇づくりと花植え活動に高齢市民が 86 人、ベトナム人家族等が 30 人参加した。その他として、本校生徒が関わった日本語教室に外国人児童が延べ 120 人参加した。

### (3) 今後の課題

今年度は生徒の「主体性」の育成を最も重要な課題とし、探究学習のカリキュラム開発に取り組んだ。ルーブリック評価集計表と探究成果物、探究成果発表動画を見れば、1 年生、2 年生ともにある程度課題を克服したと言えるのではないかと。一方で、「発信力」についてはルーブリック評価集計表の見限り 1 年生、2 年生共に課題が残ったと言える。来年度のカリキュラム開発において最も重要な克服すべき課題は生徒の「発信力」の育成となる。

コロナ禍において今年度は予定したかたちでの海外研修は実施できなかった。そこでオンラインツアーに切り替え、ベトナムとカンボジアの海外研修を実施した。生徒には好評だったが、学びとして充実させるためには研修テーマや内容構成を更に検討しながら企画する必要がある。SDGs や課題解決などにどれだけ関連させられるか、また生徒と現地の人々との交流をどのようにオンラインで実施するかが課題となる。また、SGL 第 2 外国語の授業ではベトナム人講師が来校することができなかったため、ベトナム語学習が十分に行えなかった。コロナ禍でどのようにベトナム語学習を行うかについて検討し、来年度は工夫して実施する必要がある。

今年度新たに立ち上げた全国高等学校グローバル探究オンライン発表会は来年度も実施する予定である。オンラインで行う探究成果発表会でどのような生徒間交流や学び合いができるのか、その可能性に迫りたい。

# 『新型コロナウイルス禍における地域協働への挑戦』

—2020 年度活動について—

名古屋大学大学院国際開発研究科

学術研究員 古藪真紀子

(海外交流アドバイザー兼地域協働学習実施支援員)

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により全国一斉休校から始まった 2020 年度は、『外国市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創するスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～』(以下 SGL プログラム)を実施するにあたり、様々な制約や困難に直面する一年となった。特に、感染拡大防止対策として、3密(密閉・密集・密接)を避け、ソーシャルディスタンス(社会的距離)を保つことが求められる中、①異なる考えを容認し、共生しようとする人間、②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間、③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間、④人とのつながりを大切に、感謝のできる実践力に富んだ地域リーダーといった SGL プログラムの人材育成目的をどのように達成してくかが課題となった。これら目的のキーワードである「共生しよう」、「他者と協働」、「多くの人々と」、「人とのつながり」は、一見、コロナ感染対策とは相反する言葉のように思え、両方を実施することは難しいように思える。そうなのだろうか。本項では、コロナ禍、ウィズ・コロナ、アフター・コロナといった状況下、SGL プロジェクトが実施した 1. 地域協働活動への挑戦(特に(1)「地域協創プロジェクト」、(2)「2021 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」をどの様に実施したか。)について考察し、2. 今後に向けた提案を行うこととする。

## 1. 地域協働活動への挑戦

### (1) 地域協創プロジェクト

「地域協創プロジェクト」は、SGL プログラム 2 年生を対象に実施され、1 年次の「探究学習プログラム」や「地域協働プログラム」として実施された①スギ薬局の大金星体操支援活動、②子ども日本語教室、③花溢れる街づくりプロジェクトなどを通して得た経験や知識を発展させ、地域協働コンソーシアムと協働で、豊明市における課題をさらに深掘りし、その課題解決のための啓発素材(人の意識を変えるもの)を開発することが求められた。全 5 クラスは、それぞれ、①健康福祉と②多文化共生を大テーマとし、各クラス 6 班の小グループ(全 28 グループ)で、地域協働コンソーシアムの豊明市役所

の健康長寿課や市民協働課、豊明市社会福祉協議会、国際交流協会、商工会・青年会議所、スギ薬局などの一般企業と素材開発に取り組んだ。

その結果を大きくまとめると、健康福祉グループでは、特に、高齢者の認知症患者の増加や、引きこもりがちな高齢市民の健康づくりについての課題が挙げられた。多文化共生グループでは、日本語が分からない外国人市民の日本語学習や、防災知識など日本語が分からないために起こっている不便についての課題を明らかにした。その結果、表1にあるように、高齢者のための健康グルメマップやウォーキングマップ、外国人市民のための、日本語学習かるたやハザードマップなどの様々な啓発素材が開発された。

コロナ禍ならではの素材としては、より外出に制限が課されている独居高齢市民の孤独死や、高齢者の電気機器への抵抗を課題として、ネットを通して人とのつながりを得てもらおうと、ドコモらくらくスマートフォン簡単操作を動画して高齢者にも分かりやすいものにし、また、図1のように、若い世代ではあたりまえとなったリモートでの交流を促すようなポスターが開発された。

では、これら啓発素材を「地域協働」で開発するにあたり、どのようなチャレンジがあったのか。この探究過程は、通常であれば、対象者への聞き取りや調査を通して、対象者の課題を明らかにし、その課題解決のために開発しようとする啓発素材の必要性や

有効性を、エビデンスを用いて明確にする必要がある。また、関係者間で、議論しながら「協働」で進められる必要がある。しかし、コロナ禍において、人との接触を極力減らすことが求められ、また、特に対象者の一部が感染リスクの高い高齢者となれば、直接接触は回避せざるを得ない。そこで、SGLプログラムでは、地域の現状に熟知しているコンソーシアムの人材をステークホルダー兼アドバイザーとして、可能な限り、直接面談をし、状況に応じて電話などで対応していただき、情報やアドバイスを得て、課題を明確にしていった。また、対象者への聞き取りに関しても、ネットや電話などを通して、できる限りのエビデンスを集めた。例えば、坂道、グルメやハザードマッ

表1：開発啓発素材一覧	
<b>(健康福祉分野)</b>	
高齢市民の方に外国の料理を広める動画	
歩いて行こう！ 豊明市健康グルメマップ	
豊明市カフェ&喫茶店マップ	
坂道に負けない体づくり ～高齢市民を強くしよう～	
坂道マップ	
大蔵池公園・三崎水辺公園・勅使水辺公園でのウォーキングマップ	
高齢化による認知症患者の増加と健康寿命の増進	
認知症予防脳トレ	
健康チェック記録ノート	
「高齢者のリモート交流」のためのポスター	
星城高校 SGL × 豊明市俳句作家連盟 俳句コンテスト	
ドコモらくらくスマートフォン簡単操作動画	
豊明市高齢者お助けパンフレット	
<b>(多文化共生分野)</b>	
豊明市ひまわりバス&名鉄バス Transport Map	
ひまわりバスふりがな付き路線図&時刻表	
豊明市病院案内	
ベトナム人向け二村台ハザードマップ	
災害に備えていますか？・台風シーズン・避難必需品リスト	
豊明市コミュニケーション支援ボード（災害用）	
「明子ちゃんの日」紙芝居とすごろく	
あいうえお練習帳と日本語学習かるた	
ベトナム人向け豊明市観光地・名所案内動画	
豊明市歴史スタンプラリー	
「花の街 豊明」アルバム	
豊明カルタ	
図書館の特設コーナーで使用したもの	
多文化共生を目指そう！	
Twitter・Insagram で多文化共生と LGBT の情報拡散とポスター	

図1：「高齢者のリモート交流」のためのポスター



プ、観光地案内、スタンプラリーやアルバムなどを作成したグループは、自ら現地に足を運び、歩いて情報収集を行った。

これらは、開発した啓発素材の必要性や有効性を証明するのに十分とは言えないが、コロナ禍において様々な制約がある中でインターネットや電話というリモートでの方法を駆使した活動で、「共生しよう」、「他者との協働」、「ひととのつながり」といった人材育成目標を達成するために、十分な成果を挙げたとと言える。

## (2) 2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会

コロナ禍で様々なイベントが中止された今年度は、「全国高等学校フォーラム」についても、例外なく中止となった。それにより、一年間、社会課題の解決に向けて探究活動を行ってきた生徒が成果を発表・共有・発信する唯一の機会がなくなった。そこで、SGLプロジェクトが幹事校となり、「グローバル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、ふだん直接交流する機会が少ない全国の高校生が一堂に会して新たな気付きを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローバル探究の深化や意欲の向上を図る。」ことを目的

に、オンラインによる発表会を開催した。各校が発表動画を作成し、大会ホームページ上での視聴・投票を経て、オンライン発表会当日には、代表校による発表に加えて、参加校全校による取り組みがリレー方式で、紹介された。

全国対象校 37 校の内、34 校がエントリーしたことからも、全国発表会へのニーズの高さがうかがえる。オンライン発表会を通して、生徒は、全国様々なところで、自分たちと同じように社会の課題に対して、真剣に取り組んでいる仲間がいる事を知っただけでなく、直接接触はなくても、「多くの人々とのつながり」を持つことができるという事を経験できたのではないだろうか。コロナ禍で、大規模イベントが中止される中、オンライン発表会は、現状に沿った新しい試みであり、「実施する」か「実施しない」の二者択一ではなく、「実施する」には、「実施するために」どうすればよいか、その方法を検討し実行した新しい挑戦であったと言える。また、生徒間だけでなく、参加校間での情報も共有されたことで、今後の参加校間や参加校生徒間での協働の可能性が期待できる。

星城高校は、日本語部門での金賞と英語部門での銅賞を獲得した。例えば、金賞を受賞したグループは、外国市民の日本語習得の問題に注目し、豊明市国際交流協会と協働で、日本語を学ぶだけでなく豊明市の名所や歴史、観光スポットなどを合わせて学ぶことができる「豊明カルタ」(図2)を作成し、日本語教室で使用していくことで課題可決

図2：豊明カルタ



に取り組むというものであった。豊明市の特徴についてよく調べ、カルタ一枚一枚が興味深いものとなっており、国際交流協会と協働できていることから、活動に対する評価が高いことが分かる。また、国際交流協会の開催する日本語教室で、生徒自らが出向き、外国人児童を対象にカルタを使用し実証実験を行った。対象児童は楽しくカルタ取りに参加できたが、今後、定期的にカルタを使用し、その効果性や汎用性を検証できるとよい。

## 2. 今後に向けた提案

これまで述べてきた通り、新型コロナウイルス感染拡大という想定外の状況下で、教育・人材育成目標を達成するためのSGLプログラムの挑戦的取り組みは、十分に評価できるものである。しかし、同時に、様々な課題も見えてきたのではないだろうか。特に、「地域協創プロジェクト」と、「2021年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会」について、見えてきた課題を提示した上で、より効果的に実践していくために、以下の通り提案する。

### (1) 課題

人との接触が制限された今年度は、遠隔ツールを駆使して情報収集をしたものの、解決しようとする課題を明確にする十分なエビデンスの収集とはならなかった。課題の深掘りが十分にできていないため、開発された啓発素材は一般的で、高校生ならではの斬新的な開発が見られなかった。全国発表会で星城高校は日本語部門で金賞、英語部門で銅賞を獲得することができたが、各種特別賞を獲得した上位校の発表内容を検証すると、課題に対する十分な深掘りができていることが分かる。それに加え、新しいアイデアを実践し、社会との繋がりが見えるものが多かった。

また、地域協働コンソーシアムの各団体から協力を得ることができたが、「協働」するために必要な「イコール」の関係とは程遠い状況で、「コンソーシアム＝与える、生徒＝受ける」構造となっている事は否めない。コンソーシアムがボランティア的な立ち位置ではなく、SGLプログラムに参加することにより、何らかの利益を得ることができるウィンウィンの関係構築が必要である。

発表会運営に関しては、新たな試みであったため、教員主導で実施されたのは仕方がないが、初期段階から何らかの形で、生徒が参画できる仕組みがあるとよい。また、審査の過程で、それぞれの学校や審査員の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」のプログラム目的や「探究活動」についての認識の違いが見られ、審査結果に影響したと考えられる。

### (2) 提案

#### ・インフラ整備（インターネット、電話などの機材）

遠隔で情報収集・交流をする必要が、今後ますます増えてくることを考えると、生徒が探究活動に利用できる電話などの通信機器を設置する。

- ・ イノベーションを生み出すための考え方の創出

啓発素材の開発には、イノベーションが必要不可欠である。経済学者のヨーゼフ・アロイス・シュペンターは「イノベーションとは新結合である。」と言っている。これは、「既存の考え」と「既存の考え」を掛け合わせる事で、「新しい考え」を生み出すという理論である。体験的にイノベーションを生み出すことのできる教材（SDGs カードゲーム X（クロス）<sup>1</sup> など）を導入し、斬新的な啓発素材の開発に取り組む。

- ・ 地域協働コンソーシアムとの参加型ワークショップ

啓発素材を開発する際に、地域協働コンソーシアムと SGL プログラム生徒がそれぞれ同じ立場の参加者となり、それぞれの立場から意見を出し合うワークショップを実施する（教員がファシリテーターとなる）。そこから共通の認識を持った上で、対象者に対するフォーカスグループディスカッションを共同で実施する。

- ・ 全国高等学校グローバル探究オンライン発表会実行委員会の設立

SGL プログラムの 3 年次の活動として、生徒による実行委員会を設立し、内容の企画から対象校や関係者への連絡、運営、実施を行う。関係者間の認識を統一するための、オンラインセミナーなどを事前に実施する。

おわりに

コロナ禍の様々な制約の中で、SGL プログラムは感染拡大防止に十分な注意を払いながらも、状況に応じて新たな挑戦に挑み、プログラムの人材育成・教育目標達成に貢献した一年であった。今後のさらなる挑戦と、生徒から斬新的なアイデアが生まれることを期待する。

---

<sup>1</sup> 『SDGs をもっと身近に、もっと楽しく、一人ひとりのアクションにつなげるために』、金沢工業大学で社会課題解決型ビジネス（SDGs/BoP/ソーシャルビジネス）の研究をおこなう SDGs Global Youth Innovators とリバースプロジェクトによる有志チームにより開発されたカードゲーム（Rebirth Project, <https://www.rebirth-project.jp/the-sdgs-action-cardgame-x/>）

## あ と が き

星城高等学校 学監 伊藤 泰臣

令和2年12月25日付けで、文部科学省中等教育局高等学校改革推進室より『『スーパーグローバルハイスクールネットワーク』への参加希望について』という通知文が届きました。これは平成26年度から始まったスーパーグローバルハイスクール（以下、SGHと表記する。）指定校及びアソシエイト校を対象にSGHネットワークへの参加希望を募るもので、目的が次のように示されています。「SGH事業の成果を踏まえ、継続的発展的に取り組む高等学校等を中心としたネットワークを構築し、SGHの成果普及と持続可能なグローバル人材教育を推進することを目的とする。」

平成27年度に文部科学省からSGHアソシエイト校の指定を受けた本校は、「持続可能なアジアの発展及び社会の創生に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成」を目標に掲げ、SGHアソシエイト活動を仰星コースの教育課程に組み入れた探究学習を進めてきました。この2月に卒業した仰星コースの50名の生徒は、星城高校版スーパーグローバル教育プログラムによる探究学習に取り組んだ最後の学年であり、本校が昨年度新たに文部科学省から指定を受け、仰星コースと特進コースの1・2年生が取り組んでいる「地域との協働による高等学校教育改革推進事業〔グローバル型〕」による探究学習（スーパーグローバル・リーダー育成活動。以下、SGLと表記する。）は、SGHアソシエイトの成果の継承・発展を意図して計画されたものでした。SGLは「外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト」をテーマとして掲げていますが、これはSGHアソシエイトがテーマとしてきた「多文化共生」と「健康福祉」との共通性や連続性を保持するものとして設定されました。仰星コース・特進コースの全学年が「SGL地域協創学」（総合的な探究の時間）と「SGL語学」（学校設定教科）に取り組むこととなる新年度を前にして、今回のSGHネットワークに関する通知は、SGHアソシエイトとSGLとの連続性を改めて学校全体で確認する、大変良い機会になると思いました。

文部科学省通知を受け、今年度から学校運営の分掌組織として新設されたSGL開発部が作成したSGHネットワーク参加申込書の中から、SGHアソシエイト活動からSGL活動への連続性についてまとめた箇所を、以下に示します。

### ○「SGHにおける取組の概要について」

『持続可能なアジアの発展に寄与できる、実践力を有するグローバル・リーダーの育成 With Your Views For Tomorrow』を目標に掲げて探究活動を展開してきた。具体的には「①コミュニケーション力と発信力、②異なる考えを容認する力、③社会貢献力、④知識を行動に変える実践力、⑤想像力と創造力、⑥国際的説得力・調整力」を生徒育成の観点にし、アジアンシチズンとしてアジアとの共存共栄の実現を目指した課題研究・研究発表を実践してきた。また、星城大学や名古屋大学、ブラザー工業(株)、JICA中部、

豊明市などの協力を得て、アジア学講座やベトナム海外研修、イングリッシュキャンプなどのグローバルな視点での体験型探究活動にも取り組み、生徒主体の SGH 活動をつくりあげてきた。

#### ○「SGL 活動への継承について」

4年間の SGH 活動を経て、グローバルな視点での探究活動の内容の多くが、地元の地域社会が抱える課題と密接に関係していることに気づいた。地元豊明市が抱える外国人市民と高齢市民に関わる諸問題について、グローバルな視点での学びをローカルな視点での地域活動につなげていき、それを世界に発信していくことを次の探究活動の根幹に据えることにした。この構想をもとに令和元年度より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型」の研究開発指定を受け、提言だけでなく実践を伴う探究学習に取り組んでいる。

また本通知文には、SGH ネットワークへの参加規程が次の 5 点にわたり示されています。

- (1) 各学校において育成を図るグローバル人材像を設定し、当該人材像を踏まえ、卒業時に生徒が身に付けることのできる資質・能力を具体的かつ明確に定め、公表していること。
- (2) グローバル人材育成に資する課題研究又は先進的な課題研究等の実績を踏まえた、グローバル人材育成に資する発展的な実践に取り組む教育課程等を編成していること。
- (3) 国内外の高等学校・大学・国際機関等との連携により、より実践的で高度な学習活動が行われていること。
- (4) グループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト型学習等の手法が、外国語によるものも含め、生徒の主体的な学びを促すものとして効果的に取り入れられていること。
- (5) 一定期間ごとに、SGH ネットワークへの参加に関する取組を含め、自己評価を実施するとともに、学校関係者評価の実施に努め、その結果を公表すること。

グローバルな視点をもってコミュニティーを支える地域のリーダー育成を目的に掲げるグローバル型研究指定校の活動内容は、当然ながら上記 5 点の規定に重なるものでなくてはなりません。SGH ネットワークへの参加申請を行うこの機会に、参加申込書の中から規定の各項目に対する本校の取組内容を以下に示し、来年度に向けての SGL 活動、さらにはこれからの高等学校教育に求められる探究学習への理解を、学校全体で共有していければと思います。

#### ○(1)について

探究活動を通して育成するグローバル人材像は、「グローバルな視点をもって①異なる考えを容認し、共生しようとする人間、②他者と協働して問題解決を図ろうとする人間、③自らの考えを発信して多くの人々と新たなものを協創できる人間、④人との繋がりを大切にし、感謝のできる実践力に富んだ地域のリーダー」である。そして生徒が身に付けることができる資質・能力は「①自ら行動する力【主体性】、②人々をつながる力【協



働性】、③解決策を探る力【探究力】、④相手に伝える力【発信力】である。これらの内容は学校公式 HP の当事業関連ページ及び令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型研究開発実施報告書「1. 研究開発の概要、7. 活動評価と目標設定の達成度」で公表している。

#### ○(2)について

『外国人市民と高齢市民が輝く新たな架け橋プロジェクト～新たなコミュニティーを協創できるスーパーグローバル・リーダー(SGL)の育成～』と探究テーマに設定し、「Rainbow Bridge Project! -Think Globally, Act Locally-」を合言葉にグローバルな視点をもって地域課題解決を目指した探究学習を展開している。教育課程の中に全員参加型の海外研修や第2外国語学習、JICA 海外開発支援講座などを組み入れることでグローバルな視点を育み、それをもとに地域課題を解決するための調査・提言・実践に生徒が主体的に取り組んでいる。これらの内容は学校公式 HP の当事業関連ページ及び令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型研究開発実施報告書「1. 研究開発の概要、3. 研究開発の内容、5. マレーシア海外研修の研究開発」で公表している。

#### ○(3)について

豊明市、豊明市教育委員会、星城大学（経営学部・リハビリテーション学部）、愛知県立豊明高等学校、豊明市国際交流協会、豊明市社会福祉協議会、株式会社スギ薬局、ARMS 株式会社、豊明市商工会、豊明市青年会議所と地域協働コンソーシアムを構築し、外国人児童子ども日本語教室支援学習や高齢者体操教室支援学習、海外研修での現地交流、第2外国語学習、地域協働活動、地域課題解決を目指した啓発素材の共同開発などの学習活動に協働で取り組んでいる。また、名古屋大学大学院国際開発研究科の先生に海外交流アドバイザーと地域協働学習実施支援員として学習活動開発に支援をいただいている。これらの内容は学校公式 HP の当事業関連ページ及び令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型研究開発実施報告書「1. 研究開発の概要、2. 研究開発の組織、3. 研究開発の内容」で公表している。

#### ○(4)について

探究学習の多くは探究グループでの生徒主体のプロジェクト型学習となる。1年生の花溢れる街づくりプロジェクトでは外国人市民・高齢市民との協働花壇づくりの実践を通して、「共生・協働」の大切さを学ぶ。2年生の地域協創プロジェクトでは市役所や企業などと地域課題解決を目指した啓発素材開発で「協創」を実践する。どちらのプロジェクトでも成果発表をポスターセッション形式で発表する。3年生では探究成果を論文形式でまとめる。ネイティブ教員による英語授業だけでなく、第2外国語としてベトナム語学習にも取り組み、マレーシア研修では英語、ベトナム研修ではベトナム語でのコミュニケーションを実践する場とする。これらの内容は学校公式 HP の当事業関連ページ及び文部科学省研究開発担当者会議グローバル型実践発表資料に記載している。

○(5)について

生徒が実施するルーブリック評価表による自己評価を集計する。それを実行委員会、開発部会で教員が分析し、管理職教員で組織する開発会議で改善方針などを決定する。また、運営指導委員会を組織し、元県教育長、元県教育委員会学習教育部長、名古屋大学大学院准教授、豊明市役所幹部職員などの各委員から自己評価をもとに指導を受ける。また、地域協働コンソーシアム会議を定期的に行き、各団体の代表者と評価をもとに地域協働活動の内容について改善点や新たな取組を検討する。これらの概要は令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型研究開発実施報告書「2. 研究開発の組織、7. 活動評価と目標設定の達成度」で公表している。

末筆になりましたが、本校のSGL活動を推進するにあたり、「協創」の意義をご理解いただき共に活動していただいたコンソーシアム諸機関の皆様、地域協創学の授業にご参加いただいた地域の皆様、研究諸機関の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

---

地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型  
令和2年度研究開発実施報告書【第2年次】

令和3年3月10日印刷

令和3年3月15日発行

発行者 名古屋石田学園星城高等学校  
代表者 校長 四方 元

〒470-1161 愛知県豊明市栄町新左山20

TEL 0562-97-3111(代表)

印刷所 名英図書出版

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-4-10

---

